

科目名	文章表現法基礎編B (FB22A010)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 1時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス (講義の概要、進め方、評価方法等の説明) 大学で求められるレポートについて学ぶ 感想文とレポートの違い、事実と意見の違い、レポートの構成 (序論、本論、結論) を説明する。
2回	論理的な文章の書き方について説明する。 パラグラフライティング、ロジックツリーの作成、演繹法、帰納法、三段論法等を説明する。
3回	レポートを書くときの決まり事について説明する。 引用の仕方や参考文献の書き方、学術文章にふさわしい文体等について説明する。
4回	レポート作成前に準備すべき事柄について説明する。 良いレポートと悪いレポートを比較する。
5回	レポート作成ワーク テーマに基づき、レポートを作成する。
6回	ビジネス文書の基本について説明する。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を説明する。
7回	ビジネス文書作成ワーク ビジネス文書を作成する。
8回	1回目～7回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1回	予習として、レポートと感想文の違いを理解しておくこと。(標準学修時間120分)
2回	予習としてレポートの基本構造を理解しておくこと。(標準学修時間120分)
3回	予習として、テーマに基づく参考文献を図書館等で探しておくこと。(標準学修時間120分)
4回	予習として関心のある領域の学術論文を探し、それを読んでおくこと。(標準学修時間120分)
5回	予習としてテーマに基づく結論、主張・根拠を考え、アウトラインを作成しておくこと。(標準学修時間120分)
6回	予習として、ビジネス文書には、どのような種類があるのかを調べておくこと。(標準学修時間120分)
7回	予習として、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと。(標準学修時間120分)
8回	これまでの学んだことを復習し、実際に文章を書く練習を行うこと。(標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、レポートおよび論文等の文書作成に必要な基本技能を修得することである。 レポート例を参考にしながら、レポートの基本的なルール (文体・引用等)、構成 (パラグラフライティング等)、書式等を理解する。文章に対する苦手意識を克服できるよう、ペアワークやグループワークを行いながら、レポート作成の手順を学び、1200字程度の学術的なレポートを完成させる。 また、他の講義のレポート課題やビジネスでの文書にも応用できるよう、汎用的な文章の書き方を学ぶ。 (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	①大学で求められるレポートについて、友達に3分間で説明することができる (E)。 ②論理的な文章の構成方法とその書き方について、友達に3分間で説明することができる (E)。 ③レポートを書く際の決まり事を守って、レポートを作成することができる (E)。 ④チェックシートの内容にしたがい、レポートを書くことができる (E)。 ⑤ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を使って、ビジネス文書を作成できる (E)。
キーワード	レポート、資料の活用、論理表現、ビジネス文書
成績評価 (合格基準60)	・ワークシート (30%) ・小テスト (30%) ・課題提出 (40%) より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。 ※3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。

	※1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。
関連科目	学びの基礎論A・B、文章表現法基礎編A、プレゼンテーションA・B
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
注意・備考	・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしまっておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・本授業は、アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。 ・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。
試験実施	実施しない

科目名	日本の文化と歴史 I B (FB22A020)
英文科目名	Culture and History of Japan I B
担当教員名	西野雅二＊ (にしのまさじ＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 1時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	日本の新聞各紙および岡山の地方紙について説明する。
2 回	新聞記事のなかで、比較的読みやすく、また日本の文化や社会を見ることができるものとして、読者の投書欄がある。これらを資料として配布し、声に出して読めるように指導する。さらに、内容理解、ならびに口頭での日本語の上達を目指し、口頭発表をしてもらうよう指導する。
3 回	新聞記事のなかで、比較的読みやすく、また日本の文化や社会を見ることができるものとして、読者の投書欄がある。これらを資料として配布し、声に出して読めるように指導する。さらに、内容理解、ならびに口頭での日本語の上達を目指し、口頭発表をしてもらうよう指導する。
4 回	新聞記事のなかで、比較的読みやすく、また日本の文化や社会を見ることができるものとして、読者の投書欄がある。これらを資料として配布し、声に出して読めるように指導する。さらに、内容理解、ならびに口頭での日本語の上達を目指し、口頭発表をしてもらうよう指導する。
5 回	新聞記事のなかで、比較的読みやすく、また日本の文化や社会を見ることができるものとして、読者の投書欄がある。これらを資料として配布し、声に出して読めるように指導する。さらに、内容理解、ならびに口頭での日本語の上達を目指し、口頭発表をしてもらうよう指導する。
6 回	これまでで見てきた岡山や日本の文化や社会について、文章により表現ができるように指導する。
7 回	これまでで見てきた岡山や日本の文化や社会について、文章により表現ができるように指導する。
8 回	前半はこれまでの復習を行う。後半に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	日本にはどのような新聞があるのか、岡山の地方紙にはどのようなものがあるのか、調べておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	配布資料に目を通し、日本語として読めない漢字があれば、読み方を予習しておくこと。また、講義終了後は、文章が口頭でスラスラと読めるよう、何度も読んで練習しておくこと。さらに、新聞記事の中で見た文化や社会について整理しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	配布資料に目を通し、日本語として読めない漢字があれば、読み方を予習しておくこと。また、講義終了後は、文章が口頭でスラスラと読めるよう、何度も読んで練習しておくこと。さらに、新聞記事の中で見た文化や社会について整理しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	配布資料に目を通し、日本語として読めない漢字があれば、読み方を予習しておくこと。また、講義終了後は、文章が口頭でスラスラと読めるよう、何度も読んで練習しておくこと。さらに、新聞記事の中で見た文化や社会について整理しておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	配布資料に目を通し、日本語として読めない漢字があれば、読み方を予習しておくこと。また、講義終了後は、文章が口頭でスラスラと読めるよう、何度も読んで練習しておくこと。さらに、新聞記事の中で見た文化や社会について整理しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	自分のことばで新聞記事などに見られた日本文化について作文ができるようにしておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	自分のことばで新聞記事などに見られた日本文化について作文ができるようにしておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	これまでの復習をしっかりとっておき、試験に備えること。(標準学習時間180分)

講義目的	新聞読者による投書記事や比較的簡単に読める記事等を読みながら、留学生に、日本の文化や歴史を背景とした日本人の考え方について理解を深めもらい、日本での生活と日本語により一層なじんでもらうことを目的とする。(教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する)
達成目標	新聞投書欄の記事や比較的簡単な内容のコラム等を理解し、それに対して留学生が日本語での自分の言葉で賛否などの表現ができるようになること。
キーワード	日本文化、日本語表現、昔話
成績評価(合格基準60)	小テスト(30%)および最終評価試験(70%)による。
関連科目	日本の文化と歴史IA
教科書	プリント(資料)を配布する。
参考書	適宜、指示する。
連絡先	

注意・備考	※中国からの留学生の場合、日本の漢字と中国語簡体字の違いに注意すること。 ※辞書（電子辞書でよい）を携行すること。
試験実施	実施する

科目名	心理学B (FB22A030)
英文科目名	Psychology B
担当教員名	鉄川大健＊ (てつかわひろかつ＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 1時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	認知と注意について概説し、エラーが起きるメカニズムについて学ぶ
2 回	認知スタイルについて学び、文化が心に与える影響について知る
3 回	発達の理論を概説し、心の成り立ちについて考える
4 回	生涯発達の視点から、人の一生についてその過程を説明する
5 回	自己とは何か、私たちは自己をどのように捉えているかについて知る
6 回	対人関係の形成、対人魅力について知る
7 回	集団における人の心について学ぶ
8 回	認知、発達、社会心理について学んだことを復習し、最終評価試験を行う

回数	準備学習
1 回	認知とは何か、言葉の意味を調べておくこと(120分)
2 回	前回の授業内容を振り返り、認知の仕組みを説明できるようにしておくこと(120分)
3 回	これまで学んできた心についての理論を振り返り、心がどのように発達してきたのか考えておくこと(120分)
4 回	前回の授業内容を復習することと、現在の自分自身の発達段階について考えること(120分)
5 回	自己について考えるにあたって、自分自身について知っていることを整理しておくこと(120分)
6 回	前回の授業内容を復習することと、親しい人たちとの関係がどのように築かれてきたかを振り返っておくこと(120分)
7 回	前回の授業内容を復習することと、自分自身が所属している集団は何かを把握しておくこと(120分)
8 回	授業内容を振り返り、これまで自分が心についてもっていた考え方と、授業で学んだことの対応を整理しておくこと(180分)

講義目的	認知心理学、発達心理学、社会心理学の基礎を学習し、人の心の成り立ちや、社会・文化が人の心に及ぼす影響などについて学ぶ。(教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する)
達成目標	心理学の基礎領域について理解を深め、人の心についての科学的な研究方法を知ること、日常経験を通して得られた自らの問題意識との関連を考察し、それらを文章で説明できるようになることを目標とする。
キーワード	認知、パーソナリティ、発達、社会、臨床、こころ
成績評価 (合格基準60)	各講義後に提出する小レポート (35%)、講義内容の理解についての最終評価試験 (65%) により、総合的に成績を評価する。
関連科目	心理学A、社会心理学、教育心理学
教科書	「心理学・臨床心理学概論【第三版】」／山脇圭輔／北樹出版／ISBN:978-4-7793-0462-0
参考書	「ベーシック心理学」／二宮克美編／医歯薬出版株式会社／ISBN:978-4-263-42223-6 他、授業中に適宜紹介する。
連絡先	初回の授業で伝達する
注意・備考	特になし
試験実施	実施する

科目名	学びの基礎論B (FB22B010)
英文科目名	Introduction to Life Long Learning B
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう), 松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス図書館の活用の仕方情報収集の仕方と図書館の利用方法について説明する。 (西村 次郎, 松尾 美香)
2回	本のレビューとレコメンド本を読んだ評価を他の学生に情報として伝える批評・評論 (レビュー) と推薦文 (レコメンド) について説明する。 (西村 次郎, 松尾 美香)
3回	アカデミックライティングレポートとは何か、レポートの作成手順について説明する。 (西村 次郎, 松尾 美香)
4回	効果的なアカデミックライティング分かりやすい文および分かりやすい表現方法を説明する。 (西村 次郎, 松尾 美香)
5回	プレゼンテーションスキルプレゼンテーションの基本スキルについて説明する。 (西村 次郎, 松尾 美香)
6回	プレゼンテーションスライドの作成 (全教員)
7回	課題発表と振り返りプレゼンテーションを行い、ピア・レビューを実践する。 (西村 次郎, 松尾 美香)
8回	課題発表と振り返りプレゼンテーションを行い、ピア・レビューを実践する。 (西村 次郎, 松尾 美香)

回数	準備学習
1回	図書館に行き、OPAC検索を行い、関心がある書籍を1冊借り、読んでおくこと。(標準学修時間120分)
2回	読んだ本の要点をまとめておくこと(標準学修時間120分)
3回	与えたテーマから、レポートを作成しておくこと(標準学修時間120分)
4回	11回目まで学習したことを参考に、レポートを修正しておくこと(標準学修時間120分)
5回	予習として、岡山理科大学について、図書館やインターネット上の資料を使って調べてくる。また、その内容を整理しておくこと(標準学修時間120分)
6回	予習として、前回の内容を文章にまとめてくる。なお、この文章を使ってスライドを作成することに留意すること(標準学修時間120分)
7回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるように予習しておくこと。(標準学修時間120分)
8回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるように予習しておくこと。(標準学修時間120分)

講義目的	新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機づけを行うとともに、基礎的な学習技術を修得させることである。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	①グループワークにおいて積極的にコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を築くことができる (E)。②第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる (E)。③自分の考えをまとめプレゼンテーションすることができる (E)。
キーワード	学び、人間力、コミュニケーション、アカデミックスキル
成績評価 (合格基準60)	・ワークシートの提出 (30%) ・レポート (30%) ・課題発表 (40%) により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。＊早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は3

	0分ま で、それ以降の入室は認めない。＊課題発表、グループワークの欠席の場合は、その時点で評価対象としない。
関連科目	学びの基礎論A、地域フィールドスタディ、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーションA・B
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	西村（次）研究室:jiro@ee.ous.ac.jp松尾研究室:matsuo@are.ous.ac.jp オフィスアワーについては、mylogを参照のこと。
注意・備考	・本授業は学びの基礎論Aを受講していることがのぞましい。 ・授業中の飲食・私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしまっておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日、配布には応じない。 ・当日、欠席により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。 ・提出課題については講義においてフィードバックする。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。理由がある場合は事前に申し出ること。 ・この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法基礎編B (FB22B020)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	尾崎美恵＊ (おぎきみえ＊)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	③「大切なもの(事)」の完成文とキャッチコピーを指導する。
2回	④「将来したい事」を通じて自己体験の分析をする。
3回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に④「将来したい事」を指導する。
4回	④「将来したい事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
5回	⑤「私のターニングポイント」を通じて自己分析を指導する。
6回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に⑤「私のターニングポイント」を指導する。
7回	⑤「私のターニングポイント」の完成文とキャッチコピーを指導する。
8回	「最終評価試験」を実施する。授業内容の確認をする。

回数	準備学習
1回	④「将来したい事」アウトラインを作成すること。 ④「将来したい事」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
2回	④「将来したい事」文章を作成すること。 ④「将来したい事」キャッチコピーを修正すること。(標準学習時間120分)
3回	④「将来したい事」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
4回	⑤「私のターニングポイント」アウトラインを作成すること。 ⑤「私のターニングポイント」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
5回	⑤「私のターニングポイント」キャッチコピーを作成すること。 ⑤「私のターニングポイント」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
6回	⑤「私のターニングポイント」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
7回	総括として「すごのお母さん、EUの大統領と会う」のキャッチコピーの完成文を提出すること。 (標準学習時間120分)
8回	「最終評価試験」の準備をすること。

講義目的	キャッチコピーでエントリーシートを完成させる。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	自分の体験や意思を明確に表現できる。 個々のテーマに沿って、自分の過去、現在、未来の出来事を通して自己分析できる。 決められた文字数で説得力のある文章を作成できる。
キーワード	自分の長所も短所もそれを味方につけて相手の関心を引き込もう。
成績評価(合格基準60)	テーマ別エントリーシート「私の得意な事」「辛かった体験」「私の大切なもの(事)」「私が将来したい事」「私のターニングポイント」等の提出課題40%と試験20%、総括として「すごのお母さん、EUの大統領と会う」のキャッチコピー完成文提出40%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「すごのお母さん、EUの大統領と会う」/ 著者尾崎美恵 / 出版社文芸春秋出版

参考書	なし 必要に応じて配布
連絡先	cool@muchujin.jp
注意・備考	受講者数の上限を50名とする。 講義の性格上、毎回文章作成の課題があり、課題も授業も厳しいことを理解した上で、受講すること。 原則として、自宅では自己分析と文章校正に時間を割き、講義はあくまでもその問題点を修正するように努める。毎回の課題提出をいい加減にしている場合は出席日数を満たしていても、単位修得は無理である。作成課題については添削指導を行い、返却する。
試験実施	実施する

科目名	比較文化論B (FB22B030)
英文科目名	Comparative Cultures B
担当教員名	辻維周 (つじまさちか)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア1)
2回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア2)
3回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア3)
4回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア4)
5回	・太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア5) ・グループワークのためのグループ分け
6回	グループワーク1 (グループ内で自分の生まれた土地と文化を話し合う)
7回	グループワーク2 (グループ内で自分の生まれた土地と文化を話し合う)
8回	まとめ,最終評価試験

回数	準備学習
1回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
2回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
3回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
6回	自分が生まれ育った町の文化を捉えておくこと。(標準学習時間120分)
7回	6回目で話し合ったことを検証しておく。(標準学習時間90分)
8回	今までの事を反芻し、最終評価試験に備えておく。(標準学習時間120分)

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけでも言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。(教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する)
達成目標	少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できるような人間になること。また「日本では」「国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が出来る人間になる事。
キーワード	視野をうんと広く持ってみよう。そうすれば自分の知っている世界が変わって見える。
成績評価 (合格基準60)	グループワークでの発表を100点満点、最終評価試験40点満点とし、60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「異文化理解」岩波新書 青木保著
参考書	「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会
連絡先	ous.tsuji@gmail.com
注意・備考	・この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加が出来ることは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。
試験実施	実施する

科目名	心理学B（FB22B040）
英文科目名	Psychology B
担当教員名	鉄川大健＊（てつかわひろかつ＊）
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	認知と注意について概説し、エラーが起きるメカニズムについて学ぶ
2回	認知スタイルについて学び、文化が心に与える影響について知る
3回	発達の理論を概説し、心の成り立ちについて考える
4回	生涯発達の視点から、人の一生についてその過程を説明する
5回	自己とは何か、私たちは自己をどのように捉えているかについて知る
6回	対人関係の形成、対人魅力について知る
7回	集団における人の心について学ぶ
8回	認知、発達、社会心理について学んだことを復習し、最終評価試験を行う

回数	準備学習
1回	認知とは何か、言葉の意味を調べておくこと(120分)
2回	前回の授業内容を振り返り、認知の仕組みを説明できるようにしておくこと(120分)
3回	これまで学んできた心についての理論を振り返り、心がどのように発達してきたのか考えておくこと(120分)
4回	前回の授業内容を復習することと、現在の自分自身の発達段階について考えること(120分)
5回	自己について考えるにあたって、自分自身について知っていることを整理しておくこと(120分)
6回	前回の授業内容を復習することと、親しい人たちとの関係がどのように築かれてきたかを振り返っておくこと(120分)
7回	前回の授業内容を復習することと、自分自身が所属している集団は何かを把握しておくこと(120分)
8回	授業内容を振り返り、これまで自分が心についてもっていた考え方と、授業で学んだことの対応を整理しておくこと(180分)

講義目的	認知心理学、発達心理学、社会心理学の基礎を学習し、人の心の成り立ちや、社会・文化が人の心に及ぼす影響などについて学ぶ。（教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する）
達成目標	心理学の基礎領域について理解を深め、人の心についての科学的な研究方法を知ること、日常経験を通して得られた自らの問題意識との関連を考察し、それらを文章で説明できるようになることを目標とする。
キーワード	認知、パーソナリティ、発達、社会、臨床、こころ
成績評価（合格基準60）	各講義後に提出する小レポート（35%）、講義内容の理解についての最終評価試験（65%）により、総合的に成績を評価する。
関連科目	心理学A、社会心理学、教育心理学
教科書	「心理学・臨床心理学概論【第三版】」／山脇圭輔／北樹出版／ISBN:978-4-7793-0462-0
参考書	「ベーシック心理学」／二宮克美編／医歯薬出版株式会社／ISBN:978-4-263-42223-6 他、授業中に適宜紹介する。
連絡先	初回の授業で伝達する
注意・備考	特になし
試験実施	実施する

科目名	倫理と宗教B (FB22B050)
英文科目名	Ethics and Religion B
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および倫理・道徳とは何かを説明する。
2 回	古代インド宗教の倫理 (戒律、業の法則等) を説明する。
3 回	古代中国宗教の倫理 (儒教道徳) を説明する。
4 回	日本の伝統的倫理を説明する。
5 回	現代の倫理 (1) - 死刑問題を取り上げて、倫理的に考える。
6 回	現代の倫理 (2) - 自死 (尊厳死・安楽死を含む) 問題を取り上げて、倫理的に考える。
7 回	現代の倫理 (3) - 脳死臓器移植問題を取り上げて、倫理的に考える。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、「倫理・道徳とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。(標準学習時間30分)
2 回	前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
4 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
5 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	本講義では、日本人の考え方にも大きな影響を与えた、古代インド、中国宗教の倫理を中心に、主として東洋の倫理思想を学ぶ。そのうえで、現代の私たちに直接かかわりのあるいくつかの問題について、倫理学的な視点から多角的に考察できるようになることが、本講義の最終的な目的である。(教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する)
達成目標	①倫理の学習に最低限必要な知識を身につけ、自分の言葉できちんと説明することができる。 ②各宗教と思想家の見解を比較し、それらの間の共通点、相違点を見出すことができる。 ③哲学者・宗教家の倫理に関する思考を体験し、日常生活に役立てることができる。
キーワード	倫理、宗教、哲学、思想、東洋哲学

成績評価（合格基準60	成績評価と基準は明確に記入。出席回数は点数化しない。※「レポートと試験により評価する」、「授業態度により評価する」、「平常点により評価する」といったあいまいな表現は不可。例）提出課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。但し、最終評価試験において基準点を設け、得点が100点満点中、60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	倫理と宗教A、哲学
教科書	特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。
参考書	参考書は、授業内で適宜、紹介する。
連絡先	
注意・備考	・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。 ・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。 ・受講生が100名を超える場合、受講を制限することがある。
試験実施	実施する

科目名	学びの基礎論B (FB22C010)
英文科目名	Introduction to Life Long Learning B
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう), 松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス図書館の活用の仕方情報収集の仕方と図書館の利用方法について説明する。 (全教員)
2回	本のレビューと Recommend 本を読んだ評価を他の学生に情報として伝える批評・評論 (レビュー) と推薦文 (Recommend) について説明する。 (全教員)
3回	アカデミックライティングレポートとは何か、レポートの作成手順について説明する。 (全教員)
4回	効果的なアカデミックライティング分かりやすい文および分かりやすい表現方法を説明する。 (全教員)
5回	プレゼンテーションスキルプレゼンテーションの基本スキルについて説明する。 (全教員)
6回	プレゼンテーションスライドの作成 (全教員)
7回	課題発表と振り返りプレゼンテーションを行い、ピア・レビューを実践する。 (全教員)
8回	課題発表と振り返りプレゼンテーションを行い、ピア・レビューを実践する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	図書館に行き、OPAC検索を行い、関心がある書籍を1冊借り、読んでおくこと。(標準学修時間120分)
2回	読んだ本の要点をまとめておくこと(標準学修時間120分)
3回	与えたテーマから、レポートを作成しておくこと(標準学修時間120分)
4回	11回目で学習したことを参考に、レポートを修正しておくこと(標準学修時間120分)
5回	予習として、岡山理科大学について、図書館やインターネット上の資料を使って調べてくる。また、その内容を整理しておくこと(標準学修時間120分)
6回	予習として、前回の内容を文章にまとめてくる。なお、この文章を使ってスライドを作成することに留意すること(標準学修時間120分)
7回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるように予習しておくこと。(標準学修時間120分)
8回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるように予習しておくこと。(標準学修時間120分)

講義目的	新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機づけを行うとともに、基礎的な学習技術を修得させることである。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	①グループワークにおいて積極的にコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を築くことができる (E)。②第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる (E)。③自分の考えをまとめプレゼンテーションすることができる (E)。
キーワード	学び、人間力、コミュニケーション、アカデミックスキル
成績評価 (合格基準60)	・ワークシートの提出 (30%) ・レポート (30%) ・課題発表 (40%) により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。＊早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は3

	0分ま で、それ以降の入室は認めない。＊課題発表、グループワークの欠席の場合は、その時点で評価対象としない。
関連科目	学びの基礎論A、地域フィールドスタディ、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーションA・B
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	西村（次）研究室:jiro@ee.ous.ac.jp松尾研究室:matsuo@are.ous.ac.jp オフィスアワーについては、mylogを参照のこと。
注意・備考	・本授業は学びの基礎論Aを受講していることがのぞましい。 ・授業中の飲食・私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしまっておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日、配布には応じない。 ・当日、欠席により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。 ・提出課題については講義においてフィードバックする。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。理由がある場合は事前に申し出ること。 ・この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法基礎編B (FB22C020)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	尾崎美恵＊ (おぎきみえ＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	③「大切なもの(事)」の完成文とキャッチコピーを指導する。
2 回	④「将来したい事」を通じて自己体験の分析をする。
3 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に④「将来したい事」を指導する。
4 回	④「将来したい事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
5 回	⑤「私のターニングポイント」を通じて自己分析を指導する。
6 回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に⑤「私のターニングポイント」を指導する。
7 回	⑤「私のターニングポイント」の完成文とキャッチコピーを指導する。
8 回	「最終評価試験」を実施する。授業内容の確認をする。

回数	準備学習
1 回	④「将来したい事」アウトラインを作成すること。 ④「将来したい事」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
2 回	④「将来したい事」文章を作成すること。 ④「将来したい事」キャッチコピーを修正すること。(標準学習時間120分)
3 回	④「将来したい事」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
4 回	⑤「私のターニングポイント」アウトラインを作成すること。 ⑤「私のターニングポイント」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
5 回	⑤「私のターニングポイント」キャッチコピーを作成すること。 ⑤「私のターニングポイント」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
6 回	⑤「私のターニングポイント」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
7 回	総括として「すごいお母さん、EUの大統領と会う」のキャッチコピーの完成文を提出すること。 (標準学習時間120分)
8 回	「最終評価試験」の準備をすること。

講義目的	キャッチコピーでエントリーシートを完成させる。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	自分の体験や意思を明確に表現できる。 個々のテーマに沿って、自分の過去、現在、未来の出来事を通して自己分析できる。 決められた文字数で説得力のある文章を作成できる。
キーワード	自分の長所も短所もそれを味方につけて相手の関心を引き込もう。
成績評価(合格基準60	テーマ別エントリーシート「私の得意な事」「辛かった体験」「私の大切なもの(事)」「私が将来したい事」「私のターニングポイント」等の提出課題40%と試験20%、総括として「すごいお母さん、EUの大統領に会う」のキャッチコピー完成文提出40%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「すごいお母さん、EUの大統領と会う」/ 著者尾崎美恵 / 出版社文芸春秋出版

参考書	なし 必要に応じて配布
連絡先	cool@muchujin.jp
注意・備考	受講者数の上限を50名とする。 講義の性格上、毎回文章作成の課題があり、課題も授業も厳しいことを理解した上で、受講すること。 原則として、自宅では自己分析と文章校正に時間を割き、講義はあくまでもその問題点を修正するように努める。毎回の課題提出をいい加減にしている場合は出席日数を満たしていても、単位修得は無理である。作成課題については添削指導を行い、返却する。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編B (FB22C030)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	崎重敏幸＊ (さきしげとしゆき＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	「日本を知る (1)」について説明する。
2 回	「日本を知る (2)」について説明する。
3 回	「日本を知る (3)」について説明する。
4 回	「読書のすすめ」について説明する。
5 回	「自己啓発 (1)」について説明する。
6 回	「自己啓発 (2)」について説明する。
7 回	就職に向けて、採用者側の視点から説明する。
8 回	「敬語の使い方」について説明する。 ●最終評価試験

回数	準備学習
1 回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
2 回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
3 回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	読書の意味について考えておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	自己啓発について考えておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	自己啓発について考えておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	履歴書の書き方について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	敬語の種類、使い方について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分) ●今まで学習してきたことを復習しておくこと。 (標準学習時間 1 8 0 分)

講義目的	1. 生涯を通じての「学び」の意味について考える。 2. 「読書」をする目的・意義を理解し、人生を豊かにしてくれたり、生きる指針や勇気を与えてくれることや、知識や知恵を学べることに取り組む。 3. グローバリゼーション (国境がない) の状況において、外国人に、日本の良さをアピールする大切さを学ぶ。 (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1. 「自己啓発」に取り組むことができる。 2. 「読書感想文」が書けるようになる。 3. 「日本の世界遺産」 (現在 2 1 件) の内容・特色を理解し、外国人に、日本の良さを紹介することができるようになる。
キーワード	・ 目的意識 ・ 基礎知識 ・ 実行力
成績評価 (合格基準 60)	1. 授業における「提出課題」「小テスト」＋ 時間外における「提出課題」 ・ ・ ・ 5 0 % 2. 最終評価試験 ・ ・ ・ 5 0 %

	● 1. と 2. の総計で、得点率 60%以上を合格とする。
関連科目	・プレゼンテーション基礎編
教科書	・「60歳からの健康人生」／執筆者代表 崎重敏幸／ 株式会社 ライフ・サポート／ ISBN978-4-9907110-0-9 ・資料を配布する。
参考書	・適宜指示する。
連絡先	info@hiroshima-life.jp
注意・備考	・授業における「課題」「小テスト」については、授業終了後、提出させ、「課題」については、指導内容をチェックしたものを、「小テスト」については、授業中の学生間の相互採点の結果を確認したものを、それぞれ、次々回の授業の初めに返却する。 ・時間外における「課題」については、提出締切日を設定して提出させ、指導内容をチェックしたものを、締切後の2週間後の授業の初めに返却する。 ・授業内容の「ポイント」については、必ずメモを取ること。 ・提出物等については、記述内容や形式の見直し、確認を徹底すること。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編B (FB22C040)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	石井成人＊ (いしいなるひと＊)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「文章表現法」講義概説 をする
2回	文章の構成、アウトライン をする
3回	アウトライン作成 をする
4回	アウトラインの推敲 をする
5回	アウトラインの完成 をする
6回	序論・本論・結論の作成1 をする
7回	序論・本論・結論の作成2 をする
8回	小論文構成の再確認 最終評価試験をする

回数	準備学習
1回	なし
2回	なし
3回	課題テーマの草案 を作ること (標準学習時間60分)
4回	アウトラインの作成、修正 をすること (標準学習時間60分)
5回	アウトラインの作成、修正 をすること (標準学習時間60分)
6回	アウトラインの仕上げ をすること (標準学習時間60分)
7回	800字小論文、序論の作成 をすること (標準学習時間60分)
8回	800字小論文、本論の作成 学習内容の再確認 をすること (標準学習時間60分)

講義目的	小論文、レポートなどの作成において必要とされる、論理的で明晰な文章の書き方の基礎を知り、認識し、そして実現すること (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	文章の構成をあやつる「アウトライン」の重要性を理解し、それに基づいて800字の小論文を独力で完成できること。
キーワード	文章表現、アイデア・構成・アウトライン・要約・作文
成績評価 (合格基準60)	課題添削・修正作業 (40%)、中間提出 (40%)、最終提出 (20%) の総合評価
関連科目	プレゼンテーション
教科書	教室にてプリント資料等配布予定
参考書	なし
連絡先	elmar35@yahoo.co.jp
注意・備考	PC教室にて、Web上の課題システムを毎回利用して授業を行う。受講者数の上限を50名とする。 フィードバック 毎回試作、提出された論文原稿については、次の文章作成ステップへ反映させることが実現出来るように、コンピュータ室のモニタまたはプロジェクター表示された画面上で、個別にチェックし添削を行う。(自分の作成した文章だけではなく、他人の文章へのチェック・添削を客観的に眺めることで、試作している自分の取り組みに関して何倍も学習することを目指す)
試験実施	実施する

科目名	比較文化論B (FB22C050)
英文科目名	Comparative Cultures B
担当教員名	辻維周 (つじまさちか)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア1)
2回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア2)
3回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア3)
4回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア4)
5回	・太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア5) ・グループワークのためのグループ分け
6回	グループワーク1 (グループ内で自分の生まれた土地と文化を話し合う)
7回	グループワーク2 (グループ内で自分の生まれた土地と文化を話し合う)
8回	まとめ,最終評価試験

回数	準備学習
1回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
2回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
3回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
6回	自分が生まれ育った町の文化を捉えておくこと。(標準学習時間120分)
7回	6回目で話し合ったことを検証しておく。(標準学習時間90分)
8回	今までの事を反芻し、最終評価試験に備えておく。(標準学習時間120分)

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけでも言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。(教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する)
達成目標	少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できるような人間になること。また「日本では」「国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が出来る人間になる事。
キーワード	視野をうんと広く持ってみよう。そうすれば自分の知っている世界が変わって見える。
成績評価 (合格基準60)	グループワークでの発表を60点満点、最終評価試験を40点満点とし、60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「異文化理解」岩波新書 青木保著
参考書	「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会
連絡先	ous.tsuji@gmail.com
注意・備考	・この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加が出来ることは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。
試験実施	実施する

科目名	政治学 B (FB22C060)
英文科目名	Political Science B
担当教員名	前田浩＊ (まえだひろし＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	第 4 章 選挙と政治について講義する。
2 回	第 5 章 地方国会について講義する。
3 回	第 7 章 国会について講義する。
4 回	第 8 章 内閣と総理大臣について講義する。
5 回	第 9 章 官僚について講義する。
6 回	第 10 章 冷戦の終わりについて講義する。
7 回	第 11 章 経済交渉について講義する。
8 回	最終評価試験と講義のまとめ

回数	準備学習
1 回	第 4 章を読んでくること。(標準学習時間 30 分)
2 回	第 4 章の復習・第 5 章を読んでくること。(標準学習時間 60 分)
3 回	第 5 章の復習・第 7 章を読んでくること。(標準学習時間 60 分)
4 回	第 7 章の復習・第 8 章を読んでくること。(標準学習時間 60 分)
5 回	第 8 章の復習・第 9 章を読んでくること。(標準学習時間 60 分)
6 回	第 9 章の復習・第 10 章を読んでくること。(標準学習時間 60 分)
7 回	第 10 章の復習・第 11 章を読んでくること。(標準学習時間 60 分)
8 回	第 4 章～第 11 章の復習をしておくこと。(標準学習時間 180 分)

講義目的	本講義では、政治学の基礎知識を学ぶとともに、現代の社会や政治を自分の頭で捉えるための視点と考え方を身につける。また、現在進行中の重要な時事問題を講義の素材として活用し、現代政治を理解する。(教養教育センター 単位認定の方針 C にもっとも強く関与。)
達成目標	現代政治についての基本的知識とその捉え方を修得する。また現代の政治について自分の考え方を文章で表現することができる。
キーワード	現代政治 政治学 現代社会
成績評価 (合格基準60)	講義内容確認テスト (ほぼ毎週行なう) 40 点 最終評価試験 60 点
関連科目	
教科書	はじめて出会う政治学【第 3 版】／真淵・久米・北山著／有斐閣アルマ／978-4-641123687
参考書	講義中に指示する。
連絡先	欠席・質問・問合せ先 mae@law.okayama-u.ac.jp
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	哲学B (FB22C070)
英文科目名	Philosophy B
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および東洋哲学とは何かを説明する。
2 回	インド哲学 (1)ーインド哲学の誕生から沙門宗教の成立までを説明する。
3 回	インド哲学 (2)ーインドの「六派哲学」と現代へのその影響を説明する。
4 回	中国哲学 (1)ー諸子百家の思想を説明する。
5 回	中国哲学 (2)ー朱子学と陽明学を説明する。
6 回	イスラーム哲学 (1)ーキンディーとファーラービーの哲学を説明する。
7 回	イスラーム哲学 (2)ーイブン・スィナーとガザーリーの哲学を説明する。
8 回	前半：最終評価試験 後半：試験の解答と解説

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、「東洋哲学とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。(標準学習時間30分)
2 回	前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
4 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
5 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	本講義では、インド、中国、およびイスラーム文化圏の哲学を通して、代表的な東洋哲学をひと通り学ぶ。哲学はあらゆる学問の基礎とも言えるため、その思考方法を身につけることにより、自身の専門分野の研究にそれを生かすことができるようになるのが、本講義の最終的な目的である。(教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する)
達成目標	①哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、自分の言葉できちんと説明することができる。 ②各文化圏の思想を比較し、それらの間の共通点、相違点を見出すことができる。

	③過去の哲学者の思考を追体験し、自分の専門の研究に役立てることができる。
キーワード	哲学、思想、宗教、東洋哲学
成績評価（合格基準60	・授業での提出課題（60％） ・最終試験（40％） ※授業開始後30分以降の入室は認めない。また、課題未提出の場合は、評価の対象としない。
関連科目	哲学A、倫理と宗教
教科書	特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。
参考書	参考書は、授業内で適宜、紹介する。
連絡先	
注意・備考	・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。 ・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。
試験実施	実施する

科目名	日本国憲法【月4水4】（FB22D010）
英文科目名	The Constitution of Japan
担当教員名	中西俊二＊（なかにししゅんじ＊）
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 4時限 / 水曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションをかねて憲法とは何かを考え、広義と狭義の意味を解説する。日本国憲法がいかなる経緯から制定されるに至ったか、明治憲法の改正手続きに言及する。
2回	国家と憲法の関係および立憲主義の意義と内容について講義する。特に三権分立がどのような機能を果たしているかを解説する。さらに、明治憲法の特徴にも言及する。
3回	国民主権と憲法の最高法規性について考える。憲法は国法秩序の最高法規と解されているが、それは何故なのか、個人の尊厳および国民主権との関係について理解を深めるように解説する。憲法96条は、憲法改正を定めるが、改正に限界はないのか問題提起をする。憲法81条の違憲審査制に関わって司法消極主義についても説明する。
4回	自由主義的民主制と平和主義を取り上げ、自由の確保と憲法9条の戦争の放棄について解説する。「恵庭事件」「長沼事件」等の判例を取り上げると同時に、憲法9条の解釈と集団的自衛権について説明する。
5回	憲法の私人間効力について解説する。憲法は基本的に国家と国民の関係を規律するものであるが、憲法規定は私人間に及ぶかという重要な問題を、「三菱樹脂事件」および「昭和女子大事件」の判例を取り上げ、基本的人権の保障の法的効果として、私人による権利侵害を防ぐために憲法規定はどのように私人間に適用されるべきかを考えることにする。
6回	憲法13条の幸福追求権という包括的人権規定を根拠とするいわゆる「新しい人権」の内容と判例について講義する。「宴の後事件」「京都府学連事件」「北方ジャーナル事件」等を取り上げて、「新しい人権」について考察する。
7回	憲法14条の「法の下での平等」の趣旨と合理的な差別ならびに関連判例について解説する。憲法違反とならない合理的な差別か否かを判断するため、「二重の基準」について言及する。「堀木訴訟」等関連判例も取り上げ解説する。
8回	憲法19条の思想・良心の自由と判例について講義する。保障の内容と他の精神的自由権との関係を理解させるように解説する。判例としては、「良心の自由と謝罪広告の強制」「麴町中学内申書事件」等を取り上げ解説する。
9回	憲法20条の信教の自由の内容と限界について講義する。その理解を深めるため、制度的保障である「政教分離の原則」を憲法20条3項および89条との関係で解説する。判例としては、「津地鎮祭事件」「愛媛県玉串料訴訟」等を取り上げることにする。
10回	憲法23条が保障する学問の自由の内容と大学の自治について講義する。制度的保障としての大学の自治における学生の地位についても言及する。判例としては、「旭川学テ事件」「劇団ポポロ事件」を取り上げることにする。
11回	見ん主義国家において最も重要な人権の一つである憲法21条1項の表現の自由について講義する。表現の自由の内容として「知る権利」「報道の自由」「取材の自由」について説明し、取材源秘匿の自由が最高裁で認められたことの意義を解説する。また、「特定秘密保護法」についてもその法的影響等について言及する。検閲の問題も取り上げることにする。「猿払事件」「博多駅事件」等の判例も取り上げ解説する。
12回	憲法22条1項の定める経済的自由について講義する。同条の保障する職業選択の自由および29条1項の財産権の保障規定に由来する営業の自由とその制限について解説する。消極的目的規制と積極的目的規制の違いによる合憲性判定基準のの区別を理解できるように講義をするめることにする。取り上げる判例としては、「薬局解説の距離制限事件」「小売市場距離制限事件」等とする。
13回	人身の自由の焦点を当てて講義する。具体的には、憲法18じょうの「奴隷的拘束」からの自由、31条の「適正手続きの保障」、33条以下の「令状主義」等を取り上げ解説する。判例としては、「川崎民商事件」「緊急逮捕前の捜索・差押事件」「ポケット所持品検査事件」「高田事件」等を取り上げることにする。
14回	憲法25条の保障する生存権について講義する。成立の背景として福祉国家と生存権の関係、法的性質および生存権と環境権について解説する。判例としては「朝日訴訟」「堀木訴訟」「大阪国際空港公害訴訟」「厚木基地公害訴訟事件」と取り上げることにする。
15回	国務請求権と参政権について講義する。前者については、憲法17条の国家賠償請求権を、後者については、40条の刑事補償請求権を取り扱うこととする。いずれも明治憲法下では認められなかった基本的人権である。判例としては、「板まんだら事件」を取り上げることにする。
16回	まとめとして最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	法学六法にある日本国憲法の前文を読んでおくこと。30分。
2 回	教科書をよく読み、立憲主義について予習しておくこと。50分。
3 回	教科書をよく読み、憲法の最高法規性と憲法改正について予習しておくこと。60分。
4 回	教科書をよく読み民主制と平和主義について予習しておくこと。60分。
5 回	教科書をよく読み、憲法規定の適用範囲について予習しておくこと。60分。
6 回	教科書をよく読み、「新しい人権」について予習しておくこと。60分。
7 回	教科書をよく読み、法の下の平等について予習しておくこと。60分。
8 回	教科書をよく読み、思想・良心の自由について予習しておくこと。60分
9 回	教科書をよく読み、信教の自由について予習しておくこと。50分。
1 0 回	教科書をよく読み、学問の自由について予習しておくこと。50分。
1 1 回	教科書をよく読み、表現の自由について予習しておくこと。60分。
1 2 回	教科書をよく読み、経済的自由について予習しておくこと。50分
1 3 回	教科書をよく読み、令状主義等について予習しておくこと。60分。
1 4 回	教科書をよく読み、生存権について予習しておくこと。50分。
1 5 回	国務請求権および参政権について教科書をよく読み、主権者として予習をしておくこと。60分。
1 6 回	これまでの学習事項を整理・理解しておくこと。120分。

講義目的	教科書に取り上げた判例を通して、具体的に現代の憲法問題に対して、自主的に主権者として責任ある判断がとれる民主主義者を養成すること。（教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する）
達成目標	受講生が日常生起する憲法問題を主権者として真剣に受け止め、憲法的问题解決の思考力を身につけること。
キーワード	自然法、個人の尊厳、基本的人権の尊重
成績評価（合格基準60	レポート（20点）、小テスト（20点）、最終評価試験（60点）
関連科目	法学
教科書	テキスト『日本国憲法第4版』/中西俊二/大学教育出版/978-4-86429-452-2 ;『法学六法』/ 石川明・池田真朗等編/信山社
参考書	テキスト『法学第3版』（大学教育出版、2015年）等
連絡先	教務課
注意・備考	毎回講義の終わりに、巻末の択一問題(小テスト)をミシン線に従って提出してもらうので、忘れずに教科書を持参すること。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編B (FB22D020)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	崎重敏幸＊ (さきしげとしゆき＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	「日本を知る (1)」について説明する。
2 回	「日本を知る (2)」について説明する。
3 回	「日本を知る (3)」について説明する。
4 回	「読書のすすめ」について説明する。
5 回	「自己啓発 (1)」について説明する。
6 回	「自己啓発 (2)」について説明する。
7 回	就職に向けて、採用者側の視点から説明する。
8 回	「敬語の使い方」について説明する。 ●最終評価試験

回数	準備学習
1 回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
2 回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
3 回	「日本の世界遺産」について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	読書の意味について考えておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	自己啓発について考えておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	自己啓発について考えておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	履歴書の書き方について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	敬語の種類、使い方について調べておくこと。 (標準学習時間 1 2 0 分) ●今まで学習してきたことを復習しておくこと。 (標準学習時間 1 8 0 分)

講義目的	1. 生涯を通じての「学び」の意味について考える。 2. 「読書」をする目的・意義を理解し、人生を豊かにしてくれたり、生きる指針や勇気を与えてくれることや、知識や知恵を学べることに取り組む。 3. グローバリゼーション (国境がない) の状況において、外国人に、日本の良さをアピールする大切さを学ぶ。 (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1. 「自己啓発」に取り組むことができる。 2. 「読書感想文」が書けるようになる。 3. 「日本の世界遺産」 (現在 2 1 件) の内容・特色を理解し、外国人に、日本の良さを紹介することができるようになる。
キーワード	・目的意識 ・基礎知識 ・実行力
成績評価 (合格基準60)	1. 授業における「提出課題」「小テスト」+ 時間外における「提出課題」 ・ ・ ・ 5 0 % 2. 最終評価試験 ・ ・ ・ 5 0 % ● 1. と 2. の総計で、得点率 6 0 % 以上を合格とする。
関連科目	・プレゼンテーション基礎編

教科書	・「60歳からの健康人生」/ 執筆者代表 崎重敏幸 / 株式会社 ライフ・サポート / ISBN978-4-9907110-0-9 ・資料を配布する。
参考書	・適宜指示する。
連絡先	info@hiroshima-life.jp
注意・備考	・授業における「課題」「小テスト」については、授業終了後、提出させ、「課題」については、指導内容をチェックしたものを、「小テスト」については、授業中の学生間の相互採点の結果を確認したものを、それぞれ、次々回の授業の初めに返却する。 ・時間外における「課題」については、提出締切日を設定して提出させ、指導内容をチェックしたものを、締切日後の2週間後の授業の初めに返却する。 ・授業内容の「ポイント」については、必ずメモを取ること。 ・提出物等については、記述内容や形式の見直し、確認を徹底すること。
試験実施	実施する

科目名	プレゼンテーション基礎編B (FB22D030)
英文科目名	Presentation Skills (Basic) B
担当教員名	石井成人＊ (いしいなるひと＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業概説 をする
2 回	非言語的コミュニケーションの特徴、スクリプトの作成 をする
3 回	模擬発表とプレゼンテーションスクリプトの改良 をする
4 回	リハーサル・プレゼンテーションの実施 をする
5 回	PowerPoint利用のプレゼンテーション をする
6 回	PowerPoint資料の改良 をする
7 回	PowerPoint資料を使ったリハーサル・プレゼンテーション をする
8 回	プレゼンテーション全体構成の再確認 最終評価試験をする

回数	準備学習
1 回	なし
2 回	スクリプト準備 すること
3 回	スクリプト修正 すること
4 回	プレゼンテーション練習とスクリプト修正 すること
5 回	プレゼンテーション改良 すること
6 回	PowerPointの作成 すること
7 回	PowerPointの修正 すること
8 回	学習内容の整理 すること

講義目的	聴衆を前にした単独での発表の場において、自分のアピールポイントを明瞭かつ論理的、戦略的に展開する技法の基礎を身につける。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	PowerPointを用いながらプレゼンテーションにおける非言語的要素の重要性を理解した発表を行うことができることを目指す。(パワーポイント資料、責任者としての発表者のプレゼンス、アピールポイントの軸のぶれない内容構成、など)
キーワード	プレゼンテーション、PowerPoint、非言語的コミュニケーション、自己表現
成績評価(合格基準60)	課題添削・修正作業(40%)、中間提出(40%)、最終提出(20%)の総合評価
関連科目	文章表現法、およびその他のプレゼンテーション
教科書	教室にてプリント資料等配布予定
参考書	なし
連絡先	elmar35@yahoo.co.jp
注意・備考	PC教室にて、Web上の課題システムを毎回利用して授業を行う。受講者数の上限を50名とする。
試験実施	実施する

科目名	日本史B (FB22D040)
英文科目名	Japanese History B
担当教員名	小林博昭＊ (こばやしひろあき＊)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。授業の進め方を説明したのち、古墳時代の概要や、この時代の時期区分について、OHC等を用いて説明する。
2回	古墳出現前夜の様相について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。さらに箸墓を中心に、出現期古墳の特色を説明する。
3回	古墳時代、前期、中期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
4回	前回到続いて、古墳時代中、そして後期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
5回	古墳時代後期の物質文化と採用された技術、社会的背景についての追加説明をする。これに加えて、古墳時代に残された金石文について、そこから読み取れる大陸との交渉の状況等、それら具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
6回	前回到続いて、金石文のなかから、具体例を説明する。さらに、古墳時代末期について説明する。これらの説明には、スライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用する。
7回	古墳時代末期の補足説明と、古墳時代のロジスティクス(物流)について、具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。さらに、これまでの授業内容の整理とまとめをおこなう。
8回	今まで扱ってきた歴史事象の補足説明をする。最終評価試験を実施する。 (試験会場等の関係で、8回目に最終試験実施が困難な場合、通常通り講義をおこない、試験予備日に同試験を実施することがある)

回数	準備学習
1回	シラバスの注意事項を熟読しておくこと。古墳時代の概要や特徴をノートを中心に復習し、さらに古墳出現前夜の様子を図書館等で、調べておくこと。(標準学習時間120分)
2回	古墳出現前夜の様相について、また箸墓などの出現期古墳の特色を説明できるように復習すること。くわえて、古墳時代の文化と駆使された技術を中心に図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	古墳時代前期、中期の物質文化やそれらに採用された技術について、復習しておくこと。さらに古墳時代後期の物質文化と採用された技術について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	古墳時代中、そして後期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、配布プリントやノートを中心に十分復習しておくこと。また、古墳時代に残された文字資料について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	古墳時代後期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、そして習った金石文について配布プリントやノートを中心に十分復習しておくこと。また、古墳時代終末期の様子を図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	これまでの授業で扱った金石文と、古墳時代末期の内容について十分に復習をすること。また、古墳時代の物流について、図書館等で予習しておくこと。さらに、第1回からこれまで習ったことの内容のまとめと整理を各自おこない、質問などをノートにメモしておくこと。(標準学習時間120分)
7回	古墳時代の物流と、第1回から第7回までの授業のポイントを各自まとめて、十分復習しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	ここまでの授業内容についての復習をおこなうこと。(標準学習時間120分)

講義目的	主として、日本列島内における古代史を扱う。具体的には物質文化の発達過程に視座をおき、我が国の国家形成史上、最もミステリアスな時代といわれる古墳時代前期から乙巳の変後の大化の薄葬令発布前後までの時代における人類が製作した「もの」から、当時の文化を復原し、時系列の中でそれらの変遷の様相や、極東アジア地域からの文化伝播の問題に関して述べる。(教養教育センターの単位認定方針項目Bにもっとも強く関与する)
達成目標	我が国の国家形成等にかかわる古代史を構成する諸要素を時系列の中で客観的に把握し、その因果関係をはじめ、歴史的な事象とその背景について、分析できる力と、その分析結果について深く考

	察できる力を習得する。
キーワード	“ 古代史 ”、“ 古墳時代 ”、“ 前方後円墳 ”、“ ヤマト政権 ”
成績評価（合格基準60	最終評価試験100%により成績を評価する。
関連科目	日本史A
教科書	使用しない。授業の進行過程で、資料をプリント等で配布する。
参考書	授業の進行過程で適宜紹介する。
連絡先	
注意・備考	(1) 毎回出欠をとる。(2) ケガ、病気、その他で欠席した場合は、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出すること。これらが無い場合は、欠席扱いとなる。(4) 講義資料は主に講義開始時に配布する。特別な事情が無い限り、後日の配布には応じない。なお、Momo-campus等を利用することがある。その場合は、事前に受講生に連絡する。(5) 講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に相談すること。(6) 試験結果のフィードバックは、Momo-campus等による。(7) 受講者数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。
試験実施	実施する

科目名	政治学 B (FB22D050)
英文科目名	Political Science B
担当教員名	前田浩＊ (まえだひろし＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	第 4 章 選挙と政治について講義する。
2 回	第 5 章 地方国会について講義する。
3 回	第 7 章 国会について講義する。
4 回	第 8 章 内閣と総理大臣について講義する。
5 回	第 9 章 官僚について講義する。
6 回	第 10 章 冷戦の終わりについて講義する。
7 回	第 11 章 経済交渉について講義する。
8 回	最終評価試験と講義のまとめ

回数	準備学習
1 回	第 4 章を読んでくること。(標準学習時間 30 分)
2 回	第 4 章の復習・第 5 章を読んでくること。(標準学習時間 60 分)
3 回	第 5 章の復習・第 7 章を読んでくること。(標準学習時間 60 分)
4 回	第 7 章の復習・第 8 章を読んでくること。(標準学習時間 60 分)
5 回	第 8 章の復習・第 9 章を読んでくること。(標準学習時間 60 分)
6 回	第 9 章の復習・第 10 章を読んでくること。(標準学習時間 60 分)
7 回	第 10 章の復習・第 11 章を読んでくること。(標準学習時間 60 分)
8 回	第 4 章～第 11 章の復習をしておくこと。(標準学習時間 180 分)

講義目的	本講義では、政治学の基礎知識を学ぶとともに、現代の社会や政治を自分の頭で捉えるための視点と考え方を身につける。また、現在進行中の重要な時事問題を講義の素材として活用し、現代政治を理解する。(教養教育センター 単位認定の方針 C にもっとも強く関与。)
達成目標	現代政治についての基本的知識とその捉え方を修得する。また現代の政治について自分の考え方を文章で表現することができる。
キーワード	現代政治 政治学 現代社会
成績評価 (合格基準60)	講義内容確認テスト (ほぼ毎週行なう) 40 点 最終評価試験 60 点
関連科目	
教科書	はじめて出会う政治学【第 3 版】／真淵・久米・北山著／有斐閣アルマ／978-4-641123687
参考書	講義中に指示する。
連絡先	欠席・質問・問合せ先 mae@law.okayama-u.ac.jp
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	倫理と宗教B (FB22D060)
英文科目名	Ethics and Religion B
担当教員名	藤丸智雄＊（ふじまるともお＊）
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	嘘は悪かについて考える。カントの嘘問題を題材にして、カントの義務論について学ぶ。「嘘」を題材にして、善悪の基準がどこにあるかを検討しつつ、自己愛の問題について考える。キーワード：嘘、定言命法、仮言命法、自己愛、善意志
2回	現代社会の基礎となっている功利主義の基本について学びます。①ベンサムの生涯、②基本的な考え方（最大多数の最大幸福、快・苦、帰結主義）とその独自性、③現代社会との関係について学びます。キーワード：ベンサム、最大多数の最大幸福、善の定義③“善と快楽”
3回	幸福を数量で計れるのかという問題について考える。トロッコケースのジレンマ、9.11の事例を用いて、最大多数の最大幸福の修正点について学んでいく。キーワード：トロッコケース、9.11
4回	幸福を数量で計れるのかという問題について考えます。GDPと幸福度との関係、幸福な国や地域はどこか、幸福度の低い場所はどこかという点から、功利主義の「最大幸福」について批判的に検証します。キーワード：GDP、幸福度調査
5回	科学技術や医療の発展がもたらす課題について考えます。功利主義の歴史的背景について学び、功利主義の背景に産業革命や医療の発展があることを学びます。キーワード：科学技術、医療の発展
6回	ユダヤ教の歴史を学び、宗教における「善」について学びます。宗教的な戒律や救いと「善」を考えつつ、宗教と幸福の関係について分析します。キーワード：ユダヤ教、救い、宗教、幸福
7回	「愛」と「善」の関係について考える。キリスト教の歴史を学び、キリスト教の特徴的な教えである「隣人愛」について「サマリア人の喩」を題材に学習する。キーワード：愛、隣人愛、キリスト教、サマリア人の喩
8回	基礎的知識の習得、倫理的思考の習熟度をはかるための最終評価試験を行い、解説を実施する。

回数	準備学習
1回	教科書のページを読むこと。33－38ページを読むこと。（標準学習時間30分）
2回	教科書28－29ページを読むこと。（標準学習時間30分）
3回	教科書30－32ページを読むこと。（標準学習時間30分）
4回	これまでの講義内容の復習しておくこと。（標準学習時間30分）
5回	前回の講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間30分）
6回	前回の講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）
7回	前回の講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間30分）
8回	ノートを中心にして復習を行い、講義全体の理解を深めておくこと。（標準学習時間30分）

講義目的	現代社会が抱える倫理的な課題について考察するための「倫理的に考える力」の養成を目的とする。達成目標にかかげる具体的な目標をクリアし、これらの要素を総合して、倫理的課題について思索を深めるための方法論を身につける。特に、現代社会の根本的な価値観を学び、歴史の中でとらえなおし、科学技術をはじめ、豊かさを価値とする現代社会に対するクリティカルな視点を身につけていく。（教育センター 単位認定の方針Bにもっとも強く関与）
達成目標	①現代社会が抱える倫理的課題についての情報獲得、②社会を構成する基盤となっている思想・哲学の基礎的な知識の獲得、③宗教倫理に関する基礎的な理解を目指す。特に現代社会を規定する思想を学ぶことにより、自分たちが生きている社会を相対化する力を身につけ、柔軟で自由な思考ができるようになることを目標とする。
キーワード	倫理、現代社会、キリスト教、ベンサム、理性、脳、幸福、自由、自己愛、カント
成績評価（合格基準60）	提出物15%講義関与度35%テスト（最終評価試験）50%
関連科目	哲学
教科書	プレップ倫理学／柘植尚則／弘文堂／4335150490
参考書	
連絡先	fujimarutomoo@gmail.com
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	身近な物理学Ⅱ (FB22D080)
英文科目名	Physics closely related to our daily lives I
担当教員名	中川益生＊ (なかがわますお＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	静電気について説明する。正負の電気があり電子の電荷が負とされるに至った過程を述べ、摩擦帯電の演示実験を通して静電気の性質を学ぶ。
2 回	クーロンの法則について説明する。静電気力の法則を用いて様々な電気現象が説明できることを示し、箔検電器などを用いてクーロン力の演示実験を行なう。
3 回	電場と電位について説明する。電場と電位の関係について述べ、箔検電器を用いた演示実験によりコンデンサーの概念と特性を学ぶ。
4 回	電池と電流について説明する。電池とオームの法則について述べ、電池と電気分解の演示実験により電池の動作メカニズムと電流の概念を学ぶ。
5 回	磁場について説明する。電流と磁場の関係について述べ、アンペールの法則とファラデーの電磁誘導に関する演示実験を行ない、磁場の概念を学ぶ。
6 回	これまでの講義内容について、30分間の小テストを行う。その後、電磁波について説明する。マクスウェルの理論について述べ、ヘルツの演示実験を行う。
7 回	光の特性と正体について説明する。光の反射・屈折・干渉・回折に関する演示実験により全反射・虹・シャボン玉の色・夕陽と空の色などのメカニズムを学ぶ。
8 回	これまでのまとめと最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	教科書p.63～68を読んでノートにまとめ、静電気の性質とその研究の歴史について予習すること。(標準学習時間60分)
2 回	教科書p.69～70を読んでノートにまとめ、クーロンの法則と静電誘導について予習すること。(標準学習時間60分)
3 回	教科書p.71～77を読んでノートにまとめ、重力場と比較して電場と電位と電気容量について予習すること。(標準学習時間60分)
4 回	教科書p.78～83を読んでノートにまとめ、電池と電流とオームの法則について予習すること。(標準学習時間60分)
5 回	教科書p.84～88を読んでノートにまとめ、電流と磁場の相互作用に関する法則を予習すること。(標準学習時間60分)
6 回	1～5回までの復習をすること。教科書p.89～92を読んでノートにまとめ、アンペール-マクスウェルの法則と電磁波について予習すること。(標準学習時間120分)
7 回	教科書p.93～105を読んでノートにまとめ、光の性質と正体について予習すること。(標準学習時間60分)
8 回	教科書p.63～105までの内容とこれまでの講義内容をノートに整理し、復習して理解を深めること。(標準学習時間180分)

講義目的	物理学とは、物の理（ことわり）即ち自然現象の原因を実験的・理論的に解明する学問である。この授業では、授業中に行う多くの演示実験の観察を通して、我々の身のまわりで起こる「電磁気」と「光」に関わる自然現象を物理的に説明する能力を身につけることを目的とする。高校での物理公式の知識を必要とせず、できるだけ数式の計算を行わずに、実験の観察と論理的な思考により物理的方法論を修得せしめることに努める。(理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与)
達成目標	① 演示実験や実験ビデオの観察を通して、身近な自然現象を一般化して物理法則を見出す過程を学ぶ。 ② 物理学の諸法則が確立してきた歴史的過程を知ることにより、先人たちの物理的な思考方法を学ぶ。 ③ 自然現象を簡潔に説明するために、種々の物理量を定義することの必要性とその意味を理解する。 ④ 身近な物理現象に関する物理パズルの解答・質疑応答を通して、生きた物理学の知識を身につける。

キーワード	静電気、電場、電位、磁場、電磁波、光 クーロンの法則、ガウスの法則、アンペールの法則、ファラデーの法則、マクスウェルの方程式、スネルの法則
成績評価（合格基準60	授業中に行う小テストを50点満点としてその評価点をx点とし、最終評価試験を(100-x)点満点としてその評価点をy点とし、xとyの合計を得点として成績を評価する。得点が60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	
教科書	演示実験と科学史で学ぶ物理学入門／中川益生／内田老鶴圃 プリント版書籍のため一般書店では販売せず、学内の丸善(株)教科書販売所で販売する。
参考書	古典物理学を創った人々／エミリオ・セグレ 久保亮五・矢崎裕二訳／4-622-04088-3／みすず書房
連絡先	masuo12345nakagawa@gmail.com
注意・備考	高校における物理学の知識の有無は問いませんが、講義中に毎回行なう演示実験や実験ビデオを通して物理学を学びますので、必ず毎回出席してノートに記録してください。物理学は特に論理的思考を重視する学問ですから、試験においても自筆ノートは持ち込み可とします。以下の学科は、本科目の内容の一部が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある：基礎理学科、電気電子システム学科、機械システム学科、知能機械工学科、生命医療工学科、建築学科、工学プロジェクトコース、応用物理学科。「物理学基礎論Ⅰ・Ⅱ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「物理学基礎論Ⅰ・Ⅱ」の履修生および履修予定学生は「身近な物理学Ⅰ・Ⅱ」の履修を避けること。 ・テストについては、次回の講義日に解答・評価などのフィードバックを行う。 ・講義中の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。 ・必要に応じて、講義開始時に講義資料等を配布する。
試験実施	実施する

科目名	倫理と宗教B (FB22E010)
英文科目名	Ethics and Religion B
担当教員名	藤丸智雄* (ふじまるともお*)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 5時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	嘘は悪かについて考える。カントの嘘問題を題材にして、カントの義務論について学ぶ。「嘘」を題材にして、善悪の基準がどこにあるかを検討しつつ、自己愛の問題について考える。キーワード：嘘、定言命法、仮言命法、自己愛、善意志
2回	現代社会の基礎となっている功利主義の基本について学びます。①ベンサムの生涯、②基本的な考え方（最大多数の最大幸福、快・苦、帰結主義）とその独自性、③現代社会との関係について学びます。キーワード：ベンサム、最大多数の最大幸福、善の定義③“善と快楽”
3回	幸福を数量で計れるのかという問題について考える。トロッコケースのジレンマ、9.11の事例を用いて、最大多数の最大幸福の修正点について学んでいく。キーワード：トロッコケース、9.11
4回	幸福を数量で計れるのかという問題について考えます。GDPと幸福度との関係、幸福な国や地域はどこか、幸福度の低い場所はどこかという点から、功利主義の「最大幸福」について批判的に検証します。キーワード：GDP、幸福度調査
5回	科学技術や医療の発展がもたらす課題について考えます。功利主義の歴史的背景について学び、功利主義の背景に産業革命や医療の発展があることを学びます。キーワード：科学技術、医療の発展
6回	ユダヤ教の歴史を学び、宗教における「善」について学びます。宗教的な戒律や救いと「善」を考えつつ、宗教と幸福の関係について分析します。キーワード：ユダヤ教、救い、宗教、幸福
7回	「愛」と「善」の関係について考える。キリスト教の歴史を学び、キリスト教の特徴的な教えである「隣人愛」について「サマリア人の喩」を題材に学習する。キーワード：愛、隣人愛、キリスト教、サマリア人の喩
8回	基礎的知識の習得、倫理的思考の習熟度をはかるための最終評価試験を行い、解説を実施する。

回数	準備学習
1回	教科書のページを読むこと。33-38ページを読むこと。（標準学習時間30分）
2回	教科書28-29ページを読むこと。（標準学習時間30分）
3回	教科書30-32ページを読むこと。（標準学習時間30分）
4回	これまでの講義内容の復習しておくこと。（標準学習時間30分）
5回	前回の講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間30分）
6回	前回の講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）
7回	前回の講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間30分）
8回	ノートを中心にして復習を行い、講義全体の理解を深めておくこと。（標準学習時間30分）

講義目的	現代社会が抱える倫理的な課題について考察するための「倫理的に考える力」の養成を目的とする。達成目標にかかげる具体的な目標をクリアし、これらの要素を総合して、倫理的課題について思索を深めるための方法論を身につける。特に、現代社会の根本的な価値観を学び、歴史の中でとらえなおし、科学技術をはじめ、豊かさを価値とする現代社会に対するクリティカルな視点を身につけていく。（教育センター 単位認定の方針Bにもっとも強く関与）
達成目標	①現代社会が抱える倫理的課題についての情報獲得、②社会を構成する基盤となっている思想・哲学の基礎的な知識の獲得、③宗教倫理に関する基礎的な理解を目指す。特に現代社会を規定する思想を学ぶことにより、自分たちが生きている社会を相対化する力を身につけ、柔軟で自由な思考ができるようになることを目標とする。
キーワード	倫理、現代社会、キリスト教、ベンサム、理性、脳、幸福、自由、自己愛、カント
成績評価（合格基準60）	提出物15%講義関与度35%テスト（最終評価試験）50%
関連科目	哲学
教科書	プレッブ倫理学／柘植尚則／弘文堂／4335150490
参考書	
連絡先	fujimarutomoo@gmail.com
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	技術者の社会人基礎B (FB22F010)
英文科目名	Social communication for engineers B
担当教員名	寺田盛紀 (てらだもりき)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 1時限
対象クラス	理学部, バイオ・応用化学科, 工学プロジェクトコース, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	大学生に求められるコンピテンシー ・ 寺田の各国比較調査を紹介しつつ、理工系学生の特に必要な資質について理解する。
2 回	技術者の養成 ・ 工業高校、農業高校のカリキュラム ・ 大学・高専のカリキュラム
3 回	技術者のキャリア ・ 事務系・ホワイトカラー系従業員との比較でみた企業内キャリアの形成（移動）
4 回	日本の産業と技術の課題：その1 ・ IT化のつぎに必要な技術開発はなにかについて諸論議を概説する。
5 回	第4回のテーマのプレゼンテーション
6 回	日本の産業と技術の課題：その2 ・ 産業の二重構造（中小企業）の問題と技術開発について考える。
7 回	第6回のテーマのプレゼンテーション
8 回	以上の総括的講義及び最終評価試験

回数	準備学習
1 回	寺田の調査報告の印刷物の事前精読。(90分)
2 回	日本の工業（工学）教育の現況に関する資料を1つ以上探し出し、持参する。(90分)
3 回	技術者の生涯キャリア（職場配置や転職）について身近な人から取材し、ノートしておく（持参し、発表できるようにしておく）。(90分)
4 回	自動運転技術、スマートシティ技術、エコテクノロジーの現況について調べておく。簡単に報告できるように、半頁くらいに纏めておき、提出する。(90分)
5 回	簡易なレポートを作成しておく。(120分)
6 回	中小企業の技術開発の現況や事例を紹介できるよう、調べておく。提出する。(90分)
7 回	プレゼン資料を作成しておく。(90分)
8 回	以上で作成し、使用した講義ノート、資料、追加文献等の整理を行って置き、試験に臨む。(120分)

講義目的	技術者というあいまいな用語の使用法を確定した上で、技師もしくはテクニシャンとしての技術者の生成、養成、求められる資質、中でも学習・研究の方法、技能習得の方法、基礎力で重要な資質について講義し、理解することが目的である。（教養教育センター単位認定方針のEに強く関与する）
達成目標	技術者論に必要な知識の習得はもちろん、それを得るための資料収集等を通じて、研究調査過程やプレゼンの初歩的スキルを得ることを目指す。
キーワード	基礎力、技術者倫理
成績評価（合格基準60）	合格基準は60%である。100%の内訳は、最終評価試験80%、提出課題20%とする
関連科目	工学概論科目
教科書	指定せず
参考書	杉本・高橋著『技術者の倫理』（丸善出版）、日本能率協会『技術者教育の研究』（同）
連絡先	キャリア支援センター
注意・備考	受講者数の上限は70名とする。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法応用編B (FB22F020)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) B
担当教員名	杉林周陽＊（すぎばやしのりあき＊）
対象学年	2年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 1時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明する。広告文を書く①：指示されたテーマで広告コピーを構想する。
2回	広告文を書く②：広告コピーに取り組み、作品を講評する。
3回	文章実務の実例①：ビジネスレターや履歴書について解説する。
4回	エントリーシートを書く①：エントリーシートの実例とポイントを解説する。
5回	エントリーシートを書く②：エントリーシートに取り組む。
6回	文章実務の実例②：契約書や企画書について解説する。
7回	実用的な文章表現についてのまとめを行い、最終評価試験について説明する。
8回	文章スキルのポイントを整理する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習：広告表現の実例を収集しておくこと。復習：広告コピーのポイントを整理すること。（標準学習時間60分）
2回	予習：指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習：広告コピーを自己点検すること。（標準学習時間60分）
3回	予習：ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習：ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。（標準学習時間60分）
4回	予習：エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習：エントリーシートのポイントを整理すること。（標準学習時間60分）
5回	予習：自己分析を行っておくこと。復習：エントリーシートを自己点検すること。（標準学習時間90分）
6回	予習：契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習：契約書や企画書のポイントをまとめること。（標準学習時間60分）
7回	予習：実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習：文章表現で大切な点を整理しておくこと。（標準学習時間60分）
8回	予習：ここまでの講義内容を確認すること。復習：最終評価試験について自己点検すること。（標準学習時間120分）

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	エントリーシートや実務文章に対応することができる。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試
成績評価（合格基準60）	演習・提出課題（40%）、最終評価試験（60%）。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	文章表現法応用編A、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
教科書	世良利和・藤野薫／「文章スキルとプレゼン力」（緑版）／蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.本講義では一部アクティブラーニングを導入し、グループディスカッションを行うことがある。11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	日本国憲法【火2金2】（FB22G010）
英文科目名	The Constitution of Japan
担当教員名	佐藤元治（さとうもとはる）
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 2時限 / 金曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	日本国憲法の特質についての講義を行う。〔内容〕憲法の特質、憲法の基本原理と個人の尊重
2 回	人権総論についての講義を行う。〔内容〕人権の種類、人権の享有主体、基本的人権の限界
3 回	精神的自由（その1）についての講義を行う。〔内容〕思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由
4 回	精神的自由（その2）についての講義を行う。〔内容〕表現の自由（意味・内容・限界）
5 回	経済的自由についての講義を行う。〔内容〕職業選択の自由、転居・移転の自由、財産権の保障
6 回	人身の自由（刑事手続上の諸権利）の講義を行う。〔内容〕適正手続の原則・無罪推定の原則、被疑者・被告人の諸権利
7 回	受益権、社会権、参政権についての講義を行う。〔内容〕受益権、社会権、参政権
8 回	法の下での平等（平等権）と包括的基本権についての講義を行う。〔内容〕法の下での平等、生命・自由・幸福追求権
9 回	統治機構総論についての講義を行う。〔内容〕三権分立の意味と構造
1 0 回	国会についての講義を行う。〔内容〕国会の地位、組織と活動、国会議員の特権、国会の権能、議院の権能
1 1 回	内閣についての講義を行う。〔内容〕行政権と内閣、内閣の組織、内閣の権能と責任
1 2 回	裁判所についての講義を行う。〔内容〕司法権、裁判所の組織と権能、司法権の独立、違憲審査制
1 3 回	財政および地方自治についての講義を行う。〔内容〕財政の基本原則、財政監督の方式、地方自治の意義、地方公共団体の権能
1 4 回	天皇および平和主義についての講義を行う。〔内容〕天皇の地位と性格、天皇の権能、皇室経費、戦争放棄、平和的生存権
1 5 回	憲法改正についての講義を行う。〔内容〕改正の手続、改正の限界
1 6 回	最終評価試験および全体の総括を行う。

回数	準備学習
1 回	このシラバスを熟読し、授業内容全般を確認しておくこと。初回授業で講義の進め方と履修上の注意をするので必ず参加すること（やむを得ず初回の授業に来られなかった場合には、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること）。（標準学習時間60分）
2 回	前回の授業内容の日本国憲法の特質について正確に理解し、きちんと復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
3 回	前回の授業内容の人権の種類、享有主体、基本的人権の限界（特に公共の福祉の概念）について正確に理解し、きちんと復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
4 回	前回の授業内容の思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由について正確に理解し、きちんと復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
5 回	前回の授業内容の表現の自由について、その意味・内容・限界について正確に理解し、きちんと復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
6 回	前回の授業内容の経済的自由について正確に理解し、きちんと復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
7 回	前回の授業内容の人身の自由について、憲法31条から導き出される基本原則と、33条以下に規定されている被疑者・被告人の諸権利について、その内容と重要性を正確に理解し、きちんと復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
8 回	前回の授業内容の受益権、社会権、参政権について、それぞれの内容を正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
9 回	前回の授業内容の法の下での平等について、判例の審査基準と実際に平等原則違反とされた事案を正確に理解し、復習しておくこと。また、新しい人権・権利として判例で認められたものとしてのどの

	ようなものがあるか正確に理解しておくこと。ブログの配布資料で次回授業の予習をしておくこと。 （標準学習時間120分）
10回	前回の授業内容の三権分立の意義について正確に理解し、復習しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
11回	前回の授業内容の国会の地位、組織と活動、権能について正確に理解し、復習しておくこと。特に両議院の差異や衆議院の優越についてきちんと整理しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概略を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
12回	前回の授業内容の内閣について、特に内閣総理大臣の権限と内閣の権限の違いをきちんと整理しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
13回	前回の授業内容の裁判所について正確に理解し、復習しておくこと。特に司法権の限界、違憲審査制についてきちんと整理しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
14回	前回の授業内容の財政および地方自治について正確に理解し、復習しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
15回	第14回授業で扱った集团的自衛権の憲法上の問題について、その内容を正確に理解し、自身の考えをまとめておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
16回	第1回～第15回の授業内容をよく理解し、整理しておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	大学で憲法を学ぶというと、何だか難しいことを勉強するようなイメージを持たれるかもしれない。しかし考えてみれば、私たちは既にその憲法に基づく日本という国・社会の中で生活しているわけである。ということは、その憲法について知ったり考えたりすることはある意味、この日本という国で生活する者にとっての責務であるともいえるのである。この授業では、日本国憲法についての基本的な知識や考え方について具体的な事案や裁判例なども交えて分かりやすく解説し、憲法に関する問題点などについて一緒に考えてもらいたいと思っている。（教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する）
達成目標	①日本国憲法に関する基本的な知識や考え方を習得すること。 ②具体的な事案や憲法にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表現できるようになること。
キーワード	日本国憲法、最高法規、（基本的）人権、個人の尊重、三権分立
成績評価（合格基準60%）	授業内小テスト・レポート（計4回、各10%）＋条文プリント（10%）＋最終評価試験（50%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	法学
教科書	ポケット六法平成30年版 / 山下友信・宇賀克也（編集代表） / 有斐閣 / ISBN 978-4-641-00918-9
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	B3号館（旧24号館）4階研究室
注意・備考	①指定の六法は必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは授業前に必ず申し出て、指示を受けること（無断で授業を受けないように）。 ②授業中の録音・録画・撮影は認めない（電子機器の使用不可）。ただし特別の理由がある場合は、事前に相談すること。 ③憲法条文プリント（これについては初回授業で説明する）は、第5回授業までに提出すること。 ④テキストとしての教科書の代わりとして、事前に次回の授業内容を示した資料（レジュメ）を当日までブログにアップしておくので、プリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること（ブログのアドレス等、詳しくは初回授業で説明する）。 ⑤小テストについては採点の後いったん返却し、訂正・復習のうえ再提出してもらう。最終テストについては試験後に解説を行う。 ⑥新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている出来事や事件・裁判などに関心を持つようにすること。
試験実施	実施する

科目名	プレゼンテーション基礎編B (FB22G020)
英文科目名	Presentation Skills (Basic) B
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス(講義の概要、進め方、評価方法等の説明) グループの編成を行う。
2 回	課題発表のテーマの設定 日頃の問題意識からテーマを選び、目的、方法を決定する。
3 回	調査内容をまとめる 調査結果をまとめるとともに、プレゼンテーションを作成する。
4 回	プレゼンテーションを完成させる 論理展開、聞き手の分かりやすさを考えた説明の順番を考える。
5 回	よいプレゼンテーションについて説明する プレゼンテーションを評価するためのルーブリックを各自で作成する。
6 回	プレゼンテーションのリハーサル ルーブリックの修正を行う。
7 回	最終プレゼンテーション① 発表とフィードバックを実施する。
8 回	最終プレゼンテーション② 発表とフィードバックを実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認して講義の目的を理解しておくこと (標準学修時間120分)
2 回	課題を考えてくること (標準学修時間120分)
3 回	決定した方法にしたがい、参考文献の収集を行いながら調べ学習をしておくこと (標準学修時間120分)
4 回	スライドの構成を考えてくること (標準学修時間120分)
5 回	どうすればよいプレゼンテーションができるか考えてくること (標準学修時間120分)
6 回	プレゼンテーションの練習を行うこと (標準学修時間120分)
7 回	原稿を見ないでプレゼンテーションできるようにすること (標準学修時間120分)
8 回	原稿を見ないでプレゼンテーションできるようにすること (標準学修時間120分)

講義目的	本講義の目的は、設定されたテーマについて、個人あるいはグループで調査分析し、論理的な内容にまとめたうえで、適切な速度と声量でパワーポイントを活用した発表を行う。また、発表のフィードバックを行うことで改善点を検討し、学会発表や研究発表等で効果的に行えるようにプレゼンテーションスキルの修得を目指す。 (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	①特定のテーマについて目的と方法を明確にして、調査を行い、その結果をスライドにまとめることができる (E)。 ②自分の主張を根拠やデータを用いてスライドにまとめることができる (E)。 ③聴衆を前にした発表の場で、アイコンタクトを取り、適切な速度や声量で発表することができる (E)。
キーワード	コミュニケーション、グループワーク、論理表現、情報収集、情報分析
成績評価 (合格基準60)	・ワークシート (25%) ・実際のプレゼンテーションを評価する (50%) 発表内容の内訳は、内容構成、話し方、図表の使い方とする。 ・小テスト (25%) より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。 ※3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は、2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ※グループワーク、プレゼン作成およびプレゼン発表 (リハーサルも含む) の欠席の場合は、その時点で評価対象としない。
関連科目	プレゼンテーション基礎編A、文章表現法基礎編A・B、学びの基礎論A・B
教科書	特定の教科書は指定しない。

参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E - Mail : matsuo@are.ous.ac.jp
注意・備考	・本講義はプレゼンテーション基礎編Aを受講していることが望ましい。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。ただし、私語については、グループワークを行うときはこの限りではない。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしまっておくこと。 ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、後日、配布には応じない。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・本授業はアクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。 ・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。 ・パワーポイントを利用した実習をおこなう。 ・受講生の既習知や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。
試験実施	実施しない

科目名	ボランティア論B (FB22G030)
英文科目名	Introduction to Volunteer B
担当教員名	世良利和＊（せらとしかず＊）
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方とテキストについて解説する。ボランティアの特徴について考察する。
2回	ボランティアの動機と事例を検証する①。
3回	ボランティアと報酬について考察する。
4回	ボランティアの動機と事例を検証する②。
5回	ボランティアの動機と事例を検証する③。
6回	NPO（特定非営利活動）について解説する。
7回	NPOの現状と問題点について考察する。最終評価試験について説明する。
8回	ここまでの講義をまとめる。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスに目を通し、ボランティアの特徴について考えておくこと。復習：ボランティアの特徴についてまとめること。（標準学習時間60分）
2回	予習：ボランティアの持つ可能性について考えておくこと。復習：講義で取上げた事例についてまとめること。（標準学習時間60分）
3回	予習：ボランティアの無償性について考えておくこと。復習：ボランティアの報酬についてまとめること。（標準学習時間60分）
4回	予習：国内外の諸問題について考えておくこと。復習：講義で取り上げた事例についてまとめること。（標準学習時間60分）
5回	予習：ボランティアをめぐる困難について考えてくること。復習：ボランティアと現代社会についてまとめること。（標準学習時間60分）
6回	予習：NPOの基本を理解しておくこと。復習：NPOの定義についてまとめること。（標準学習時間60分）
7回	予習：NPOの現状について考えておくこと。復習：NPOをめぐる諸問題をまとめること。（標準学習時間90分）
8回	予習：ここまでの講義内容を整理しておくこと。復習：最終評価試験について自己点検すること。（標準学習時間120分）

講義目的	ボランティアを多角的な視点から分析してその特徴と可能性を理解するとともに、NPOの現状や役割についても考える。（教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する）
達成目標	ボランティア活動の特徴と可能性を理解した上で、関連する領域も含めた現状について自身の考えを述べるができる。
キーワード	ボランティア NPO 社会貢献
成績評価（合格基準60）	演習・提出課題（40%）、最終評価試験（60%）。原則として、演習に参加し課題をすべて提出することが最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	ボランティア論A、比較文化論
教科書	世良利和／「ボランティアへの視線－映画を手がかりにして考える」／蜻文庫
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。2.受講者は必ずテキストを購入すること。3.ボランティアへの賛否、経験の有無は問わない。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。7.100名程度を目安に受講制限を行うことがある。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9.提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法応用編 B (FB22G040)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) B
担当教員名	杉林周陽＊（すぎばやしのりあき＊）
対象学年	2 年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明する。広告文を書く①：指示されたテーマで広告コピーを構想する。
2 回	広告文を書く②：広告コピーに取り組み、作品を講評する。
3 回	文章実務の事例①：ビジネスレターや履歴書について解説する。
4 回	エントリーシートを書く①：エントリーシートの事例とポイントを解説する。
5 回	エントリーシートを書く②：エントリーシートに取り組む。
6 回	文章実務の事例②：契約書や企画書について解説する。
7 回	実用的な文章表現についてのまとめを行い、最終評価試験について説明する。
8 回	文章スキルのポイントを整理する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：広告表現の実例を収集しておくこと。復習：広告コピーのポイントを整理すること。（標準学習時間60分）
2 回	予習：指示されたテーマについて情報を集めておくこと。 復習：広告コピーを自己点検すること。（標準学習時間60分）
3 回	予習：ビジネスレターや履歴書の事例に触れておくこと。復習：ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。（標準学習時間60分）
4 回	予習：エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習：エントリーシートのポイントを整理すること。（標準学習時間60分）
5 回	予習：自己分析を行っておくこと。復習：エントリーシートを自己点検すること。（標準学習時間90分）
6 回	予習：契約書や企画書の事例に触れておくこと。復習：契約書や企画書のポイントをまとめること。（標準学習時間60分）
7 回	予習：実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習：文章表現で大切な点を整理しておくこと。（標準学習時間60分）
8 回	予習：ここまでの講義内容を確認すること。復習：最終評価試験について自己点検すること。（標準学習時間120分）

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	エントリーシートや実務文章に対応することができる。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試
成績評価（合格基準60	演習・提出課題（40％）、最終評価試験（60％）。 原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	文章表現法応用編A、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
教科書	世良利和・藤野薫／「文章スキルとプレゼン力」（緑版）／蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を50名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は必ずテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時によりのみ配布する。 9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10.本講義では一部アクティブラーニングを導入し、グループディスカッションを行うことがある。 11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	学びの基礎論B (FB22H010)
英文科目名	Introduction to Life Long Learning B
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう), 松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス図書館の活用の仕方情報収集の仕方と図書館の利用方法について説明する。 (全教員)
2 回	本のレビューと Recommend 本を読んだ評価を他の学生に情報として伝える批評・評論 (レビュー) と推薦文 (Recommend) について説明する。 (全教員)
3 回	アカデミックライティングレポートとは何か、レポートの作成手順について説明する。 (全教員)
4 回	効果的なアカデミックライティング分かりやすい文および分かりやすい表現方法を説明する。 (全教員)
5 回	プレゼンテーションスキルプレゼンテーションの基本スキルについて説明する。 (全教員)
6 回	プレゼンテーションスライドの作成 (全教員)
7 回	課題発表と振り返りプレゼンテーションを行い、ピア・レビューを実践する。 (全教員)
8 回	課題発表と振り返りプレゼンテーションを行い、ピア・レビューを実践する。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	図書館に行き、OPAC検索を行い、関心がある書籍を1冊借り、読んでおくこと。(標準学修時間120分)
2 回	読んだ本の要点をまとめておくこと(標準学修時間120分)
3 回	与えたテーマから、レポートを作成しておくこと(標準学修時間120分)
4 回	11回目まで学習したことを参考に、レポートを修正しておくこと(標準学修時間120分)
5 回	予習として、岡山理科大学について、図書館やインターネット上の資料を使って調べてくる。また、その内容を整理しておくこと(標準学修時間120分)
6 回	予習として、前回の内容を文章にまとめてくる。なお、この文章を使ってスライドを作成することに留意すること(標準学修時間120分)
7 回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるように予習しておくこと。(標準学修時間120分)
8 回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるように予習しておくこと。(標準学修時間120分)

講義目的	新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機づけを行うとともに、基礎的な学習技術を修得させることである。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	①グループワークにおいて積極的にコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を築くことができる (E)。②第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる (E)。③自分の考えをまとめプレゼンテーションすることができる (E)。
キーワード	学び、人間力、コミュニケーション、アカデミックスキル
成績評価 (合格基準60)	・ワークシートの提出 (30%) ・レポート (30%) ・課題発表 (40%) により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。＊早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は3

	0分ま で、それ以降の入室は認めない。＊課題発表、グループワークの欠席の場合は、その時点で評価対象としない。
関連科目	学びの基礎論A、地域フィールドスタディ、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーションA・B
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	西村（次）研究室:jiro@ee.ous.ac.jp松尾研究室:matsuo@are.ous.ac.jp オフィスアワーについては、mylogを参照のこと。
注意・備考	・本授業は学びの基礎論Aを受講していることがのぞましい。 ・授業中の飲食・私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしまっておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日、配布には応じない。 ・当日、欠席により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。 ・提出課題については講義においてフィードバックする。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。理由がある場合は事前に申し出ること。 ・この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。
試験実施	実施しない

科目名	プレゼンテーション基礎編B (FB22H020)
英文科目名	Presentation Skills (Basic) B
担当教員名	世良利和＊ (せらとしかず＊)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「①プレゼンテーションの大切さ ②テキストと講義の進め方 ③受講シートの記入と提出」について説明する。プレゼンテーションの技法②：つかみ・アイコンタクト・身ぶりといった技法を解説する。
2回	人の話を聞くこと、について解説する。
3回	プレゼンテーション演習②：インタビューを行う。
4回	プレゼンテーション演習②の講評を行う。プレゼンテーションの技法③：プレゼンテーションのツールと事前準備について解説する。
5回	グループ・ミーティング②：役割分担を意識し、ミーティングを行う。
6回	ペア・プレゼンについて解説する。
7回	ペア・プレゼンの準備に取り組む。最終評価試験について説明する。
8回	ここまでの講義をまとめる。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習：聴衆にアピールする方法について考えてくること。復習：つかみ・アイコンタクト・身ぶりにといった技法について確認しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	予習：人の話を聞くこと、について意味を考えておくこと。復習：人の話を聞くためのポイントを確認すること。(標準学習時間60分)
3回	予習：インタビューの準備をしておくこと。復習：インタビューについて自己点検しておくこと。(標準学習時間60分)
4回	予習：プレゼンテーションのツールと事前準備について調べておくこと。復習：ツールと事前準備について確認すること。(標準学習時間60分)
5回	予習：指示されたテーマについてミーティングの準備をしておくこと。復習：ミーティングの内容をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
6回	予習：プレゼンテーションでペアを組む意味について考えてくること。復習：ペアを組む意味を確認すること。(標準学習時間60分)
7回	予習：指示されたテーマについて調べてくること。復習：ペアとしての役割に取り組むこと。(標準学習時間120分)
8回	予習：ここまでの講義内容を確認し、最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	自分の考えを印象的に他人に伝えるための技法を身につける。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	与えられたテーマでスクリプトを構成し、数分程度の発表をすることができる。
キーワード	プレゼンテーション、コミュニケーション、日本語表現
成績評価 (合格基準60)	演習・提出課題 (40%)、最終評価試験 (60%)。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが、最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不可とする。
関連科目	プレゼンテーション基礎編A、プレゼンテーション応用編A・B、文章表現法基礎編A・B、文章表現法応用編A・B
教科書	世良利和・藤野薫／「プレゼンテーションI 基礎編 (改定新版)」(黄色版)／蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1. 受講者数の上限を50名とする。2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3. 受講者は必ずテキストを購入すること。4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。8. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。9. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。10. 本講義ではアクティブラーニングを実施し、グループワーク、グループディスカッションを行う。

試験実施	実施する
------	------

科目名	教養演習 B (FB22H030)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts B
担当教員名	高池久隆 (たかいけひさたか)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	受講生自らが選んだ新聞記事を資料として発表・討論をする。(1)
2 回	受講生自らが選んだ新聞記事を資料として発表・討論をする。(2) 発表用レジュメ作成についての説明をする。
3 回	受講生自らが選んだ新聞記事を資料として発表・討論をする。(3)
4 回	レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(1)
5 回	レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(2)
6 回	レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(3)
7 回	レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(4)
8 回	レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(5) 最終評価試験を実施する。 試験終了後解説をする。

回数	準備学習
1 回	前回配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	前回配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	前回配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	この演習は次の2つを柱とする。 1) 教員側が選んだ新聞記事を読みながら議論をする。 2) 各受講者が関心を持つ問題(分野を問わない)についての簡単な個人発表を行なう。 上記のような作業を行なうことにより、思考能力、表現能力の向上を目指す。 「教養演習 B」では受講者側が選んだ資料を主に扱う。 (教養教育センター 単位認定の方針 E にもっとも強く関与。)
達成目標	様々なテーマに対して自らの考えを整理し、説得力のある発言が行なえること。
キーワード	比較文化、異文化理解、討論
成績評価(合格基準60)	最終評価試験(100%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。
関連科目	教養演習 A、比較文化論 A、比較文化論 B
教科書	使用しない。(プリントを配布する。)
参考書	適宜指示する。
連絡先	B1号館2階 高池研究室
注意・備考	・受講者数の上限を50名とする。 ・最終評価試験終了後解説を行なう。 ・プリントの配布は授業中に行なう。 ・授業中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。
試験実施	実施する

科目名	社会と人間B (FB22H040)
英文科目名	Society and Human Beings B
担当教員名	榎原宥＊（えばらゆたか＊）
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義オリエンテーション－「三権分立」の捉え方と、現在、身の回りに起きている社会問題への関わり方（市民性の発揮）について解説する。
2回	行政への市民参加（1）－ジェンダー問題と、日本女性の社会進出について国際比較を交えながら考える。
3回	第2回講義の続き－ワークシェアリングと今話題になっている「同一労働同一賃金」の関連性を考える。
4回	行政への市民参加（2）－地球環境問題、原発問題と日本のエネルギー政策を総合的に考える。
5回	第4回講義の続き－電力会社、国、市民の社会的責任の関連を考える。
6回	司法への市民参加－日本の裁判員制度とその課題について解説する。
7回	第6回講義の続き－死刑制度の賛否の議論と検察審査会について解説する。
8回	講義の総括と最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	「三権分立」の基礎知識を持っておくこと。（標準学習時間60分）
2回	アフーマティブアクションとは何か、予備知識を持って講義に臨むこと。（標準学習時間60分）
3回	ワークライフバランスとは何か考えておくこと。（標準学習時間60分）
4回	「パリ協定」の予備知識を持って講義に臨むこと。（標準学習時間60分）
5回	あなたは原子力発電所の将来についてどのような意見を持っているか、を考えておくこと。（標準学習時間60分）
6回	日本の裁判員制度の概要について調べておくこと。（標準学習時間60分）
7回	今日の死刑廃止議論についてどう思うか、考えておくこと。（標準学習時間60分）
8回	第1回から第7回までの講義内容を良く理解、整理しておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現します。そして、この「社会」には一定のルールと秩序が存在しますが、それらを巡って、色々な対立が起き、様々な社会問題が生まれます。北朝鮮問題、英のEU離脱、米のトランプ政権施策、日本の安倍政権の立ち位置と、国内外の社会変化の話題（問題）には事欠きません。このような時代だからこそ、君たち若者が「市民性＝社会参画の権利と義務」を発揮することの重要性を実感します。そこで、この講義では、君たちと「三権」の内「行政」と「司法」との関わりを取り上げます。題材は、女性の社会進出問題、地球環境、裁判員制度等の現在進行形の時事問題です。これらの講義を通して、皆さんが良き市民として成長し、社会問題をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけば良いかを学びます。（教養教育センター単位認定方針Cにもっとも強く関与）
達成目標	憶測や予見を排して問題点を観察し、主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを言葉や文章で表現出来ること。
キーワード	市民性、ルールと秩序、社会的責任
成績評価（合格基準60	最終評価試験100%で評価し、60%以上を合格とする。。
関連科目	社会と人間A
教科書	使用しない。講義中にレジメを配布する。
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	
注意・備考	関連科目の「社会と人間A」の履修を要望する。

試験実施	実施する
------	------

科目名	考古学B (FB22H050)
英文科目名	Archaeology B
担当教員名	白石純 (しらいしじゅん)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	旧石器時代前半について実例を挙げながら説明する。
2回	旧石器時代後半について実例を挙げながら説明する。
3回	縄文時代草創期、早期、前期について実例を挙げながら説明する。
4回	縄文時代中期、後期、晩期について実例を挙げながら説明する。
5回	弥生時代前期、中期について実例を挙げながら説明する。
6回	弥生時代後期について実例を挙げながら説明する。
7回	古墳時代前期について実例を挙げながら説明する。
8回	古墳時代中期・後期について実例を挙げながら説明する。 これまでの講義内容につて総括をする。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	日本の旧石器時代について、発見・時代・生活文化を図書館等で調べておくこと。(120分)
2回	日本の旧石器時代について、石器・製作技法・狩猟方法を図書館等で調べておくこと。(120分)
3回	縄文時代について、定義・年代・生業を図書館等で調べておくこと。(120分)
4回	縄文時代について、住居と集落・墓地と埋葬・土器を図書館等で調べておくこと。(120分)
5回	弥生時代について、定義・年代・生業を図書館等で調べておくこと。(120分)
6回	弥生時代について、住居と集落・墓地と埋葬・土器からみた地域性を図書館等で調べておくこと。(120分)
7回	古墳時代について、年代・古墳の種類と埋葬施設を図書館等で調べておくこと。(120分)
8回	古墳時代について、住居・生活様式を図書館等で調べておくこと。(120分)

講義目的	考古学がなぜ必要であるのか。どんな学問であるのか。現代社会においてどのように役立っているのか。歴史が不得意な受講生にも理解しやすいように解説する。具体的には考古学における資料の分析や研究方法について解説し、考古学で扱う分析資料の分類や基礎的な知識を理解させる。また、考古学における年代決定法(相対年代・絶対年代)について理解させることで、考古学が人文科学的研究法のみでなく、自然科学的分析法によっても研究されていることを学習することを目的とする。(教養教育センター 単位認定の方針Bにもっとも強く関与。)
達成目標	理系。文系を問わず、さまざまな知識、学問に応用できるように発想や資料分析法の仕方の基礎知識を獲得することを目標とする。
キーワード	考古理化学、文化財、文化財科学
成績評価 (合格基準60)	最終評価試験(100点%)により成績を評価する。
関連科目	なし
教科書	使用しない。
参考書	考古学ゼミナール／江上波夫／山川出版社：考古学の基礎知識／広瀬和雄／角川選書
連絡先	21号館6F 白石研究室 086-256-9655 shiraish@big.ous.ac.jp
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	文学B (FB22H060)
英文科目名	Literature B
担当教員名	杉林周陽＊（すぎばやしのりあき＊）
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「グリムのメルヘン」 メルヘンに託された庶民の願望について説明する。
2回	「みづうみ」 過ぎ去った青春時代と人生の無常について説明する。
3回	「変身」 不条理な世界に取り込まれる現代人の悲劇について説明する。
4回	「トーニオ・クレーガー」 市民と芸術家の間で苦悩する人間像について説明する。
5回	「魔の山」 現代社会の精神的混迷の縮図について説明する。
6回	ドイツの叙情詩について概説する。
7回	ドイツ文学のまとめを行う。
8回	最終評価試験と、今後の文学の読み方についての提言を行う。

回数	準備学習
1回	テキストの第七章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。（標準学習時間120分）
2回	テキストの第八章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。（標準学習時間120分）
3回	テキストの第九章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。（標準学習時間120分）
4回	テキストの第十章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。（標準学習時間120分）
5回	テキストの第十一章に目を通して、物語の概略を理解して、複雑な人間関係を整理しておくこと。また前回配付のトーマス・マン資料を必ず持参すること。（標準学習時間120分）
6回	テキストの第十二章に目を通して、詩の概略を理解しておくこと。（標準学習時間120分）
7回	講義中指示したテキストの重要箇所を確認しておくこと。（標準学習時間120分）
8回	重要事項を把握して、試験の準備をしておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	ドイツ語圏の文学の主要作品を手がかりとして、ヨーロッパ文化の特質、ドイツ人のものの考え方、日本と西洋の違いについて、さまざまな観点から考えてみたいと思います。（教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する）
達成目標	作品に登場するさまざまな世界や人間像を考察することによって、文学や社会の構造に対する理解を深めてゆくことを目標としています。
キーワード	文学、社会
成績評価（合格基準60）	毎回のミニレポート40％、最終評価試験60％により成績を評価し、60％以上を合格とする。
関連科目	ドイツ語Ⅰ、Ⅱ（ただし受講にあたって習得の必要はまったくありません。）
教科書	「新しく読むドイツ文学」/三木恒治/蜻文庫
参考書	適宜指示します。
連絡先	
注意・備考	・作品は、原則として日本語訳を参考にして説明する。 ・ミニレポートについては次の時間に印象的なものを紹介する形でフィードバックをすることがある。 ・講義の撮影・録音・録画は一切認めない。 ・教科書以外に参考する資料については授業中に配布する。
試験実施	実施する

科目名	企業と人間B (FB22H070)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	田邊麻里子＊ (たなべまりこ＊)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	＊ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 ＊文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2回	＊コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3回	＊「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4回	＊より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5回	＊コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6回	＊自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 ＊社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけることを学ぶ。
7回	＊テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8回	まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 自己のコミュニケーションスキルの不足部分を補う学習をしておくこと。 (標準学習時間 120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間 120分)
3回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間 120分)
5回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
7回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120分)
8回	これまでの講義内容をよく理解しておくこと。(標準学習時間 120分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要な報告を上司に伝えることが必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 (教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する)
達成目標	①自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ②ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 ③定型的なビジネス文書を作成することができる。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ビジネスマナー
成績評価 (合格基準60)	小テスト10%、最終評価試験90%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	

注意・備考	＊参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。
試験実施	実施する

科目名	企業と人間B (FB22I010)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	世良利和＊ (せらとしかず＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の進め方とテキスト、受講マナーについてガイダンスを行い、講義の概要を解説する。
2 回	企業をめぐる様々な問題を取り上げ、その背景について解説する。
3 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。⑥
4 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。⑦
5 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。⑧
6 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。⑨
7 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。⑩
8 回	講義のまとめを行い、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間30分)
2 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
3 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
4 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
5 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
6 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
7 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
8 回	予習：最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験を自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	企業の本質とは何か。そして企業と個人はどのような関係を結ぶことになるのか。本講義ではこうした点に照準しながら、様々な職業や事例を取り上げて分析し、企業と人間をめぐる現状とあるべき姿について考察する。(教養教育センター単位認定方針Cに強く関与する)
達成目標	企業組織の特徴および企業と個人の関係を理解し、自身のキャリアデザインを具体化するための視点を獲得する。
キーワード	企業、会社、組織、キャリアデザイン、就職
成績評価 (合格基準60)	ミニレポート提出を含む講義への取り組み＝40%、最終評価試験60%とする。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	企業と人間A、ボランティア論A・B
教科書	プリントを配布する。
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 2. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 3. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 4. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 5. 70名程度を目安に受講制限を行うことがある。 6. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 7. 提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 8. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	キャリア形成講座B (FB22I020)
英文科目名	Career Design B
担当教員名	寺田盛紀 (てらだもりき)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【後半のオリエンテーションと導入としてのワークショップ2】 第8回につづき、職業観・キャリア観の形成についての知識をえるために、「キャリア・アンカー」論を講述し、実際にテスト体験を行う。
2回	【第6章前半 高校生・大学生の職業観と職業選択 その1】 キャリア・アンカー論で見たような「職業観（価値観）を希望進路や希望職業の生成との関連で、高校生・大学生に対する調査データを通して観察・理解する。入試や家庭教育など、教育・文化的要因の重要性が説明される。
3回	【第6章後半 高校生・大学生の進路・職業の選択 その2】 進路や職業の選択が入学試験制度に強く作用される仕組み、また「キャリア・モデル」によって促進されたり、妨げられたりすることについて調査データを通して理解する。
4回	【第7章 職業観とその変化・形成の仕組み】 たしかな進路や職業の選択は、生徒・若者のキャリアイベント(学習や仕事などの体験)に左右されることにみついてデータを通して理解する。
5回	【第8章 職業観と生活時間】 高校生の24時間を日本、ドイツ、韓国の生徒達を例にして、比較してみる。国や文化の差違、共通性を理解する。
6回	【第9章 大学生のキャリア形成】 なぜ大学生のキャリア形成が問題になるのかということについて、おもに文部科学省関連の議論を追跡し、理解する。
7回	【第10章前半 成人のキャリア形成】 企業で働く日本の成人のキャリア形成の仕組みを「日本的な労働市場」（年功制や終身雇用）との関係で理解する。
8回	【第10章後半 成人のキャリア形成支援システム】 企業内の労務や教育のシステムの存在について知り、就職後の自己のキャリアデザインに備える。同時に、これまでの理解度の最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	<準備> 自分が将来の職業を選択する上で、大切にしたいこと（価値）をメモし、授業に持参する。(60分)
2回	ドイツ、アメリカ、インドネシア、中国、韓国のいずれかの国高校について予備知識を持っておく。(120分)
3回	自分の「キャリア・モデル」（プラスの意味とマイナスの意味と）について、考えておく。(60分)
4回	ネット検索でよいので、職業観のアンケート調査結果の具体例を発表（答えること）ができるようにしておく。(60分)
5回	教科書の8章の生活時間調査用紙を参考に、自分の週間24時間を書いてみる。(60分)
6回	ネット検索で、2011年の中教審・キャリア教育・職業教育に関する答申に目を通しておく。（ネットダウンロード可）(60分)
7回	「年功制」、「終身雇用」、「定期配置転換」について、先輩か親と対話（電話）し、事前に実態の一端について知識を得ておく。(60分)
8回	15回すべての講義ノート、教科書を総ざらいしておく。(120分)

講義目的	この講義は「キャリア形成」ということについての心理学、社会学、経済学、教育学などの知識を伝え、それを自分の体験や取材・事前学習との関連で理解することを目指す。合わせて、高校や大学での仕事や職業についての自己理解を体験し、探索的経験を促すことを目的とする。（教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する）
達成目標	各回の講義概要に期した理解目標、事前学習で指示している学習・取材・予備調査、その記録の週間、スキルを身につけること。
キーワード	キャリア形成、キャリア開発、キャリア教育、キャリアデザイン、進路、職業選択、職業観、高校生、大学生、成人職業人
成績評価（合格基準60%）	合格最低基準60%、最終評価試験（80%）、提出課題（レポートか質問・発問）への回答(20%)
関連科目	「企業と人間」、「生徒・進路指導論」（教育学部）
教科書	寺田盛紀『キャリア教育論－若者のキャリアと職業観の形成』（学文社、2016年第2刷、学内丸善社取り扱い）

参考書	その都度指示する
連絡先	キャリア支援センター
注意・備考	受講者数の上限は50名とする。
試験実施	実施する

科目名	教養演習 B (FB22I030)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts B
担当教員名	三木恒治 (みきこうじ)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	グループに分かれて、特定のテーマについて発表する。(1) (標準学習時間 1 2 0 分)
2 回	グループに分かれて、特定のテーマについて発表する。(2) (標準学習時間 1 2 0 分)
3 回	グループに分かれて、特定のテーマについて発表する。(3) (標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	話を興味深いものにするための工夫について説明する。(標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	レジュメの作成方法について説明する。(標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	ディスカッション、5 分間スピーチの要領について説明する。(標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	これまでの総まとめを行う。(標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	最終評価試験と今後の取り組みについて提言を行う。(標準学習時間 1 2 0 分)

回数	準備学習
1 回	グループ毎にテーマを決めて、それについて調べておくこと。
2 回	グループ毎にテーマを決めて、それについて調べておくこと。
3 回	グループ毎にテーマを決めて、それについて調べておくこと。
4 回	資料の作成方法、プレゼンテーションの方法について復習しておくこと。
5 回	自分の関心のある分野、事象を扱った文献を調べてみる。
6 回	レジュメの作成方法について復習しておくこと。
7 回	これまでの学習を通じて、「自己表現能力」がどの程度身に付いたか、確認すること。
8 回	最終評価試験の準備をしておくこと。

講義目的	まずは「旅」という誰しも体験可能なテーマについて語ることからスタートしますが、自分の興味がある分野を中心にさまざまなことを調べ、発表や討論によって「自分を表現する」力を養うことをねらいとしています。また資料やレジュメの作成方法を学ぶことによって、卒論や就職活動の基礎学力を身につけることも目指しています。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	学習テーマについて調べた内容を「まとめる」ことによって豊かな表現力を育み、グループ作業を通じて協調性を身につけることを目標としています。
キーワード	「文化に触れる」「社会を知る」「自己を表現する」
成績評価 (合格基準60%)	演習 (講義内でのプレゼンテーション等) 8 0 %、最終評価試験 2 0 %により成績を評価し、6 0 %以上を合格とする。
関連科目	プレゼンテーション I、II
教科書	プリント配布
参考書	適宜指示します。
連絡先	A-2号館 8 階、オフィスアワー別途参照
注意・備考	時事、文化に関する情報、知識を、書物等を通じて日頃から収集するよう心がけてください。 この講義は 1 5 ~ 2 0 名を前提としていますが、そうでない場合は講義内容が変更となる場合がありますので、ご留意ください。 また、初回は必ず出席してください。 受講者数の上限は 5 0 名とする。
試験実施	実施する

科目名	社会と人間B (FB22I040)
英文科目名	Society and Human Beings B
担当教員名	榎原宥＊（えばらゆたか＊）
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義オリエンテーション－「三権分立」の捉え方と、現在、身の回りに起きている社会問題への関わり方（市民性の発揮）について解説する。
2回	行政への市民参加（1）－ジェンダー問題と、日本女性の社会進出について国際比較を交えながら考える。
3回	第2回講義の続き－ワークシェアリングと今話題になっている「同一労働同一賃金」の関連性を考える。
4回	行政への市民参加（2）－地球環境問題、原発問題と日本のエネルギー政策を総合的に考える。
5回	第4回講義の続き－電力会社、国、市民の社会的責任の関連を考える。
6回	司法への市民参加－日本の裁判員制度とその課題について解説する。
7回	第6回講義の続き－死刑制度の賛否の議論と検察審査会について解説する。
8回	講義の総括と最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	「三権分立」の基礎知識を持っておくこと。（標準学習時間60分）
2回	アフーマティブアクションとは何か、予備知識を持って講義に臨むこと。（標準学習時間60分）
3回	ワークライフバランスとは何か考えておくこと。（標準学習時間60分）
4回	「パリ協定」の予備知識を持って講義に臨むこと。（標準学習時間60分）
5回	あなたは原子力発電所の将来についてどのような意見を持っているか、を考えておくこと。（標準学習時間60分）
6回	日本の裁判員制度の概要について調べておくこと。（標準学習時間60分）
7回	今日の死刑廃止議論についてどう思うか、考えておくこと。（標準学習時間60分）
8回	第1回から第7回までの講義内容を良く理解、整理しておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現します。そして、この「社会」には一定のルールと秩序が存在しますが、それらを巡って、色々な対立が起き、様々な社会問題が生まれます。北朝鮮問題、英のEU離脱、米のトランプ政権施策、日本の安倍政権の立ち位置と、国内外の社会変化の話題（問題）には事欠きません。このような時代だからこそ、君たち若者が「市民性＝社会参画の権利と義務」を発揮することの重要性を実感します。そこで、この講義では、君たちと「三権」の内「行政」と「司法」との関わりを取り上げます。題材は、女性の社会進出問題、地球環境、裁判員制度等の現在進行形の時事問題です。これらの講義を通して、皆さんが良き市民として成長し、社会問題をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけば良いかを学びます。（教養教育センター単位認定方針Cにもっとも強く関与）
達成目標	憶測や予見を排して問題点を観察し、主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを言葉や文章で表現出来ること。
キーワード	市民性、ルールと秩序、社会的責任
成績評価（合格基準60	最終評価試験100%で評価し、60%以上を合格とする。。
関連科目	社会と人間A
教科書	使用しない。講義中にレジメを配布する。
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	
注意・備考	関連科目の「社会と人間A」の履修を要望する。

試験実施	実施する
------	------

科目名	現代人の科学D(人工知能への道と社会への影響) (FB22I060)
英文科目名	Science Literacy D
担当教員名	大西 荘一* (おおにし そういち*)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	第1次から第4次の産業革命について、それぞれのその原因となった科学技術と社会への影響について概説する。(資料を配布する)
2 回	コンピュータの主要な理論の歴史と提唱者について、及び知能について解説する。
3 回	ノイマン型コンピュータの原理とICTの進化のポイント及び人工知能の歴史を解説する。
4 回	コンピュータ技術の確立とハードウェアの技術革命及び人工知能用コンピュータについて解説する。
5 回	日本における電卓開発の背景とその熾烈な開発競争が生み出した偉大な技術が社会に及ぼした影響について解説する。 ソフトウェア発展の歴史の概説とソフトウェア危機の原因と対策、及び教育界への影響について解説する。
6 回	インターネット及び人工知能(AI)とIoTが社会に及ぼす影響について解説する。
7 回	前半： インターネットの通信技術の概説をする。 後半： 個人あるいはグループで人工知能をテーマにプレゼンテーションをし、その内容について質疑応答をする。
8 回	前半：個人あるいはグループで人工知能をテーマにプレゼンテーションをし、その内容について質疑応答をする。 後半：最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、学習の過程を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	前回配布した資料を学習しておくこと。及び、その内容に関連したことをインターネットで検索し学習しておくこと。教科書1-1項(全14ページ)を学習しておくこと。(標準学習時間180分)
3 回	配布資料の「進化のポイント」の項、及び教科書2-1-2項(全8ページ)を学習しておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	配布資料の該当する項を学習しておくこと。(標準学習時間70分)
5 回	配布資料の「電卓戦争」及び「ソフトウェア危機」の項を学習しておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	配布資料及び教科書の2-2項を学習しておくこと。(標準学習時間70分)
7 回	パワーポイントでプレゼン資料を作成しておくこと。(標準学習時間240分)
8 回	最終試験にそなえ復習をしておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	煩雑な計算から解放されるために人類が歩んだ道を振り返って、現代のコンピュータの偉大さと人工知能が社会に与えた影響を理解する。 コンピュータ及び人工知能に関連する技術が発展する過程を知ることによって、情報関連技術の方向性を知る。 過去を見つめることによって、新たな情報関連技術を創造するための資料とする。 (理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与)
達成目標	現在のコンピュータ及び人工知能が歩んできた道を理解する。それと共に、既に学んだ現在使われている情報関連技術を再確認すること。 また、過去に開発された技術について、歴史的な位置づけをして、それぞれの技術の社会への影響を評価できるようになること。コンピュータ及び人工知能の歴史の中で興味のあることについて、友達あるいは知り合いに説明ができるようになること。
キーワード	計算機械、コンピュータ、マイクロプロセッサ、パソコン、ソフトウェア、インターネット、電卓、人工知能(AI)、IoT
成績評価(合格基準60)	小レポート(20%)、プレゼンテーション(10%)、最終評価試験(70%)で評価し、

	総計で60%以上を合格とする.
関連科目	高等学校情報科のコンピュータの歴史に関連した個所である.
教科書	人工知能の基本／東中竜一郎／翔泳社／ISBN978-4-7981-5153-3 講義スライドを資料として配付する.
参考書	実物でたどるコンピュータの歴史／竹内伸／東京図書／ISBN978-4-487-80692-8 コンピュータ200年史／山本菊男訳／海文堂／ISBN4303714305-9784303714307 日本のコンピュータ史／情報処理学会歴史特別委員会／オーム社／ コンピュータの時代を開いた天才たち／デニス・シャシャ、キャシー・ラゼール(鈴木良尚訳)／ 日経BP社／ ノイマンとコンピュータの起源／William Aspray 著 杉山 滋郎, 吉田 晴代 共訳／ 産業図書／
連絡先	mascot_oni@yahoo.co.jp
注意・備考	・ PowerPointでプレゼンスライドを作成してもらうので、PowerPointが利用でき ることが望ましい. ・ 学生が調査内容を発表するので、発表を1回の授業で終わらせるために、 50名以上の場合は受講制限する可能性がある. ・ 情報科学科の学生は、内容が学科必修科目と重複するので、受講を許可しない。 ・ 講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布に は応じない。 ・ 講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に 相談すること。 ・ 課題については、パワーポイントでプレゼンスライドを作成し、指定された 講義日にプレゼンテーションを行い、質疑応答でフィードバックを行う。
試験実施	実施する

科目名	科学技術と人間 B (FB22I070)
英文科目名	Science-Technology and Human Beings B
担当教員名	若村国夫＊ (わかむらくにお＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	「こんなに違う日本とヨーロッパの技術思考①伝統水車」 日本とヨーロッパで伝統技術がどのように違うのかを水車を例にとり概観する。水車は世界で共通に使用されてきた唯一の動力源であり、産業革命初期の立役者でもあった。中世に水車の技術を高度化した北西ヨーロッパから科学が興った。水車の技術的側面を日本とヨーロッパとで比較すると、日欧の技術思考の差異をはっきり認識できる。若村の 25 年に及ぶ水車の調査結果も写真と図とで紹介する。
2 回	「こんなに違う日本とヨーロッパの技術思考②：船に見る日欧技術比較論」 船は世界で唯一共通に使用されてきた運搬装置である。水車と同様、中世の代表的技術であり、これを発展させた西ヨーロッパの人々は世界に活躍し、大航海時代と富の豊かさを得た。日本とヨーロッパの伝統的船にはその使用法や構造が風土や社会の影響が強く現れている。さらに船の修理装置の乾ドックにも船の特徴が反映され、日欧で大きな違いがみられる。若村の 16 年に渡る調査結果を含めて写真と図で分かりやすく紹介する。
3 回	「技術が誘発した社会の激変」 産業革命はイギリスの綿工業から始まり、「鉄は国家なり」と云われた鉄鋼業の発展が続く。イギリスはこれらの先頭を走ったが、イギリス人の熔鉱炉の発明がイギリスを製鉄業の先頭から追い落とし、アメリカ、ドイツが台頭する。旧技術にしがみつくとイギリスから新技術に向かうアメリカ、ドイツが次の世代を担った。この歴史や一つの発明が世界を変えた例、アメリカ人が志した発明への評価などを紹介し、次世代の技術発展に何が必要かを考える。
4 回	「技術が生んだ富の増大」 農業技術の発展は農地の拡大が富の増加につながることを教え、農産物の交易はさらなる富を生むことを教えた。交易が生産品により活発化した結果、生産増の方法や船の重要性が認識され、現代ヨーロッパを彩る種々の生活用品が次々持ち込まれた。これらを紹介する。
5 回	「大航海時代と産業革命が生んだ経済学」 大航海時代に富を蓄え、さらに富を増やすための交易品製造の技術に注目が集まった。富の増大は経済学を生み、産業革命では貧富の差の拡大や社会環境、社会生活スタイルの激変が生じた。これらに対して富の分配を如何にすべきかを考えた経済学者が現れた。技術の視点から、アダムスミス、シュンペータ、マルクス、マルサスなど当時の経済学者の考えを紹介し、労働と技術、経済の関係を考える。
6 回	「科学技術の発展と人間疎外」 産業革命による技術発展は大量生産で人々を豊かにしたが、反面、市場競争や原料の獲得競争が生じ、第一次大戦へと進んでいく。大量殺戮、単純労働、児童労働など人間にとって負の要素も増えた。人権を土台として技術の持つ負の要素と、日本とヨーロッパの技術に盛られる人権の差異を紹介する。
7 回	「戦争技術のイノベーションと日欧人権の差異」 戦争には各国の持つ最高レベルの技術が投入される。アルマダの戦いや第一次、第二次世界大戦に典型的に見られたが、その兵器を使用する兵士への人権の有無を日欧で比較する。この差異は現在の日常の技術製品にも見られることを具体例で指摘する。
8 回	講義と最終評価試験 講義：「21 世紀の科学技術を考える」これまで学んだ技術の歴史、技術が社会へ果たした役割、技術の負の側面を振り返り、21 世紀の技術の進む方向はどうあるべきかを考える。日本人にはなじみのない人権と技術、自然破棄する技術などを紹介し、自然科学だけでなく人文科学まで取り込んだ技術思考の必要性を考察する。

回数	準備学習
1 回	特に無し
2 回	知識度にもよるが30分ほど第一回講義内容を復習すること
3 回	知識度にもよるが30分ほど第 2 回講義内容を復習すること

4回	知識度にもよるが30分ほど第3回講義内容を復習すること
5回	知識度にもよるが30分ほど第4回講義内容を復習すること
6回	知識度にもよるが30分ほど第5回の講義内容を復習すること
7回	知識度にもよるが30分ほど第6回講義内容を復習すること
8回	試験に対しては第7回までの講義内容を二時間以上復習すること

講義目的	経験技術が科学技術となり、これが人間社会に与えてきた正と負の影響、文化との密接な関係、多様な技術アイデア創出の原因などを、技術の歴史や日中欧米の社会体制や風土などを通して認識する。最近の環境問題や台頭するかつての技術王国・中国、遅れから一気に先頭に躍り出たアメリカの技術政策等を視野に入れ、科学と技術が及ぼした自然や社会への影響と変遷の様子を観る。写真と図を中心とした映像で話を印象深く進める。
達成目標	科学や技術社会の視点から日本、欧米、中国の歴史を知り、客観的に社会現象を見る眼を養う。地球温暖化軽減の技術の方向や技術社会、人権と技術、技術のグローバル化の未来などを日本の伝統技術思考や産業革命前後の社会の構造変化や西洋の論理などから考察し、技術を幅広く捉えられる知識と思考を養い、21世紀の技術の進むべき方向を自ら考えられる素地を作る。科学や技術の歴史を社会、経済、政治史などと結びつけて見ることで、21世紀の技術社会の方向が見えてくる。
キーワード	日欧中各国技術比較、伝統技術、環境、水車、船、社会、経済、封建制、民主主義、資本主義、産業革命、大英帝国、戦争、人権、技術アイデア、風土、グローバル化、発明
成績評価（合格基準60	授業ごとの小問試験(成績の12%)と最終評価試験(成績の88%)の得点による。
関連科目	特になし
教科書	科学技術と人間（科学技術の社会史）/若村国夫/書店販売しない
参考書	高校の教科書「日本史」、「世界史」、世界地図
連絡先	非常勤講師控室
注意・備考	・履修希望者が150名程度を越える場合は受講生数の制限をかけることがある。 ・地球温暖化、自然破壊、日本の伝統技術の消滅、近隣諸国との資源争奪戦など、技術立国日本の足下を揺るがす変化が多い中、本講義では科学や技術の視点から歴史や社会を客観的に見る眼を養い、日本はどうあるべきかを考える。このことは、科学技術を学ぶ者にとって大いに必要となっている。学科の専門にとらわれず科学者、技術者、理科教員の品格を得る一助として受講を薦める。本講義は筆者の30年に渡る日欧の伝統技術の研究と最も西洋科学的な物理学的視点とを融合させ、技術と生活の結びつき、歴史や経済、人権などとの関係を加えた構成としている。身近な生活用具や風俗にも技術につながる要素が含まれていることを知る必要がある。 ・科学技術と人間A」と「科学技術と人間B」は順序性がありますので、ⅠとⅡの連続受講を推奨します。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編B (FB22K010)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	辻維周 (つじまさちか)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス (講義の進め方、評価法などの説明)
2回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
3回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
4回	・今まで行った自己紹介を基に、それぞれ質問を行う。また質問された人は誠意をもって答える練習をする。 ・次回から実施するグループワークのグループ分け。
5回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える1
6回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える2
7回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考え、各自がその考えを文章化する
8回	総括

回数	準備学習
1回	テキストを熟読しておくこと。(標準学習時間90分)
2回	自己紹介を考えておく。その際自分がクラスの人たちに何を一番伝えたいかを考慮する事(標準学習時間90分)
3回	自己紹介を行った人に対して質問を考える。(標準学習時間90分)
4回	質問を考えておく(標準学習時間60分)
5回	自分が書いた文章の修正をしておくこと。(標準学習時間90分)
6回	自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
7回	自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
8回	原稿を書き上げておく。

講義目的	自分の考えを人にもわかりやすく文章にまとめるという事は、結構難しい。それを克服させるための講義。(教養教育センター単位認定方針Eにもっとも強く関与する)
達成目標	少なくともマイプロフィールは誰が読んでもわかりやすいと思われるよう書けるようにすることを目的とする。
キーワード	自分だけで納得して文章を書いてはダメ。
成績評価 (合格基準60)	発表点60点、文章点40点で60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	特になし
参考書	国語辞書
連絡先	ous.tsuji@gmail.com
注意・備考	・講義の性格上、受講生は最大50名までとする。 ・この講義は全員参加型なので、講義にきちんと出席し、自分の意見を言える人はもちろんの事、いい文章を書きたいと望んでいる学生だけに参加してもらいたい。
試験実施	実施しない

科目名	社会と人間B (FB22K020)
英文科目名	Society and Human Beings B
担当教員名	市場恵子＊ (いちばけいこ＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	【震災と原発】3.11から3年。原発の「安全・安心・必要」神話を問い直し、真の豊かさとは何かを問う。
2 回	【「慰安婦」問題とメディア】戦時性暴力は今も繰り返されている。不処罰の連鎖を断つための試みとメディアの対応を検証する。
3 回	【「ホームレス」と貧困】若者による「ホームレス」襲撃事件や、野宿生活者の実態を知り、「貧困」を生み出す社会的背景を考える。
4 回	【犯罪と更生】アメリカの受刑者更生施設「アミティ」の実践（治療共同体）を知り、加害者の更生には何が必要かを学ぶ。
5 回	【育児とジェンダー】映画『クレマー・クレマー』を観て、「ワーク・ライフ・バランス」や父親の育児参加を促す。
6 回	【介護とジェンダー】近年、ひとりぐらしの高齢者が増加。介護を担う人の4人に1人が男性という時代。介護疲れから虐待・心中に追い込まれる人もいる。『折り梅』を観て、これからの高齢者問題を考える。
7 回	【アサーティブ・トレーニング】コミュニケーションパターンを学び、自分のクセに気づく。「Iメッセージ」と「YOUメッセージ」の違いを学び、2人組になって自他を尊重する会話や、「ノー」と言う練習をする。
8 回	【ディーセントワーク】（前半45分間講義）人間らしい働き方とはどんな働き方か。労働基準法も併せて検討する。 【期末試験】（後半45分間試験）

回数	準備学習
1 回	【震災と原発】原発事故後の報道がどんなものだったか、チェルノブイリ原発事故による外部被ばく・内部被ばくがどんなものだったか、自然エネルギーにはどんなものがあるか、調べておくこと。（標準学習時間120分）
2 回	【「慰安婦」問題とメディア】「慰安婦」とは何を意味する言葉か、調べておくこと。（標準学習時間120分）
3 回	【「ホームレス」と貧困】野宿生活者はなぜ野宿に至ったのか、どんなところでどんな生活をしているか、調べたり、考えてみる。（標準学習時間120分）
4 回	【犯罪と更生】日本では少年院や刑務所に入った人は、どのような教育を受けて、社会復帰しているのか、調べておくこと。（標準学習時間120分）
5 回	【育児とジェンダー】将来、子育てをするとき、父として母としてどんな社会や職場が望ましいか、考えてくること。（標準学習時間120分）
6 回	【介護とジェンダー】高齢者を誰が介護しているか？ 介護者の悩みは？ 身近な介護問題を調べてくること。（標準学習時間120分）
7 回	【アサーティブ・トレーニング】あなたはイヤなことに「ノー」と言えているだろうか。自分の気持ちや欲求を率直に伝えられているだろうか。日常の会話を振り返ってみること。（標準学習時間120分）
8 回	【ディーセントワーク】人間らしい働き方は？ 労働者の権利を守るために国内にはどんな法律があるか調べておく。（標準学習時間120分）

講義目的	性や人権に関する基礎知識を学び、現代社会で起きている様々な問題や、そこに暮らす多様な人間の存在を理解します。人権を守ったり、回復していくために必要な視点や、被害者支援の方法についても学び、他者と対等につながっていくためのコミュニケーション・スキルを練習します。（教養教育センター 単位認定方針のCにもっとも強く関与する）
達成目標	社会には性差別やさまざまな人権侵害が起きています。誤って身につけた「神話」や偏見を学び落とし、自他の意識変革・行動変容を促す力を身につけましょう。自尊感情を高め、自分も相手も尊重する自己表現のこつを学び、平和で対等なパートナーシップを築いていきましょう。
キーワード	震災、原発、避難、日本軍「慰安婦」、貧困、ホームレス、犯罪、更生、傾聴、Iメッセージ・YOUメッセージ、アサーティブ・トレーニング、ディーセントワーク、働き方改革

成績評価（合格基準60	毎回講義後に提出するミニレポート50%、試験50%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	愛する・愛される～デートDVをなくす若者のレッスン7／山口のり子／梨の木
参考書	坂上香『ライフアーズ』（みすず書房）、北村年子『「ホームレス」襲撃事件と子どもたち』（太郎次郎社エディタス）、VAWW-NETジャパン『NHK番組改変と政治介入～女性国際戦犯法廷をめぐる何が起きたか』（世羅書房）、上野千鶴子『おひとりさまの老後』（法研）、上野千鶴子『おひとりさまの最期』（朝日新聞出版）、森田汐生『もっとことばに出そう！自分の気持ち』（すばる舎）、アーサー・ビナード『知らなかった、ぼくらの戦争』（小学館）、阿部彩『子どもの貧困II～解決策を考える』（岩波新書）、吉野源三郎・羽賀翔一『君たちはどう生きるか』（マガジンハウス）
連絡先	PCメール：kei3@pol.oninet.ne.jp T & F：086-277-7522
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	哲学B (FB22K030)
英文科目名	Philosophy B
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および東洋哲学とは何かを説明する。
2 回	インド哲学 (1)ーインド哲学の誕生から沙門宗教の成立までを説明する。
3 回	インド哲学 (2)ーインドの「六派哲学」と現代へのその影響を説明する。
4 回	中国哲学 (1)ー諸子百家の思想を説明する。
5 回	中国哲学 (2)ー朱子学と陽明学を説明する。
6 回	イスラーム哲学 (1)ーキンディーとファーラービーの哲学を説明する。
7 回	イスラーム哲学 (2)ーイブン・スィナーとガザーリーの哲学を説明する。
8 回	前半：最終評価試験 後半：試験の解答と解説

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、「東洋哲学とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。(標準学習時間30分)
2 回	前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
4 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
5 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	本講義では、インド、中国、およびイスラーム文化圏の哲学を通して、代表的な東洋哲学をひと通り学ぶ。哲学はあらゆる学問の基礎とも言えるため、その思考方法を身につけることにより、自身の専門分野の研究にそれを生かすことができるようになるのが、本講義の最終的な目的である。(教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する)
達成目標	①哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、自分の言葉できちんと説明することができる。 ②各文化圏の思想を比較し、それらの間の共通点、相違点を見出すことができる。

	③過去の哲学者の思考を追体験し、自分の専門の研究に役立てることができる。
キーワード	哲学、思想、宗教、東洋哲学
成績評価（合格基準60	・授業での提出課題（60%） ・最終試験（40%） ※授業開始後30分以降の入室は認めない。また、課題未提出の場合は、評価の対象としない。
関連科目	哲学A、倫理と宗教
教科書	特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。
参考書	参考書は、授業内で適宜、紹介する。
連絡先	
注意・備考	・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。 ・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。
試験実施	実施する

科目名	経営工学 B (FB22K040)
英文科目名	Industrial Engineering B
担当教員名	西敏明* (にしとしあき*)
対象学年	2 年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	理学部, 情報工学科, 知能機械工学科, 工学プロジェクトコース, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	多能工化とフレキシブル生産体制、工程分析について説明する。
2 回	品質管理について説明する。
3 回	品質経営について説明する。
4 回	生産性管理と作業管理について説明する。
5 回	インダストリアル・エンジニアリング (I E) について説明する。
6 回	バリューエンジニアリング (V E) と工学における技術開発について説明する。
7 回	設備管理と数理モデルの考え方について説明する。
8 回	1ー7回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	前回の講義の復習と、テキストの多能工化とフレキシブル生産体制、工程分析について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
2 回	前回の講義の復習と、テキストの品質管理について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
3 回	前回の講義の復習と、テキストの品質マネジメントについて予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
4 回	前回の講義の復習と、テキストの生産性管理と作業管理について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
5 回	前回の講義の復習と、テキストのインダストリアル・エンジニアリング (I E) について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
6 回	前回の講義の復習と、テキストのバリューエンジニアリング (V E) について予習しておくこと。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)
7 回	前回の講義の復習と、テキストの生産管理について予習すること。 講義終了後、講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 (標準学習時間120分)

8回	予習として、1－7回までの内容をよく理解し整理しておくこと。 講義終了後、講義で使ったテキストの箇所と配布プリントの内容を復習して理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
講義目的	経営工学は、工学の広範な範囲をカバーしている。工学の様々な技術・考え方を学ぶ上で、経営と工学、および工学を基礎とした経営最適化（例として、生産管理）の考え方、品質経営、オペレーションリサーチなどの基礎的知識・基本的事項を学ぶ。これらを学ぶことにより、広範な工学的専門知識の基礎となる考え方を理解・習得することを目的とする。 (教育支援機構 教養教育センターの単位認定の方針（ディプロマポリシーに相当）Eに強く関与)
達成目標	・生産システム、IE、品質経営、品質管理、工程管理・解析などの基本的事項を理解できる（C） ・学生諸君の所属学科の専門知識に理解・応用できる能力を考え方を身につける(E) ・工学を学んでいく上で、様々な管理技術の考え方を身につけ、互いにコミュニケーションを取りつつ自らの考えをまとめ、人に伝え、説明できることが出来る（E） ＊（ ）は教育支援機構 教養教育センターの単位認定の方針（ディプロマポリシーに相当）の対応する項目（教育支援機構 教養教育センターのホームページ参照）
キーワード	生産システム、IE、品質経営、品質管理、工程管理・解析、オペレーションリサーチ
成績評価（合格基準60）	最終評価試験（100％）で総合的に評価する。 但し、基準点を設け、得点が100点満点中、60点未満の者は不合格とする。
関連科目	工学系基礎科目
教科書	図解入門ビジネス 生産現場の管理手法がよーくわかる本[第2版] /菅間正二／秀和システム /4798037303
参考書	適宜、講義中に示す。
連絡先	岡山理科大学C3号館4階「松浦研究室」
注意・備考	・講義関連資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。 ・提出課題がある場合は、提出後、後日講義中に解答例を示しフィードバックを行う。
試験実施	実施する

科目名	技術マネジメント B (FB22K050)
英文科目名	Management of Technology B
担当教員名	西村寿夫＊ (にしむらひさお＊)
対象学年	3 年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	論文、特許、報告書の役割を理解する。知的財産権、特許、実用新案について理解する。技術マネジメントAの最終評価試験結果の返還予定日。第3章：知的財産のマネジメント 西村 寿夫＊
2 回	企業の価値をどのような観点からみるのか、また会計、原価計算、金融についての考え方を理解する。技術マネジメントAの最終評価試験結果の返還予定日（予備日）。第4章：アカウンティングとファイナンス 西村 寿夫＊
3 回	「人材こそが最大かつ唯一の財産である」と謳っている企業がある。この大切な人材を能力、評価、育成に関して、どのように考えたらよいかを理解する。第5章：ヒューマンリソース 西村 寿夫＊
4 回	マーケティングの分析方法について理解し、自社の理念やコア技術、プラットフォーム技術との関連について理解する。第6章：マーケティング 西村 寿夫＊
5 回	研究開発を推進する時に、どのような考え方をし、どこに注意を働かせるかを理解する。また製品化までの険しい道のりと留意点を理解する。第7章：R&D 西村 寿夫＊
6 回	ボーダーレスビジネス環境に打ち勝つ企業が、グローバル企業でもある。通信、流通、金融、市場、技術等のボーダーレス化は著しい。半面、政治、宗教、生活習慣、言語等がボーダーレス化を抑制している。この両面から、適切なボーダーレス化とはを理解し、グローバル企業の条件、あり方を考える。第14章：ボーダーレスビジネス環境 西村 寿夫＊
7 回	技術を駆使してのものづくりだけでなく、社会に受け入れられる企業の構築、維持することの重要性を理解する。ものづくりは豊かな社会を築く半面、エネルギーを多く消費している。環境保全にも重きを置いた持続可能な企業の発展がWCEDでも提唱されている。これらのことを理解する。 第15章：企業の社会的な活動、第16章：環境マネジメント 西村 寿夫＊
8 回	最終評価を行い、試験終了後に出题内容について解説を行う。 西村 寿夫＊

回数	準備学習
1 回	知的財産、知的財産権について予習しておくこと。特許を出願する目的を予習しておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	企業価値、ROE,貸借対照表について予習しておくこと。（標準学習時間60分）
3 回	人が他人を評価する意味合いと評価方法、やりがいとは何か、人材とは企業経営において、どのような位置づけにあるかを予習しておくこと。（標準学習時間60分）
4 回	製品のニーズを掴むためには、どのような方法があるかを予習しておくこと。またニーズを採用するための条件を考えておくこと。（標準学習時間60分）
5 回	企業における研究開発の役割をせりする。研究開発を順調に推進するために必要なことは何かを予習しておくこと。（標準学習時間60分）
6 回	コストダウンのために人件費の安い国（中国）で製造した場合の問題点を予習、検討しておくこと。（標準学習時間60分）
7 回	企業は何故、社会に目を向けた活動をするかを考え、CSR,コンプライアンス等の意味を予習しておくこと。我が国の土壤汚染問題を一つ取り上げて説明する。CO2排出量で世界の国々が同調しない一番の大きな理由を考えておくこと。（標準学習時間60分）
8 回	1～7回までに説明した技術マネジメントBの基礎について復習しておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	企業では、全社の体制・組織や末端の部課に至る役割・分担が明確に全社規定に定めら 00
------	--

	れている。それを実務体験の浅い若手が十分理解することは、容易ではない。「技術マネジメント（経営）」は通産相で定義されているように「技術を、事業の核とする企業・組織が次世代の事業を継続的に創出し、持続的発展を行うための、創造的、かつ戦略的なイノベーションである。これを理解することで、技術者や研究者を目指す学生が企業における技術者や研究者の立ち位置を俯瞰的に把握でき、将来のリーダーとしての能力を涵養できる。技術マネジメントAでは、ものづくりに関連したMOTの項目を履修した。技術マネジメントBでは技術を核とした企業が、事業を継続的に持続的発展を行うを行うためのMOT項目を取り上げて履修する。
達成目標	1. 知的財産権の内容と意図を理解する。 2. 原価計算と会計システムを理解し、企業の原価、業績等を読み取る力を身につける。 3. 人の評価方法を理解する。 4. 市場調査方法とニーズに基づく製品化を理解する。 5. ボーダーレスビジネス環境におけるグローバル企業の在り方を考える能力を身につける。 6. 企業の社会的な役割や環境問題の重要性を理解する。
キーワード	知的財産権、原価と会計システム、ヒューマンリソース、マーケティング、R&D、ボーダーレスビジネス環境、CSR、環境マネジメント
成績評価（合格基準60	毎講義のレポート（20％）、最終評価試験（8回目、出題対象：1回から7回、80％）の総合評価により、60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	技術経営論入門（わかりやすいMOTの考え方）/阿部隆夫/森北出版発行
参考書	1. 延岡健太郎著/MOT(技術経営)/日本経済新聞社発行 2. グローバルタスクフォース(株) 編/通勤大学MBA 1 1 MOTテクノロジーマネジメント/総合法令出版発行 3. 久保豊子著/図解でわかる原価計算いちばん最初に読む本/アニモ出版発行
連絡先	
注意・備考	1. 各講義ごとに、与えられた課題に対するレポートを提出する。講義中にレポートの内容に対しての説明や意見を学生が発表し、コメントを行う。 2. レポートは翌週（原則）にはコメントをつけて返却する。
試験実施	実施する

科目名	企業と人間B (FB22L010)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	田邊麻里子＊ (たなべまりこ＊)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	＊ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 ＊文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2回	＊コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3回	＊「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4回	＊より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5回	＊コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6回	＊自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 ＊社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけることを学ぶ。
7回	＊テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8回	まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 自己のコミュニケーションスキルの不足部分を補う学習をしておくこと。 (標準学習時間 120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間 120分)
3回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間 120分)
5回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
7回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120分)
8回	これまでの講義内容をよく理解しておくこと。(標準学習時間 120分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要な報告を上司に伝えることが必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 (教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する)
達成目標	①自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ②ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 ③定型的なビジネス文書を作成することができる。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ビジネスマナー
成績評価 (合格基準60)	小テスト10%、最終評価試験90%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	

注意・備考	＊参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編B (FB22L020)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	辻維周 (つじまさちか)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス (講義の進め方、評価法などの説明)
2回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
3回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
4回	・今まで行った自己紹介を基に、それぞれ質問を行う。また質問された人は誠意をもって答える練習をする。 ・次回から実施するグループワークのグループ分け。
5回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える1
6回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える2
7回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考え、各自がその考えを文章化する
8回	総括

回数	準備学習
1回	テキストを熟読しておくこと。(標準学習時間90分)
2回	自己紹介を考えておく。その際自分がクラスの人たちに何を一番伝えたいかを考慮する事(標準学習時間90分)
3回	自己紹介を行った人に対して質問を考える。(標準学習時間90分)
4回	質問を考えておく(標準学習時間60分)
5回	自分が書いた文章の修正をしておくこと。(標準学習時間90分)
6回	自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
7回	自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
8回	原稿を書き上げておく。

講義目的	自分の考えを人にもわかりやすく文章にまとめるという事は、結構難しい。それを克服させるための講義。(教養教育センター単位認定方針Eにもっとも強く関与する)
達成目標	少なくともマイプロフィールは誰が読んでもわかりやすいと思われるよう書けるようにすることを目的とする。
キーワード	自分だけで納得して文章を書いてはダメ。
成績評価 (合格基準60)	発表点60点、文章点40点で60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	特になし
参考書	国語辞書
連絡先	ous.tsuji@gmail.com
注意・備考	・講義の性格上、受講生は最大50名までとする。 ・この講義は全員参加型なので、講義にきちんと出席し、自分の意見を言える人はもちろんの事、いい文章を書きたいと望んでいる学生だけに参加してもらいたい。
試験実施	実施しない

科目名	論理学B (FB22L030)
英文科目名	Logic B
担当教員名	中島聡 (なかしまさとし)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	西洋の近現代の論理学について概説する。 帰納論理学(1) 帰納法の性質・種類、ミルの五つの実験的探求の方法について説明する。
2 回	帰納論理学(2) パースのアブダクション(仮説形成推理)の論理形式・性質・特徴を説明する。
3 回	命題論理学(1) 命題論理学の基本と論理式作成の手順を説明する。
4 回	命題論理学(2) 真理値分析、つまり命題論理式の真偽計算の方法を三つ説明する。
5 回	命題論理学(3) 三つの命題形式の性質・特徴と真偽計算の方法(恒真性テスト・恒偽性テスト)を説明する。
6 回	述語論理学(1) 述語論理学の基本的立場と量化式の作成の方法を説明する。
7 回	述語論理学(2) 解釈の意味と妥当式の真偽判定の方法(妥当性テスト・矛盾性テスト)を説明する。
8 回	帰納論理学・命題論理学・述語論理学の基礎的な事項についての学習内容を復習する。 また最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	教科書第二部「帰納法」を読み、帰納法の性質・種類、ミルの実験的探求の方法について予習を行うこと。(標準学習時間120分)。
2 回	教科書第二部「仮説形成推理と探求の論理」を読み、パースのアブダクションの性質について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
3 回	教科書第二部「命題論理学の基本的事項」を踏まえ、論理式の作成手順について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4 回	教科書第二部「命題計算」を読み、命題論理式の真偽計算の方法について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
5 回	教科書第二部「恒真式・恒偽式」を読み、三種類の命題形式の性質と真偽計算の方法について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
6 回	教科書第二部「述語と量化」を読み、述語論理学の基本的立場と量化式の作成の方法について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7 回	教科書第二部「妥当式 矛盾式」を読み、解釈の意味と妥当式の真偽判定の方法について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
8 回	ここまでの授業内容について復習を行うこと。(標準学習時間180分)

講義目的	西洋の近現代の代表的な三つの論理学を取り扱い、各論理学の核心的な事項を学習する。論理学は「人の正しい思考の規則・法則を明らかにする」基本的・形式的な学問である。主に各々の論理学の推論の技法を、事例をもとに習得するとともに、言語の記号処理の手法を学習する。これは、社会生活上での問題解決能力や言語表現力・プレゼンテーション等のコミュニケーション能力の向上にもつなげる。このように論理学Bは論理的推論の技法の学習と社会的場面での応用・展開を目的とする。(教養教育センター単位認定のBにもっとも強く関与する)
達成目標	①各論理学の基礎的な事項について正確な理解ができる。 ②さまざまな推論の問題演習を通して、その技法を習得することができる。 ③言語の記号処理と真偽の判定ができる。 ④社会生活上での問題解決能力や幅広い場でのコミュニケーション能力が展開できる。
キーワード	論理的推論の形態と技法 自然言語の記号処理 論理式の真偽計算 述語と量化
成績評価 (合格基準60)	最終評価試験により成績を評価する。 最終評価試験において基準点を設け、得点が100点満点中、60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	「論理学A」を受講しているが望ましい。

教科書	論理学研究／中島 聡／ふくろう出版／978-4-861865466
参考書	教科書巻末に掲載した参考文献を参照してください。
連絡先	
注意・備考	論理学はその内容が文系理系の両分野にわたる学問である。学習成果を確実に積み上げていくには復習が必須である。毎週講義の後は必ず復習をして、不明な箇所を確認しておいてください。一層理解できるようになります。
試験実施	実施する

科目名	比較文化論B (FB22L040)
英文科目名	Comparative Cultures B
担当教員名	世良利和＊（せらとしかず＊）
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方とテキスト、受講マナーについて説明し、映画による比較文化論の意義と映画分析の実例を示す。
2回	瀬戸内海の島々から映画を考察する。①
3回	瀬戸内海の島々から映画を考察する。②
4回	ロードムービーの文化表象を比較する。①
5回	ロードムービーの文化表象を比較する。②
6回	「寅さん」の原像と岡山の関係について検証する。①
7回	「寅さん」の原像と岡山の関係について検証する。②
8回	講義のまとめを行い、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでくること。復習：受講マナーを確認し、映画分析についてまとめること。（標準学習時間45分）
2回	予習：テキストの第5章、第6章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。（標準学習時間60分）
3回	予習：テキストの第10章、第17章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画を比較すること。（標準学習時間60分）
4回	予習：テキストの第8章、第15章を読んでおくこと。復習：講義で取上げたロードムービーの特徴をまとめること。（標準学習時間60分）
5回	予習：テキストの第7章、第9章を読んでおくこと。復習：講義で取上げたロードムービーの表象を比較すること。（標準学習時間60分）
6回	予習：テキストの第23章を読んでおくこと。復習：映画「男はつらいよ」シリーズについてまとめること。（標準学習時間60分）
7回	予習：テキストの19章、24章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画を比較すること。（標準学習時間60分）
8回	予習：最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験を自己点検すること。（標準学習時間120分）

講義目的	岡山を起点とし、映画における地域表象を分析した上で文化の多様性と地域の独自性、相関性を比較する。（教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する）
達成目標	映画に表れる地域性とその表象を理解し、文化的多様性と地域の独自性への視点を獲得する。
キーワード	岡山、映画、比較文化論、表象文化論
成績評価（合格基準60	ミニレポート提出を含む講義への取り組み＝40%、最終評価試験60%とする。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	比較文化論A、ボランティア論
教科書	世良利和／「まあ映画な、岡山じゃ県！」／蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 2. 受講者は必ずテキストを購入すること。 3. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 4. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 5. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 6. 100名程度を目安に受講制限を行うことがある。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 9. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	現代人の科学D(初めてのプログラミング) (FB22L050)
英文科目名	Science Literacy D
担当教員名	島田英之(しまだひでゆき)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション: ガイダンスを受け、本講義の目的・目標及び授業の進行方法を把握する。
2回	チームビルド: グループワークを実施し、メンバー間の相互理解を深める。
3回	ソフトウェア開発環境と、それを用いた初歩的なソフトウェア開発について学習する。
4回	教材ロボット向けのソフトウェア開発手順について学習し、グループでディスカッションして作品制作に取り組む。
5回	引き続き作品制作を行い、完成後、相互に評価する。
6回	ライントレースのためのプログラム開発に取り組む。
7回	ライントレースのプログラムの性能向上をはかる。
8回	プログラム性能コンテストを実施する。

回数	準備学習
1回	集合場所を把握しておくこと。本シラバスに目を通し、講義全体の概要を把握しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	掲示を確認し、集合場所を把握しておくこと。PDCAサイクルについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
3回	組込みシステム、フローチャートの記述法について調べておくこと。(標準学習時間60分)
4回	配付資料をよく読み、与えられた開発環境を用いてどのような作品を制作したいか、そして、制作したい作品を完成させるためにはどのような処理の流れが必要か、考えておくこと。(標準学習時間90分)
5回	グループでよく相談し、作品の完成イメージを共有しておくこと。(標準学習時間90分)
6回	配付資料をよく読み、ライントレースの原理について理解しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	配付資料をよく読み、ライントレースの性能向上の方法について考えておくこと。(標準学習時間60分)
8回	アルゴリズム、設定するべきパラメータ値に検討の余地がないか、十分に考えておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	プログラミングは、学問分野を問わず、アイデアを具体化するために役立つ手段である。本講義では、グループワークや演習を通じて、プログラミングに関する初歩的な知識と技能を身につけることを目的とする。(理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与)
達成目標	(1) 個人、グループの単位でアイデアをまとめることができる。 (2) アイデアをプログラミングにより具体化できる。 (3) プログラムの性能向上のために工夫や努力ができる。
キーワード	授業内容に記載
成績評価(合格基準60)	レポート70%(達成目標(1)(2)(3)の達成度を評価)、制作物の評価20%(達成目標(1)(2)の達成度を評価)、プログラムの性能コンテスト10%(達成目標(3)の達成度を評価)により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
関連科目	情報リテラシー
教科書	書店販売しない。必要に応じて資料を配付する。
参考書	
連絡先	島田(英)研究室 C4号館5階 E-Mail: hshimada@ice.ous.ac.jp
注意・備考	・情報工学科所有の実験室を使用して演習を行うため、20名を超える場合は受講制限をする。 ・情報工学科および情報科学科の学生は、内容が学科必修科目と重複するので受講を許可しない。 ・回収したレポートは、適宜コメントを記入して返却することでフィードバックを行う。 ・グループワークによるアクティブラーニング型授業を行う。
試験実施	実施しない

科目名	倫理と宗教B (FB22L060)
英文科目名	Ethics and Religion B
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および倫理・道徳とは何かを説明する。
2 回	古代インド宗教の倫理 (戒律、業の法則等) を説明する。
3 回	古代中国宗教の倫理 (儒教道徳) を説明する。
4 回	日本の伝統的倫理を説明する。
5 回	現代の倫理 (1) - 死刑問題を取り上げて、倫理的に考える。
6 回	現代の倫理 (2) - 自死 (尊厳死・安楽死を含む) 問題を取り上げて、倫理的に考える。
7 回	現代の倫理 (3) - 脳死臓器移植問題を取り上げて、倫理的に考える。
8 回	前半: 最終評価試験 後半: 試験の解答と解説

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、「倫理・道徳とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。(標準学習時間30分)
2 回	前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
4 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
5 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	本講義では、日本人の考え方にも大きな影響を与えた、古代インド、中国宗教の倫理を中心に、主として東洋の倫理思想を学ぶ。そのうえで、現代の私たちに直接かかわりのあるいくつかの問題について、倫理的な視点から多角的に考察できるようになることが、本講義の最終的な目的である。(教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する)
達成目標	①倫理の学習に最低限必要な知識を身につけ、自分の言葉できちんと説明することができる。

	②各宗教と思想家の見解を比較し、それらの間の共通点、相違点を見出すことができる。 ③哲学者・宗教家の倫理に関する思考を迫体験し、日常生活に役立てることができる。
キーワード	倫理、宗教、哲学、思想、東洋哲学
成績評価（合格基準60	成績評価と基準は明確に記入。出席回数は点数化しない。※「レポートと試験により評価する」、「授業態度により評価する」、「平常点により評価する」といったあいまいな表現は不可。例）提出課題20%、小テストの結果30%、最終評価試験50%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。但し、最終評価試験において基準点を設け、得点が100点満点中、60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	倫理と宗教A、哲学
教科書	特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。
参考書	参考書は、授業内で適宜、紹介する。
連絡先	
注意・備考	・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。 ・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。
試験実施	実施する

科目名	企業と人間B (FB22M010)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	世良利和＊ (せらとしかず＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の進め方とテキスト、受講マナーについてガイダンスを行い、講義の概要を解説する。
2 回	企業をめぐる様々な問題を取り上げ、その背景について解説する。
3 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。⑥
4 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。⑦
5 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。⑧
6 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。⑨
7 回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。⑩
8 回	講義のまとめを行い、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間30分)
2 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
3 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
4 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
5 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
6 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
7 回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。(標準学習時間45分)
8 回	予習：最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験を自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	企業の本質とは何か。そして企業と個人はどのような関係を結ぶことになるのか。本講義ではこうした点に照準しながら、様々な職業や事例を取り上げて分析し、企業と人間をめぐる現状とあるべき姿について考察する。(教養教育センター単位認定方針Cに強く関与する)
達成目標	企業組織の特徴および企業と個人の関係を理解し、自身のキャリアデザインを具体化するための視点を獲得する。
キーワード	企業、会社、組織、キャリアデザイン、就職
成績評価 (合格基準60)	ミニレポート提出を含む講義への取り組み＝40%、最終評価試験60%とする。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	企業と人間A、ボランティア論A・B
教科書	プリントを配布する。
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 2. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 3. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 4. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 5. 70名程度を目安に受講制限を行うことがある。 6. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 7. 提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 8. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	法学B (FB22M020)
英文科目名	Law B
担当教員名	佐藤元治 (さとうもと はる)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	司法制度についての概説の講義を行う。〔内容〕裁判所の種類と関係、三審制度
2 回	裁判官という法律家についての講義を行う。〔内容〕司法権の独立と裁判官の市民的自由
3 回	検察官という法律家についての講義を行う。〔内容〕検察官の職務内容、検察審査会、検察の不祥事とその防止策
4 回	弁護士という法律家についての講義を行う。〔内容〕弁護士の使命、弁護士偏在の問題、法テラス、当番弁護士制度
5 回	刑事裁判の仕組みと現状についての講義を行う。〔内容〕刑事裁判の目的、構造、手続、冤罪とその防止策
6 回	国民の司法参加についての講義を行う。〔内容〕諸外国の国民の司法参加（陪審制、参審制）、日本の裁判員制度とその問題点
7 回	民事裁判の仕組みと現状についての講義を行う。〔内容〕民事裁判の目的、構造、手続、少額訴訟
8 回	最終評価試験および全体の総括を行う。

回数	準備学習
1 回	このシラバスを熟読し、授業内容全体を確認すること。初回の授業で講義の進め方と履修上の注意などを説明するので必ず参加すること（やむを得ず初回の授業に出られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること）。インターネットで最高裁判所のHPを探して、裁判所の組織などを観ておくこと。また、現在の最高裁判所長官が誰なのか、その氏名を調べておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	第1回の授業で説明した裁判所の種類と三審制度について正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
3 回	第2回の授業で扱った裁判官の市民的自由の問題について、なぜその問題が重要なのか、またどのようなあるべきなのかについて自身の考えをまとめておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
4 回	第3回の授業で扱った検察官の職務内容について正確に理解し、復習しておくこと。また、検察審査会の内容やその重要性についても正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
5 回	第4回の授業で扱った弁護士の職務内容について正確に理解し、復習しておくこと。また、法テラスや当番弁護士制度の内容や重要性についても正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
6 回	第5回の授業内容の刑事裁判の仕組みと手続について正確に理解し、復習しておくこと（特に有罪・無罪の判定について）。最高裁判所のHP等で裁判員制度の紹介をしている箇所を見つけて、おおよその内容を調べておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
7 回	第6回の授業で説明した諸外国の国民の司法参加と日本の裁判員制度の異同について正確に理解し、整理しておくこと。（標準学習時間120分）
8 回	第7回授業内容の民事裁判の仕組みと手続について正確に理解し、復習しておくこと（特に和解について）。また、刑事裁判との異同についてきちんと整理しておくこと。第1回～第7回授業内容について復習しておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	学生の皆さんにとって法とか裁判というと、何だか難しそうで自分とは関わりのないもののように思われるかもしれない。しかし、私たちは既に法がとりまく社会の中で生活していて、将来、裁判に関わらざるを得ないことになるかもしれない。そうであるなら、一般市民として必要な法や裁判に関する知識や考え方を身につけておくことは自身にとっても有益なことであるし、また一般市民が法や裁判に関心を持つことは司法制度の向上にも必要不可欠であるといえる。この授業では、そのような法や裁判についての基本的な知識や考え方を具体的な事案や裁判例を交えて分かりやすく解説し、また法や裁判に関する問題点について一緒に考えてもらうことを目的とする。（教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する）
達成目標	①司法制度に関する基礎的知識と基本的な考え方を習得すること。 ②六法を使って必要な条文が

	検索できるようになること。②司法制度にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表明できるようになること。
キーワード	法、司法、法律家、裁判、裁判員制度
成績評価（合格基準60）	授業内小テスト・レポート（計2回、各20%）＋最終評価試験（60%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	法学A、日本国憲法
教科書	ポケット六法平成30年版 / 山下友信・宇賀克也（編集代表） / 有斐閣 / ISBN 978-4-641-00918-9
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	B3号館（旧24号館）4階研究室
注意・備考	①指定の六法は必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは授業前に必ず申し出て、指示を受けること（無断で授業を受けないように）。 ②授業中の録音・録画・撮影は認めない（電子機器の使用不可）。ただし特別の理由がある場合は、事前に相談すること。 ③テキストとしての教科書の代わりとして、事前に次回の授業内容を示した資料（レジュメ）を当日までブログにアップしておくので、プリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること（ブログのアドレス等、詳しくは初回授業で説明する）。 ④小テストについては採点の後いったん返却し、訂正・復習のうえ再提出してもらう。最終テストについては試験後に解説を行う。 ⑤新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている出来事や事件・裁判などに関心を持つようにすること。
試験実施	実施する

科目名	福祉環境論 B (FB22M030)
英文科目名	Welfare Environmental Science B
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	本講義のガイダンス（福祉の目的、意義、講義概要）をする。 心と身体、DMD症について説明する。
2 回	心と身体、DMD症について説明する。
3 回	「身体障がい者補助犬法」と生きがい感の創造について説明する（DVD等）。
4 回	「障がい者スポーツ」について説明する（DVD等）。
5 回	福祉機器、車いすの疑似体験を行う。
6 回	高齢者の心と身体の特徴について説明する。人間のライフサイクルについても説明する。
7 回	自己実現、至高経験、創造的人間について説明する。
8 回	これまでのまとめと最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読んで講義の全体像を把握しておくこと。DMD症の原因、診断方法、臨床症状について予習を行うこと。（標準学習時間60分）
2 回	DMD児の心の課題について予習を行うこと。（標準学習時間100分）
3 回	「身体障がい者補助犬法」について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
4 回	「身体障がい者補助犬法」について復習すること。「障がい者スポーツ」について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
5 回	大学内の施設のチェックポイントの確認をしておくこと。（標準学習時間120分）
6 回	人間のライフサイクルについて予習を行うこと。（標準学習時間120分）
7 回	人間のライフサイクルについて復習をすること。マスローの自己実現や至高経験について予習を行うこと。（標準学習時間100分）
8 回	これまでのまとめをしておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	人間尊重の視点に立ち、障がい者や高齢者の幸福追求の権利（自己実現）や 生きがい感獲得の方策について考察するとともに、一人ひとりの人間の 幸福追求について新たに見つめ直す。「人生の一回性」の認識を深め、生と死について考察し自己存在感の 認識実現につなげる。（教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する）
達成目標	①障がい者や高齢者の課題について、それらは限定された特別なものではなく、社会全体や一人ひとりの人間の共通課題として捉え、説明できること。DMD症児について説明できること。（C） ②福祉機器やユニバーサルデザインについて理解を深め、説明できること。（D） ③世界人権宣言、障がい者の権利宣言、幸福追求の権利等について説明できること。（C） ④現代社会の福祉環境の課題について要約できること。（D）
キーワード	世界人権宣言、幸福追求の権利、障がい者、高齢者、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、
成績評価（合格基準60	課題提出 2 回（30％）、最終評価試験（70％）
関連科目	健康の科学。生涯スポーツⅡ（ヨット）およびスポーツと フィールド科学（ヨット）では、障がいのある学生も受講できるように ユニバーサルデザインのヨットを使っています。
教科書	講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない。
参考書	適宜紹介する
連絡先	B 3 号館 3 階 西村（次）研究室
注意・備考	受講者の積極性を期待しています。知識だけでなく実際に見て、触れて、考えましょう。 ・この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。 ・提出課題については、講義中にフィードバックを行う。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。理由がある場合は事前に相談すること。 ・本講義は、アクティブラーニングを行うので、受講者が多数の場合は受講者制限を行う場合がある。
試験実施	実施する

科目名	社会と人間B (FB22M040)
英文科目名	Society and Human Beings B
担当教員名	田邊麻里子＊ (たなべまりこ＊)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	＊ガイダンス：講義の概要/進め方/評価方法の説明をする。 ＊「世界経済」「民族と宗教」に関する自己知識のレベルを把握し、予習/復習計画の立案を行う。
2回	＊世界経済の全体像を概説する。 ＊世界経済に関する記事を理解するために必要な用語を学ぶ。
3回	＊世界経済の要である金融機関の種類とその目的を説明する。 ＊国際時事用語を学ぶ。
4回	＊世界経済/通貨について説明する。 ＊国際時事用語を学ぶ。
5回	＊アメリカ経済/EU経済/アジア経済について考察する。 ＊国際時事用語を学ぶ。
6回	＊宗教と民族紛争の関連を分析する。 ＊国際時事用語を学ぶ。
7回	＊「世界経済」と「民族/宗教」の観点から、今後の世界の現象を推察する。
8回	＊総括 ＊最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。(標準学習時間120分)
3回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	これまでの講義内容を振り返りよく理解しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、同僚に助けを求めることや必要な報告を上司に伝えることが必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。(教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する)
達成目標	①自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ②ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 ③自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。
キーワード	経済、通貨、民族紛争、宗教
成績評価 (合格基準60)	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。

関連科目	特になし
教科書	必要に応じ、指示する。
参考書	必要に応じ、資料を配布する。
連絡先	
注意・備考	「社会と人間A」を受講していることが望ましい。受講者数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。
試験実施	実施する

科目名	マスメディア論B (FB22M050)
英文科目名	Mass Media-Theory and Practice B
担当教員名	高下義彦* (こうげよしひこ*)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	マスメディア論Aの試験解答と結果を解説する。「広告」2016年の統計数字を中心に日本の広告について考察する。
2回	「インターネット①」インターネットの歴史、外観、現状を学習する。
3回	「インターネット②」ネットの世界と現実世界の違い、関係、問題、課題を学習する。
4回	「ソーシャルメディア①」現代人にとって不可欠になったソーシャルメディアの歴史からキャンペーンについて学習する。
5回	「ソーシャルメディア②」ソーシャルメディアにおける権利、IoT、規制問題、教育とのかかわりなどを考察する。
6回	「音楽」日本の音楽の変遷、CD市場、配信、カラオケまで歴史と現況を学習する。
7回	「映画」映画の誕生、変遷、動向、市場などを日本を中心に考察する。
8回	1～7回を総括し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
2回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
3回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
4回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
5回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
6回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
7回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
8回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読んでおくこと。(60分)

講義目的	現代社会において、情報を得る手段としてマスメディアは欠かせない存在である。その特性を知り、情報の取捨選択に生かしていくことは実社会を生きていくうえでの重要な要素となる。特に急速に普及しているネットメディアとの違いについて考えることで、新しい情報環境の中での想像力豊かな社会人としての資質を身につけていく。(教養教育センター単位認定の方針Cにもっとも強く関与)
達成目標	①マスメディアが現代社会で果たす役割を理解する。 ②マスメディアとネットメディアの関係、その功罪を知り、適切な接し方を身につける。 ③正しい情報の扱い方、発信する側の責任など情報モラルの大切さを学ぶ。
キーワード	マスコミュニケーション、ジャーナリズム、ソーシャルメディア、メディア・リテラシー
成績評価 (合格基準60)	合格基準60点。最終評価試験90%、講義の終わりに書いてもらう小レポート(時事ニュースなどについて)10%
関連科目	情報社会論、ジャーナリズム論
教科書	適宜、資料などを配布する。
参考書	図説 日本のメディア/藤竹暁編著/NHK出版:メディアと日本人/橋元良明著/岩波新書:鈴木さんにも分かるネットの未来/川上量生著/岩波新書:ソーシャルメディア論/藤代裕之編著/青弓社:メディア・リテラシー/菅谷明子著/岩波新書
連絡先	山陽新聞社編集局製作管理センター 岡山市柳町2-1-1 電話086-803-8168(工程管理部) メール koge.yoshihiko@sanyonews.jp

注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	身近な化学Ⅱ (FB22M060)
英文科目名	Chemistry closely related to our daily lives II
担当教員名	森義裕＊ (もりよしひろ＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	イントロダクション。講義の進め方を説明する。物質の状態は何によって決まるか、説明する。
2 回	身近な気体と溶液のおもしろい性質について説明する。
3 回	化学反応によって新たな物質が生まれることを説明する。
4 回	身の回りの酸と塩基について説明する。
5 回	酸化と還元のおもしろい性質について説明する。
6 回	物質が光を吸収したり放出したりする原理を説明する。
7 回	化学者は物質をどうやってつくるのか、説明する。
8 回	1回～7回までの総括を説明する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	物質の状態は何によって決まるのかについて復習を行うこと。第2回目授業までに教科書の「身近な現象から気体と溶液の性質を学ぶ」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
2 回	身近な現象から学ぶ気体と溶液の性質について復習を行うこと。第3回目授業までに教科書の「化学反応によって新たな物質が生まれる」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
3 回	化学反応によって新たな物質が生まれることについて復習を行うこと。第4回目授業までに教科書の「身の回りの酸と塩基を考える」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
4 回	身の回りの酸と塩基について復習を行うこと。第5回目授業までに教科書の「酸化と還元のおもしろい性質を考える」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
5 回	酸化と還元のおもしろい性質について復習を行うこと。第6回目授業までに教科書の「光は物質をどう変えるか」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
6 回	光は物質をどう変えるかについて復習を行うこと。第7回目授業までに身近な物質はどのように作られているのか、調べておくこと (標準学習時間90分)
7 回	身近な物質はどのように作られているのかについて復習を行うこと。第8回目授業までに第1回目～第7回目授業の内容について復習を行うこと (標準学習時間120分)
8 回	ここまで授業内容についての復習を行うこと (標準学習時間120分)

講義目的	身近な物質で、焦げる物質と焦げない物質がある。水に浮く物質と沈む物質がある。温めて融けやすい物質と融けにくい物質がある。水に溶ける物質と溶けない物質がある。物質は他の物質と反応して別の物質になる。物質を構成する原子・分子はイオンになる。物質を特徴づける性質を知り、化学反応を学び、原子・分子・イオンが動いて変化する様子を想像・実感できるようにする。熱、光、電気などが関わる化学の世界を理解できるようにする。(理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与)
達成目標	(1)物質の三態(気体・液体・固体)について説明できる (2)化学反応について説明できる (3)酸と塩基、酸化と還元について説明できる (4)物質と電磁波の関係について説明できる
キーワード	気体、液体、固体、エネルギー、溶液、化学反応、酸、塩基、酸化、還元、電池、電気分解、電磁波
成績評価(合格基準60)	小テストの結果40 %、最終評価試験60 %により成績を評価し、総計で60 %以上を合格とする。
関連科目	「身近な化学I」を受講していることが望ましい。
教科書	「化学」入門編 身近な現象・物質から学ぶ化学のおもしろさ／日本化学会 化学教育協議会「グループ・化学の本21」編／化学同人／978-4759810912
参考書	指定しない
連絡先	e-mail: ymori.ous@gmail.com
注意・備考	・講義中の録音／録画は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。 ・講義中の撮影(静止画)は自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。 ・講義の最後に、適時小テストを行う。

	・小テストについては、翌講義時に解答と解説をし、フィードバックを行う。 ・以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 化学科，基礎理学科，生物化学科，臨床生命科学科，バイオ・応用化学科 ・「化学基礎論Ⅰ・Ⅱ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「化学基礎論Ⅰ・Ⅱ」の履修生および履修予定学生は「身近な化学Ⅰ・Ⅱ」の履修を避けること。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法応用編 B (FB22M070)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) B
担当教員名	藤野薫＊ (ふじのかおる＊)
対象学年	2 年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明する。広告文を書く①：指示されたテーマで広告コピーを構想する。
2 回	広告文を書く②：広告コピーに取り組み、作品を講評する。
3 回	文章実務の事例①：ビジネスレターや履歴書について解説する。
4 回	エントリーシートを書く①：エントリーシートの事例とポイントを解説する。
5 回	エントリーシートを書く②：エントリーシートに取り組む。
6 回	文章実務の事例②：契約書や企画書について解説する。
7 回	実用的な文章表現についてのまとめを行い、最終評価試験について説明する。
8 回	文章スキルのポイントを整理する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：広告表現の実例を収集しておくこと。復習：広告コピーのポイントを整理すること。（標準学習時間60分）
2 回	予習：指示されたテーマについて情報を集めておくこと。 復習：広告コピーを自己点検すること。（標準学習時間60分）
3 回	予習：ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習：ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。（標準学習時間60分）
4 回	予習：エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習：エントリーシートのポイントを整理すること。（標準学習時間60分）
5 回	予習：自己分析を行っておくこと。復習：エントリーシートを自己点検すること。（標準学習時間90分）
6 回	予習：契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習：契約書や企画書のポイントをまとめること。（標準学習時間60分）
7 回	予習：実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習：文章表現で大切な点を整理しておくこと。（標準学習時間60分）
8 回	予習：ここまでの講義内容を確認すること。復習：最終評価試験について自己点検すること。（標準学習時間120分）

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	エントリーシートや実務文章に対応することができる。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試
成績評価（合格基準60	演習・提出課題（40%）、最終評価試験（60%）。 原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	文章表現法応用編 A、文章表現法基礎編 A・B、プレゼンテーション基礎編 A・B、プレゼンテーション応用編 A・B
教科書	世良利和・藤野薫／「文章スキルとプレゼン力」（緑版）／蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1. 受講者数の上限を 50 名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 本講義では一部アクティブラーニングを導入し、グループディスカッションを行うことがある。 11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編 B (FB22N010)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	藤野薫＊ (ふじのかおる＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
2 回	経験や知識の文章化に取り組む。
3 回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
4 回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
5 回	対立する意見を使って文章を構成する。
6 回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
7 回	800字の構成について解説する。最終評価試験について説明する。
8 回	文章表現のポイントを整理する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読み、文章の構成について確認しておくこと。 復習：受講上の注意と文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
2 回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
3 回	予習：文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
5 回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
6 回	予習：800字の参考文を読んでくこと。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
8 回	予習：ここまでの講義内容を確認し、最終評価試験の準備をすること。 復習：最終評価試験について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	一般社会で通用する文章を書くために、基本的な取り組みの姿勢とスキルを身につける。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	文章表現の目的を理解し、800字程度の文章をわかりやすく書くことができる。
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
成績評価 (合格基準60)	演習 (40%)、最終評価試験 (60%)。原則として、演習をすべて行うことが最終評価試験の受験資格となる。
関連科目	文章表現法基礎編 A・B、文章表現法応用編 A・B、プレゼンテーション基礎編 A・B、プレゼンテーション応用編 A・B
教科書	藤野薫・三木恒治・世良利和／文章表現法 I 基礎編 (パステルブルー版)／蜻文庫
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
注意・備考	1. 受講者数の上限を 50 名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.

	講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にものみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。 11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	社会と人間B (FB22N020)
英文科目名	Society and Human Beings B
担当教員名	田邊麻里子＊ (たなべまりこ＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	＊ガイダンス：講義の概要/進め方/評価方法の説明をする。 ＊「世界経済」「民族と宗教」に関する自己知識のレベルを把握し、予習/復習計画の立案を行う。
2 回	＊世界経済の全体像を概説する。 ＊世界経済に関する記事を理解するために必要な用語を学ぶ。
3 回	＊世界経済の要である金融機関の種類とその目的を説明する。 ＊国際時事用語を学ぶ。
4 回	＊世界経済/通貨について説明する。 ＊国際時事用語を学ぶ。
5 回	＊アメリカ経済/EU経済/アジア経済について考察する。 ＊国際時事用語を学ぶ。
6 回	＊宗教と民族紛争の関連を分析する。 ＊国際時事用語を学ぶ。
7 回	＊「世界経済」と「民族/宗教」の観点から、今後の世界の現象を推察する。
8 回	＊総括 ＊最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	これまでの講義内容を振り返りよく理解しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、同僚に助けを求めることや必要な報告を上司に伝えることが必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。(教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する)
達成目標	①自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ②ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。 ③自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。
キーワード	経済、通貨、民族紛争、宗教
成績評価 (合格基準60)	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。

関連科目	特になし
教科書	必要に応じ、指示する。
参考書	必要に応じ、資料を配布する。
連絡先	
注意・備考	「社会と人間A」を受講していることが望ましい。受講者数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。
試験実施	実施する

科目名	マスメディア論B (FB22N030)
英文科目名	Mass Media-Theory and Practice B
担当教員名	八木一郎 (やぎいちろう)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	マスメディア論Aの最終試験について解説し、今後の講義内容について概略を説明する。
2回	インターネットの歴史と特性について説明する。
3回	出版メディアの歴史と特性について説明する。
4回	広告の歴史と特性について説明する。
5回	メディアの効果研究について説明する。
6回	活字メディアと映像メディアの特性について説明する。
7回	メディアリテラシーの意義と役割について説明する。
8回	ここまでの講義内容について振り返り、最終的な評価をするための試験を実施する。

回数	準備学習
1回	マスメディア論Aの最終試験の解説を踏まえ、今後の講義内容について予習する。(標準学習時間180分)
2回	インターネットの歴史と特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと(標準学習時間120分)
3回	出版メディアの歴史と特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと(標準学習時間120分)
4回	広告の歴史と特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと(標準学習時間120分)
5回	メディアの効果研究について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと(標準学習時間120分)
6回	活字メディアと映像メディアの特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと(標準学習時間120分)
7回	メディアリテラシーの意義と役割について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと(標準学習時間120分)
8回	ここまでの講義内容をよく理解し、整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	生活に欠かせないメディアの存在。そのメディアの特性を知り、社会のあり方や情報の活用方法について学ぶことで、社会人としての資質を養う。(教養教育センター単位認定の方針Cにもっとも強く関与。)
達成目標	様々な情報の中からどう取舍選択するか、メディアに対するリテラシー能力を高め、社会人としての判断力を身につける。
キーワード	メディアリテラシー、ネット社会
成績評価(合格基準60)	最終評価試験を実施し、配点は100点満点とする。
関連科目	情報メディア、ジャーナリズム論、コミュニケーション、
教科書	なし
参考書	図説 日本のメディア/藤竹暁/NHK出版:たったひとつの「真実」なんてない/森達也/ちくまプリマー新書
連絡先	A1号館6F 八木研究室 086-256-9758
注意・備考	受講者数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。
試験実施	実施する

科目名	身近な物理学Ⅱ（FB22N040）
英文科目名	Physics closely related to our daily lives I
担当教員名	中川益生＊（なかがわますお＊）
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	静電気について説明する。正負の電気があり電子の電荷が負とされるに至った過程を述べ、摩擦帯電の演示実験を通して静電気の性質を学ぶ。
2回	クーロンの法則について説明する。静電気力の法則を用いて様々な電気現象が説明できることを示し、箔検電器などを用いてクーロン力の演示実験を行なう。
3回	電場と電位について説明する。電場と電位の関係について述べ、箔検電器を用いた演示実験によりコンデンサーの概念と特性を学ぶ。
4回	電池と電流について説明する。電池とオームの法則について述べ、電池と電気分解の演示実験により電池の動作メカニズムと電流の概念を学ぶ。
5回	磁場について説明する。電流と磁場の関係について述べ、アンペールの法則とファラデーの電磁誘導に関する演示実験を行ない、磁場の概念を学ぶ。
6回	これまでの講義内容について、30分間の小テストを行う。その後、電磁波について説明する。マクスウェルの理論について述べ、ヘルツの演示実験を行う。
7回	光の特性と正体について説明する。光の反射・屈折・干渉・回折に関する演示実験により全反射・虹・シャボン玉の色・夕陽と空の色などのメカニズムを学ぶ。
8回	これまでのまとめと最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	教科書p.63～68を読んでノートにまとめ、静電気の性質とその研究の歴史について予習すること。（標準学習時間60分）
2回	教科書p.69～70を読んでノートにまとめ、クーロンの法則と静電誘導について予習すること。（標準学習時間60分）
3回	教科書p.71～77を読んでノートにまとめ、重力場と比較して電場と電位と電気容量について予習すること。（標準学習時間60分）
4回	教科書p.78～83を読んでノートにまとめ、電池と電流とオームの法則について予習すること。（標準学習時間60分）
5回	教科書p.84～88を読んでノートにまとめ、電流と磁場の相互作用に関する法則を予習すること。（標準学習時間60分）
6回	1～5回までの復習をすること。教科書p.89～92を読んでノートにまとめ、アンペール-マクスウェルの法則と電磁波について予習すること。（標準学習時間120分）
7回	教科書p.93～105を読んでノートにまとめ、光の性質と正体について予習すること。（標準学習時間60分）
8回	教科書p.63～105までの内容とこれまでの講義内容をノートに整理し、復習して理解を深めること。（標準学習時間180分）

講義目的	物理学とは、物の理（ことわり）即ち自然現象の原因を実験的・理論的に解明する学問である。この授業では、授業中に行う多くの演示実験の観察を通して、我々の身のまわりで起こる「電磁気」と「光」に関わる自然現象を物理的に説明する能力を身につけることを目的とする。高校での物理公式の知識を必要とせず、できるだけ数式の計算を行わずに、実験の観察と論理的な思考により物理的方法論を修得せしめることに努める。（理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与）
達成目標	① 演示実験や実験ビデオの観察を通して、身近な自然現象を一般化して物理法則を見出す過程を学ぶ。 ② 物理学の諸法則が確立してきた歴史的過程を知ることにより、先人たちの物理的な思考方法を学ぶ。 ③ 自然現象を簡潔に説明するために、種々の物理量を定義することの必要性とその意味を理解する。 ④ 身近な物理現象に関する物理パズルの解答・質疑応答を通して、生きた物理学の知識を身につける。

キーワード	静電気、電場、電位、磁場、電磁波、光 クーロンの法則、ガウスの法則、アンペールの法則、ファラデーの法則、マクスウェルの方程式、 スネルの法則
成績評価（合格基準60	授業中に行う小テストを50点満点としてその評価点をx点とし、最終評価試験を(100-x) 点満点としてその評価点をy点とし、xとyの合計を得点として成績を評価する。得点が60点未 満の場合は不合格とする。
関連科目	
教科書	演示実験と科学史で学ぶ物理学入門／中川益生／内田老鶴圃 プリント版書籍のため一般書店では販売せず、学内の丸善(株)教科書販売所で販売する。
参考書	古典物理学を創った人々／エミリオ・セグレ 久保亮五・矢崎裕二訳／4-622-04088- 3／みすず書房
連絡先	masuo12345nakagawa@gmail.com
注意・備考	高校における物理学の知識の有無は問いませんが、講義中に毎行なう演示実験や実験ビデオを通 して物理学を学びますので、必ず毎回出席してノートに記録してください。物理学は特に論理的思 考を重視する学問ですから、試験においても自筆ノートは持ち込み可とします。以下の学科は、 本科目の内容の一部が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場 合は受講を制限する可能性がある：基礎理学科、電気電子システム学科、機械システム学科、知 能機械工学科、生命医療工学科、建築学科、工学プロジェクトコース、応用物理学科。「物理学基 礎論Ⅰ・Ⅱ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「物理学基礎論Ⅰ・Ⅱ」の履修生および 履修予定学生は「身近な物理学Ⅰ・Ⅱ」の履修を避けること。 ・テストについては、次回の講義日に解答・評価などのフィードバックを行う。 ・講義中の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む） は禁止する。 ・必要に応じて、講義開始時に講義資料等を配布する。
試験実施	実施する

科目名	身近な生物学Ⅱ（FB22N050）
英文科目名	Biology closely related to our daily lives I
担当教員名	波田善夫（はだよしお）
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	生物の系統と進化：原始地球で誕生した生命は発展し、また絶滅し、現在の姿に進化してきた。これらの系統と進化の仕組みについて考えてみたい。観点の1つは多様性と多用性あるいは特殊化と汎用化であるし、水中での生息・生育と陸上生活である。
2 回	バイオーム：気候的特性によって区分された生物群集をバイオームという。様々なバイオームが形成される環境軸は温度、日照、降水量が主要なものである。温度と降水量は理解しやすいファクターであり、教科書などでも広く掲載されている。今回は地球の公転にともなう地球の太陽軌道の周年変化との関係を中心とする。
3 回	食物連鎖とエネルギーフロー：それぞれのバイオームでは、生産者とこれを食べて生育する消費者、そして分解者が組み合わさって、群集を構成している。食物連鎖の各段階では大幅なエネルギーが運動エネルギーなどに变化して失われる。これらの関係をバイオームに着目して考えていく。
4 回	寄生と共生：生物同士の関係には、病原菌のように相手を死に至らしめるものもあるし、協調して単独同士よりも生育状態を改善したりする、いわゆる共生という段階まで多様である。これらについて解説し、生物同士の激しい関係を学ぶ。
5 回	捕食と被食の関係：生物同士の関係の中で、食べる一食べられるの関係は運命的、宿命的なものであるが、これらの関係の理論について考えていく。
6 回	生態系の物質循環Ⅰ：炭素循環は、地球温暖化とも大きく関連しており、地球の将来に大きな影響がある。炭素を中心とした物質循環を学ぶ。
7 回	生態系の物質循環Ⅱ：植物の主要な栄養素は「窒素、リン、カリウム」である。これらの循環について学ぶ。
8 回	これまでの講義内容をまとめたのち、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	生物全ての系統と進化について言及することはできない。動物を中心とするので、大まかな系統を学習してくること。（標準学習時間30分）
2 回	地球上のバイオームにはどのようなものがあるか、それに関する気温、降水量の関係を予習しておくこと。（標準学習時間60分）
3 回	生態系ピラミッド、食物連鎖を予習しておくこと。（標準学習時間30分）
4 回	共生と寄生の例を事前に調べておくこと。（標準学習時間60分）
5 回	植物が食べられないための対策にどのような実例があるか、調べてくること。（標準学習時間60分）
6 回	物質循環を予習し、それぞれのバイオームではどのようなようになるかを考えておくこと。（標準学習時間90分）
7 回	「窒素、リン、カリウム」は、植物体内でどのような働きを行っているかを予習しておくこと。（標準学習時間60分）
8 回	最終評価試験は記述式であるので、系統的・総合的な学習を行っておくこと。

講義目的	我々の存在の基盤である生態系の保全は地球上の全生命、当然のことながら人類の存続にとって最も基本的で重要なことである。この生態系を理解するために、生物間の関係から生態系全体のエネルギーフロー、物質循環を理解し、将来の自然を確実に利用し、保全できる知識を学ぶ。（理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与）
達成目標	生態系はどのような条件で存続できるかを理解する。 生物多様性の保全がなぜ必要なのかを理解する。 人類の存続を可能とする持続的利用に関する留意点を理解する。
キーワード	生物の系統と進化、バイオーム、食物連鎖、エネルギーフロー、物質循環、生態系ピラミッド、寄生と共生、捕食と被食
成績評価（合格基準60	課題レポート40%、最終評価試験60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	身近な生物学Ⅰ
教科書	なし
参考書	適宜、ホームページ等によって情報を提供する。
連絡先	2 1 号館 6F 研究室 電話 086-256-9646

注意・備考	以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 基礎理学科，生物化学科，臨床生命科学科，動物学科，バイオ・応用化学科，生命医療工学科，生物地球学科 「生物学基礎論Ⅰ・Ⅱ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「生物学基礎論Ⅰ・Ⅱ」の履修生および履修予定学生は「身近な生物学Ⅰ・Ⅱ」の履修を避けること。 課題レポート、最終評価試験については模範解答と採点基準をホームページの講義ノートに掲載する。 講義中、ホームページの講義ノートを閲覧することはかまわないが、最終評価試験中においては閲覧を禁止する。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法応用編 B (FB22N060)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) B
担当教員名	世良利和＊ (せらとしかず＊)
対象学年	2 年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明する。広告文を書く①：指示されたテーマで広告コピーを構想する。
2 回	広告文を書く②：広告コピーに取り組み、作品を講評する。
3 回	文章実務の事例①：ビジネスレターや履歴書について解説する。
4 回	エントリーシートを書く①：エントリーシートの事例とポイントを解説する。
5 回	エントリーシートを書く②：エントリーシートに取り組む。
6 回	文章実務の事例②：契約書や企画書について解説する。
7 回	実用的な文章表現についてのまとめを行い、最終評価試験について説明する。
8 回	文章スキルのポイントを整理する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：広告表現の事例を収集しておくこと。復習：広告コピーのポイントを整理すること。（標準学習時間60分）
2 回	予習：指示されたテーマについて情報を集めておくこと。 復習：広告コピーを自己点検すること。（標準学習時間60分）
3 回	予習：ビジネスレターや履歴書の事例に触れておくこと。復習：ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。（標準学習時間60分）
4 回	予習：エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習：エントリーシートのポイントを整理すること。（標準学習時間60分）
5 回	予習：自己分析を行っておくこと。復習：エントリーシートを自己点検すること。（標準学習時間90分）
6 回	予習：契約書や企画書の事例に触れておくこと。復習：契約書や企画書のポイントをまとめること。（標準学習時間60分）
7 回	予習：実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習：文章表現で大切な点を整理しておくこと。（標準学習時間60分）
8 回	予習：ここまでの講義内容を確認すること。復習：最終評価試験について自己点検すること。（標準学習時間120分）

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	エントリーシートや実務文章に対応することができる。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試
成績評価（合格基準60	演習・提出課題（40%）、最終評価試験（60%）。 原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	文章表現法応用編A、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
教科書	世良利和・藤野薫／「文章スキルとプレゼン力」（緑版）／蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を50名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は必ずテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時によりのみ配布する。 9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10.本講義では一部アクティブラーニングを導入し、グループディスカッションを行うことがある。 11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	ワインの歴史と風土・文化 (FB220010)
英文科目名	
担当教員名	金子明裕 (かねこあきひろ), 川俣昌大 (かわまたまさひろ)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 5時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 教育学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義内容の説明と進め方を説明する。ワインをはじめ、世界で造られる酒について説明する。 (金子 明裕)
2 回	発酵の基本、発酵・醸造の歴史、世界のワイン事情、ワインの造り方について説明する。 (金子 明裕)
3 回	ワインの分類、ブドウの品種と気候・風土について解説する。 (金子 明裕)
4 回	フランスワインの歴史、産地、ブドウの品種、気候、法律について説明する。 (金子 明裕)
5 回	ヨーロッパ (イタリア、スペイン、ポルトガル、ドイツを中心に) のワインの歴史、産地、ブドウの品種、気候、法律について説明する。 (金子 明裕)
6 回	アメリカ合衆国、南米、オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカのワインの歴史、産地、ブドウの品種、気候、法律について説明する。 (金子 明裕)
7 回	日本のワインについて、歴史、産地、ブドウの品種、気候、法律について説明する。ワインの評価・表現、ワインと料理について学習する。 (金子 明裕)
8 回	最終評価試験を実施する。 (金子 明裕)

回数	準備学習
1 回	授業内容の確認。シラバスをよく読んでおくこと。教科書 (図解でわかる 発酵の基本) のP8-11をよく読んでおくこと。(標準学習時間30分)
2 回	教科書 (図解でわかる 発酵の基本) の2章微生物、3章日本酒、ワイン、パン、5章カビ、酵母、乳酸菌の項、教科書 (ワインの教科書) の第1章、第5章p94-109をよく読んでおくこと。(標準学習時間45分)
3 回	教科書 (ワインの教科書) の第2章をよく読んでおくこと。(標準学習時間30分)
4 回	教科書 (ワインの教科書) の第3章のフランスワインに関するp42-57, p74-77をよく読んでおくこと。(標準学習時間45分)
5 回	教科書 (ワインの教科書) の第3章のヨーロッパのワインに関するp58-72, p78-83, p90をよく読んでおくこと。(標準学習時間45分)
6 回	教科書 (ワインの教科書) の第4章のアメリカ、チリ、アルゼンチン、ニュージーランド、オーストラリア、南アフリカのワインに関するp84-87, p91,92、第5章のp134-142をよく読んでおくこと。(標準学習時間30分)
7 回	教科書 (ワインの教科書) の第1章及び第4章の日本のワインに関するp18,19, p88をよく読んでおくこと。(標準学習時間30分)
8 回	ここまでの授業内容についての復習を行うこと。(標準学習時間180分)

講義目的	ワインを学ぶにあたり、発酵・醸造の基礎を学習することで、まず、発酵・醸造についての概略を知ることができます。そして、フランス、ヨーロッパ、新大陸、日本のワインの歴史、風土・文化について学習します。また、ワインの評価・表現、ワインと料理の相性についても学習します。
------	---

	〔大学の学位授与方針項目(B)に強く関与し、(A)及び (C)に関与する〕
達成目標	①発酵食品の基礎を理解できること。(A), (B) ②ワインをはじめとした酒類の造り方を理解できること。(A), (B) ③世界（フランス、ヨーロッパ、新大陸、日本）のワインを知り、歴史、文化・風土について理解できること。(B), (C) ④ワインの評価・表現、ワインと料理の相性についての基本を理解できること。(B) ※()内は大学の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	ワイン、ワインの造り方、ワインの歴史、世界のワイン、ワインの評価、ワインの表現、発酵食品、醸造
成績評価（合格基準60	最終評価試験（80%）及び授業時間の確認テスト（20%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする
関連科目	（1年次開講科目）ワインの科学、生命の基礎化学、ブドウ栽培学、ワインプロジェクト実習Ⅰ （2年次開講科目）生命の化学概論、発酵と微生物、ワイン醸造法、ワインプロジェクト実習Ⅱ （3年次開講科目）ワインプロジェクト実習Ⅲ
教科書	・図解でよくわかる 発酵の基本／舘 博 監修／誠文堂新光社 ・ワインの教科書／木村克己 著／新星出版社 ・配布資料
参考書	・ワインは楽しい／O. Neiman 著／バイ インターナショナル・いちばんわかりやすい ワイン入門／野田宏子 監修／日本文芸社 ・基礎から学ぶ田辺由美のワインブック／田辺由美 監修／飛鳥出版 ・日本ソムリエ協会 教本／一般社団法人日本ソムリエ協会教本
連絡先	金子明裕 B1号館2階・ワイン発酵科学センター
注意・備考	試験は最終評価試験期間中に行い、試験形態は筆記試験とする。
試験実施	実施する

科目名	教養演習 B (FB22P010)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts B
担当教員名	三木恒治 (みきこうじ)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	グループに分かれて、特定のテーマについて発表する。(1) (標準学習時間 1 2 0 分)
2 回	グループに分かれて、特定のテーマについて発表する。(2) (標準学習時間 1 2 0 分)
3 回	グループに分かれて、特定のテーマについて発表する。(3) (標準学習時間 1 2 0 分)
4 回	話を興味深いものにするための工夫について説明する。(標準学習時間 1 2 0 分)
5 回	レジュメの作成方法について説明する。(標準学習時間 1 2 0 分)
6 回	ディスカッション、5 分間スピーチの要領について説明する。(標準学習時間 1 2 0 分)
7 回	これまでの総まとめを行う。(標準学習時間 1 2 0 分)
8 回	最終評価試験と今後の取り組みについて提言を行う。(標準学習時間 1 2 0 分)

回数	準備学習
1 回	グループ毎にテーマを決めて、それについて調べておくこと。
2 回	グループ毎にテーマを決めて、それについて調べておくこと。
3 回	グループ毎にテーマを決めて、それについて調べておくこと。
4 回	資料の作成方法、プレゼンテーションの方法について復習しておくこと。
5 回	自分の関心のある分野、事象を扱った文献を調べてみる。
6 回	レジュメの作成方法について復習しておくこと。
7 回	これまでの学習を通じて、「自己表現能力」がどの程度身に付いたか、確認すること。
8 回	最終評価試験の準備をしておくこと。

講義目的	まずは「旅」という誰しも体験可能なテーマについて語ることからスタートしますが、自分の興味がある分野を中心にさまざまなことを調べ、発表や討論によって「自分を表現する」力を養うことをねらいとしています。また資料やレジュメの作成方法を学ぶことによって、卒論や就職活動の基礎学力を身につけることも目指しています。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	学習テーマについて調べた内容を「まとめる」ことによって豊かな表現力を育み、グループ作業を通じて協調性を身につけることを目標としています。
キーワード	「文化に触れる」「社会を知る」「自己を表現する」
成績評価 (合格基準60%)	演習 (講義内でのプレゼンテーション等) 8 0 %、最終評価試験 2 0 %により成績を評価し、6 0 %以上を合格とする。
関連科目	プレゼンテーション I、II
教科書	プリント配布
参考書	適宜指示します。
連絡先	A-2号館 8 階、オフィスアワー別途参照
注意・備考	時事、文化に関する情報、知識を、書物等を通じて日頃から収集するよう心がけてください。 この講義は 1 5 ~ 2 0 名を前提としていますが、そうでない場合は講義内容が変更となる場合がありますので、ご留意ください。 また、初回は必ず出席してください。 受講者数の上限は 5 0 名とする。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編B (FB22P020)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	辻維周 (つじまさちか)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス (講義の進め方、評価法などの説明)
2回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
3回	誰にでもわかるよう自己紹介を行う。
4回	・今まで行った自己紹介を基に、それぞれ質問を行う。また質問された人は誠意をもって答える練習をする。 ・次回から実施するグループワークのグループ分け。
5回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える1
6回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考える2
7回	映像を見て、それが物語っている真の意味をグループワークで考え、各自がその考えを文章化する
8回	総括

回数	準備学習
1回	テキストを熟読しておくこと。(標準学習時間90分)
2回	自己紹介を考えておく。その際自分がクラスの人たちに何を一番伝えたいかを考慮する事(標準学習時間90分)
3回	自己紹介を行った人に対して質問を考える。(標準学習時間90分)
4回	質問を考えておく(標準学習時間60分)
5回	自分が書いた文章の修正をしておくこと。(標準学習時間90分)
6回	自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
7回	自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
8回	原稿を書き上げておく。

講義目的	自分の考えを人にもわかりやすく文章にまとめるという事は、結構難しい。それを克服させるための講義。(教養教育センター単位認定方針Eにもっとも強く関与する)
達成目標	少なくともマイプロフィールは誰が読んでもわかりやすいと思われるよう書けるようにすることを目的とする。
キーワード	自分だけで納得して文章を書いてはダメ。
成績評価 (合格基準60)	発表点100点、文章点40点で60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	特になし
参考書	国語辞書
連絡先	ous.tsuji@gmail.com
注意・備考	・講義の性格上、受講生は最大50名までとする。 ・この講義は全員参加型なので、講義にきちんと出席し、自分の意見を言える人はもちろんの事、いい文章を書きたいと望んでいる学生だけに参加してもらいたい。
試験実施	実施しない

科目名	科学技術倫理B (FB22P030)
英文科目名	Science and Engineering Ethics B
担当教員名	佐藤元治 (さとうもと はる)
対象学年	2 年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	事故責任の法の仕組みについての講義を行う。 [内容] 職務と注意義務、事故責任の法
2 回	法的責任とモラル責任についての講義を行う。 [内容] カネミ油症事件、法とモラルの境界域の責任
3 回	コンプライアンスと規制行政についての講義を行う。 [内容] コンプライアンスとは、規制行政
4 回	説明責任についての講義を行う。 [内容] 説明責任と信頼関係、説明責任が問題となった事案 (原子力発電、発がん性物質の安全性、遺伝子組み換え食品)
5 回	内部告発・警笛鳴らしについての講義を行う。 [内容] 内部告発・警笛鳴らしとは、法による救済方法
6 回	環境と技術者についての講義を行う。 [内容] 環境倫理、持続可能性、予防原則、循環型社会
7 回	技術者の財産的権利についての講義を行う。 [内容] 青色発光ダイオード特許裁判、特許等の知的財産権
8 回	これまでの授業の総括と最終試験を行う。

回数	準備学習
1 回	このシラバスを熟読し、本講義全般について把握しておくこと。初回授業で講義の進め方や履修上の注意をするので必ず参加すること (やむを得ず初回授業に出られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること)。教科書の第8章を読み、事故責任の法の仕組みの概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	教科書の第9章を読み、カネミ油症事件の概要について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	教科書の第10章を読み、コンプライアンスを規制行政との関係で説明できるように予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	教科書の第11章を読み、説明責任が問題となった原子力発電、発がん性物質の安全性、遺伝子組み換え食品の事案の概要について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	教科書の第12章を読み、内部告発・警笛鳴らしの概要について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	教科書の第13章を読み、環境問題の概要とそれに対する技術者の対応について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	教科書の第14章を読み、青色発光ダイオード特許裁判の概要と知的財産権の種類について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	第1回～第7回までの授業内容をよく理解し、整理しておくこと。(標準学習時間120分)
16 回	最終評価試験を行う場合は最終評価試験を行う旨記載してください。

講義目的	科学技術の進歩と産業の発展は私たちの生活をより豊かなものにしてきている。しかしその一方で、企業の不祥事や技術者の不正行為などによって、私たちの生活の安全が脅かされることもしばしば生じている。そのため技術者や企業の社会的責任や倫理観の重要性が以前にも増して求められているのである。この授業では、科学技術の分野で今後の日本の社会を担う技術者や企業に求められる社会的責任、とりわけ法的責任やコンプライアンスについて、過去に起きた事案や事例を素材として一緒に考えてもらうことを目的とする。(理科教育センター単位認定方針のDに最も強く関与する)
達成目標	①技術者や企業の社会的責任や倫理観の重要性を認識する。②具体的な事案・事例について、問題点を正確に把握し、その解決方法を主体的に探究し、外部に表明できる能力を身につける。③上記①②を通じて、科学技術の分野で今後の社会を担う技術者・企業人としての倫理観・責任感を養う。
キーワード	(技術者)倫理、社会的責任、法的責任、コンプライアンス、説明責任
成績評価 (合格基準60%)	授業内小テスト・レポート (60%) + 最終評価試験 (40%) により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	科学技術倫理A、法学
教科書	[第5版] 大学講義 技術者の倫理入門/ 杉本泰治・高城重厚/ 丸善出版/ ISBN978-4-621-30016-9

参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	B3号館（旧24号館）4階研究室
注意・備考	①授業中の録音・録画・撮影は認めない（電子機器の使用禁止）。ただし特別の理由がある場合には、事前に相談すること。 ②教員が授業で使用したスライドや小テストの解答は後にPDFファイルでポータルサイトにあげておくので、復習に活用すること。 ③受講生が多い場合には座席指定をする場合がある。 ④新聞・ニュースなどで実際の社会で起こっている出来事や事件を毎日欠かさずチェックすること。
試験実施	実施する

科目名	技術者の社会人基礎B (FB22Q010)
英文科目名	Social communication for engineers B
担当教員名	田邊麻里子＊ (たなべまりこ＊)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部, 機械システム工学科, 工学プロジェクトコース, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	＊ガイダンス：講義内容、進め方、注意点、期待値、評価方法の説明をする。 ＊文章力や読解力に関して自己レベルの確認をし、今後の予習復習計画の立案を行う。
2回	＊社外から/社内他部署から/上司から/家人から/間違い電話など様々なテーマに応じた電話応対をロールプレイを通じて学ぶ。
3回	＊ケーススタディ①に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
4回	＊ケーススタディ②に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
5回	＊ケーススタディ③取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の仕方を学ぶ。
6回	＊優れた経営者/実業家のエピソードを通して、仕事の仕方やマネジメント・リーダーシップ論を学ぶ。
7回	＊組織における行動のあり方を説明し、企業の組織を理解したうえで、どんな働き方をしたいのか/どんな会社が自分にとって良い組織なのかを検討する。
8回	総括

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義の目的を理解しておくこと。 自己の文章力や読解力の不足部分を学習し、次回の講義に備えること。 (標準学習時間 120分)
2回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
3回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
5回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)
7回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)
8回	これまでの講義で学んだことを振り返り、できなかった点を復習しておくこと。 (標準学習時間 120分)

講義目的	本授業では、技術者としての知識と専門性を遺憾なく発揮するために、必要なスキルや知識を習得することを目的とする。 実際の現場での電話のやり取りや報告連絡の方法を実践的に学ぶことで、状況に応じた態度と言葉の使い方に慣れるとともに、ノンバーバル（非言語）のコミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築方法を理解する。また、会社の仕組みや社会で働くことの意味を理解することで、技術者としての責任と義務を自覚できるように講義をすすめる。なお、本講義では、学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。（教養教育センター単位認定方針のEに強く関与する）
達成目標	①コミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築ができる。 ②会社の形態や働く意義について理解できる。 ③ビジネススキル3級程度の経済知識と判断力を習得できる。
キーワード	
成績評価（合格基準60	提出課題50%・講義ごとの小テストの結果50%により成績を評価し、総計で60%を合格とする。
関連科目	技術者の社会人基礎A、企業と人間A・B、社会と人間A・B
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じて、指示する。
連絡先	
注意・備考	＊参加型・実践型の講義のため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。 ＊「技術者の社会人基礎A」を受講していることが望ましい。

試験実施	実施しない
------	-------

科目名	文章表現法基礎編 B (FB22Q020)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	三木恒治 (みきこうじ)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
2 回	経験や知識の文章化に取り組む。
3 回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
4 回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
5 回	対立する意見を使って文章を構成する。
6 回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
7 回	800字の構成について解説する。最終評価試験について説明する。
8 回	文章表現のポイントを整理する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読み、文章の構成について確認しておくこと。 復習：受講上の注意と文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
2 回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
3 回	予習：文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
4 回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
5 回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
6 回	予習：800字の参考文献を読んでくこと。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
7 回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
8 回	予習：ここまでの講義内容を確認し、最終評価試験の準備をすること。 復習：最終評価試験について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	一般社会で通用する文章を書くために、基本的な取り組みの姿勢とスキルを身につける。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	文章表現の目的を理解し、800字程度の文章をわかりやすく書くことができる。
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
成績評価 (合格基準60)	演習 (40%)、最終評価試験 (60%)。原則として、演習をすべて行うことが最終評価試験の受験資格となる。
関連科目	文章表現法基礎編 A・B、文章表現法応用編 A・B、プレゼンテーション基礎編 A・B、プレゼンテーション応用編 A・B
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽／新・文章表現法 I 基礎編 (群青色版)／蜻文庫
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	A2号館8階、オフィスアワー別途参照
注意・備考	1. 受講者数の上限を 50 名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.

	講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時によりのみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。 11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	文学B (FB22Q030)
英文科目名	Literature B
担当教員名	浅野純一 (あさのじゅんいち)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	『莊子』について説明する
2回	『世説新語』について説明する
3回	『史記』から項羽本紀などについて説明する
4回	六朝志怪小説から「搜神記」について説明する
5回	唐代伝奇小説から「枕中記」「杜子春」について説明する
6回	明代白話小説「三国志演義」「西遊記」「水滸伝」「金瓶梅」を紹介する
7回	清代の小説『紅樓夢』について説明する
8回	授業のまとめを行う。 最終試験を実施する

回数	準備学習
1回	シラバスをよくよむこと。「中国の歴史」「中国歴史年表」などのキーワードで中国の王朝名を予習しておくこと。(標準学習時間60分) Aから継続する受講者は、前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。李煜について好きか嫌い、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。莊子の世界観をどう思うか、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)
3回	前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。世説新語に登場した人物のエピソードをどう思うか、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)
4回	前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。項羽の運命をどう思うか、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。搜神記の逸話をどう思うか、なぜそうなのかを考えておくこと。可能であれば芥川龍之介「杜子春」を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
6回	前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。枕中記、杜子春の逸話の意味なにかを考えておくこと。可能であれば芥川龍之介「杜子春」を読むこと。(標準学習時間120分)
7回	前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。(標準学習時間90分)
8回	前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。紅樓夢の登場人物のうち誰が好きか、なぜそうなのかを考えておくこと。最終試験に向けて準備すること(標準学習時間150分)

講義目的	中国の文学作品の主な作者や作品について知識を持ち、内容を理解して味わうことが出来るようになる。文学が人間にとってどのような意味をもつか、考えることが出来るようになる。(教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する)
達成目標	中国の歴代の散文・小説のうち、自分の好きな作品について基本的な事柄(内容、時代背景など)を説明し、自分なりの評価をすることが出来る。 中国文学について、おおむねの流れを説明することが出来る。
キーワード	中国文学、散文、小説、
成績評価(合格基準60)	最終試験100%により成績を評価し、60%以上を合格とする。
関連科目	中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、文学(日本文学や欧米文学)
教科書	なし(資料配付)
参考書	授業中に紹介する
連絡先	asanoj@big.ous.ac.jp
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	法学B (FB22Q040)
英文科目名	Law B
担当教員名	中西俊二＊（なかにししゅんじ＊）
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	制限行為能力者および意思表示ならびに不法行為について講義する。教科書の表に基づいて制限行為能力者の比較をする。また、意思表示の錯誤、詐欺・強迫について説明する。さらに、不法行為については損害賠償に関して判例「富貴丸事件」を取り上げることにする。使用者責任(民715条)については、最高裁昭和39年2月4日の損害賠償請求事件を用い外形理論について考察する。
2回	民法の最終回として親族法と相続法を講義する。婚姻・離婚に関する判例を取り上げ判例の流れを説明する。特に離婚の効果について相続については、法定相続分、限定承認、遺留分制度等について解説する。
3回	今回から5回にわたって刑法を講義する。刑法とは何かについて問題提起し、旧派と新派の刑法理論を概観する。刑法の大原則である罪刑法定主義について、意義・内容・機能(人権保障機能)について解説する。また、犯罪の定義を踏まえて、犯罪成立のための因果関係理論について判例に基づいた考察をする。
4回	不作為犯と事実の錯誤について講義する。不真正不作為犯の要件としての作為義務ならびに故意に関する客体の錯誤と方法の錯誤の問題について考察する。新宿西口で発生した強盗殺人未遂事件に関する最高裁の判例を事例として取り上げることにする。
5回	違法阻却事由の代表である「正当防衛」と「緊急避難」について講義する。なぜ正当防衛あるいは緊急避難のためにした行為は違法性がなくなるのか、本質・「止むを得ない行為」と補充の原則・法益の均衡等の観点から両者の比較考察をする。「喧嘩と正当防衛」について、最高裁の殺人被告事件を引用する。
6回	「過剰防衛」と「過剰避難」の意義と「過剰」についての認識について解説する。判例としては、最高裁昭和34年2月5日の殺人被告事件を取り上げ量的過剰について理解を深めることにする。また、誤想過剰防衛の例として「英国騎士道事件」を引用し、刑法36条2項の問題を考察する。責任阻却事由としての故意の問題を扱い、有名な「たぬき・むじな」事件「もま・むさび事件」について見識を広めることにする。さらに、未遂犯と不能犯についても言及する。
7回	共犯について講義する。共同正犯・教唆犯・幫助犯とは何か。間接正犯とは何かについて、事例を挙げて考察する。共同正犯の要件および共謀共同正犯を理解するために最高裁判決「練馬事件」を事例として引用する。さらに、共犯と中止犯および離脱の問題を判例の事例を通して解説する。
8回	刑法の重要判例を取り上げ、論点の総括を行う。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	教科書をよく読み、意思表示に基づく法律行為について予習しておくこと。60分。
2回	教科書をよく読み、婚姻と離婚について予習しておくこと。60分。
3回	教科書をよく読み、刑法の概略について予習しておくこと。60分。
4回	教科書をよく読み、不作為犯について予習しておくこと。60分。
5回	教科書をよく読み、正当防衛と緊急避難について予習しておくこと。60分。
6回	教科書をよく読み、過剰防衛について予習しておくこと。60分。
7回	教科書をよく読み、共犯について予習しておくこと。60分。
8回	講義で取り扱った、民法および刑法の事項と内容をよく復習して試験に臨むこと。120分。

講義目的	基本三法と言われる憲法・民法・刑法について、基礎的知識を身につけ、日々生起する事件等について法的思考力(リーガルマインド)に基づき自主的解決が導き出せるようにする。(教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する)
達成目標	公法と私法、民事法と刑事法の基礎概念の理解と区別ができること。日々生起する政治的・社会的事象に対して、法的問題構成と解決ができるリーガルマインド(法的判断能力)を養成する。
キーワード	法の解釈、信義誠実の原則、罪刑法定主義
成績評価(合格基準60)	小テスト(20点)/最終評価試験(80点)
関連科目	日本国憲法
教科書	テキスト法学(第3版)/中西俊二著/大学教育出版/9784864293730;法学六法18/石川明・池田真朗編/信山社
参考書	現代社会における法学入門第2版/斎藤信幸/成文堂

連絡先	教務課
注意・備考	毎回講義の終わりに、巻末の択一問題を小テストとして、ミシン線に沿って切り取り提出してもらうので、受講に当たっては教科書を必ず持参すること。
試験実施	実施する

科目名	比較文化論B (FB22Q050)
英文科目名	Comparative Cultures B
担当教員名	辻維周 (つじまさちか)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア1)
2回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア2)
3回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア3)
4回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア4)
5回	・太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア5) ・グループワークのためのグループ分け
6回	グループワーク1 (グループ内で自分の生まれた土地と文化を話し合う)
7回	グループワーク2 (グループ内で自分の生まれた土地と文化を話し合う)
8回	まとめ,最終評価試験

回数	準備学習
1回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
2回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
3回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)
6回	自分が生まれ育った町の文化を捉えておくこと。(標準学習時間120分)
7回	6回目で話し合ったことを検証しておく。(標準学習時間90分)
8回	今までの事を反芻し、最終評価試験に備えておく。(標準学習時間120分)

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけでも言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。(教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する)
達成目標	少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できるような人間になること。また「日本では」「国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が出来る人間になる事。
キーワード	視野をうんと広く持ってみよう。そうすれば自分の知っている世界が変わって見える。
成績評価 (合格基準60)	グループワークでの発表を60点満点、最終評価試験40点満点とし、60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「異文化理解」岩波新書 青木保著
参考書	「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会
連絡先	ous.tsuji@gmail.com
注意・備考	・この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加が出来ることは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。
試験実施	実施する

科目名	外国史 B (FB22Q060)
英文科目名	World History B
担当教員名	奥山広規＊ (おくやまひろき＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	大交易時代と南北アメリカ世界を軸に、近世世界を説明する。
2 回	ユーラシア諸帝国の繁栄を軸に、近世世界を説明する。
3 回	市民革命と産業革命を軸に、西洋近代について概観する。
4 回	ヨーロッパの進出と東アジアの変貌を軸に、東洋近代について概観する。
5 回	ヨーロッパとアフリカ・アジアの関係を軸に、帝国主義と世界秩序について説明する。
6 回	第一次・第二次世界大戦の背景・展開・影響について説明する。
7 回	第二次世界大戦後の世界について説明する。
8 回	講義内容の総括をする。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスにおいて講義内容の確認を行うこと。 古代・中世世界についてノートや配布資料を中心に復習しておくこと(標準学習時間60分)。
2 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
3 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
4 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
5 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
6 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
7 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
8 回	ここまでの講義内容についての復習を行うこと(標準学習時間180分)

講義目的	外国の歴史を古代から近代まで概説的に扱う。現代社会の原型となった近代社会が、古代社会と中世社会の基礎の上に成り立っていることを、時系列に沿って体系的に説明する。また、西洋と東洋という枠組みによって同時代の空間的な視点を、さらには比較によってそれぞれの特徴をも浮き彫りにする。 (教養教育センター 単位認定の方針Bにもっとも強く関与)
達成目標	①世界の古代、中世、近代に関する基礎的な知識を習得する ②毎回の講義が断片的な知識となるのではなく、相互がつながる巨視的な歴史観を身につける
キーワード	
成績評価 (合格基準60)	最終評価試験 (100%) によって、成績を評価する。
関連科目	
教科書	講義中、適宜、指示する。
参考書	講義中、適宜、指示する。
連絡先	徳澤啓一研究室 (7号館4階)
注意・備考	止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。また、講義時、参考資料を配布することがあるが、欠席者への事後配布は行わないので注意すること。
試験実施	実施する

科目名	哲学B (FB22Q070)
英文科目名	Philosophy B
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および東洋哲学とは何かを説明する。
2 回	インド哲学 (1)ーインド哲学の誕生から沙門宗教の成立までを説明する。
3 回	インド哲学 (2)ーインドの「六派哲学」と現代へのその影響を説明する。
4 回	中国哲学 (1)ー諸子百家の思想を説明する。
5 回	中国哲学 (2)ー朱子学と陽明学を説明する。
6 回	イスラーム哲学 (1)ーキンディーとファーラービーの哲学を説明する。
7 回	イスラーム哲学 (2)ーイブン・スィナーとガザーリーの哲学を説明する。
8 回	前半：最終評価試験 後半：試験の解答と解説

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、「東洋哲学とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。(標準学習時間30分)
2 回	前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
4 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)
5 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	本講義では、インド、中国、およびイスラーム文化圏の哲学を通して、代表的な東洋哲学をひと通り学ぶ。哲学はあらゆる学問の基礎とも言えるため、その思考方法を身につけることにより、自身の専門分野の研究にそれを生かすことができるようになるのが、本講義の最終的な目的である。(教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する)
達成目標	①哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、自分の言葉できちんと説明することができる。 ②各文化圏の思想を比較し、それらの間の共通点、相違点を見出すことができる。

	③過去の哲学者の思考を追体験し、自分の専門の研究に役立てることができる。
キーワード	哲学、思想、宗教、東洋哲学
成績評価（合格基準60	・授業での提出課題（60%） ・最終試験（40%） ※授業開始後30分以降の入室は認めない。また、課題未提出の場合は、評価の対象としない。
関連科目	哲学A、倫理と宗教
教科書	特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。
参考書	参考書は、授業内で適宜、紹介する。
連絡先	
注意・備考	・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。 ・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。
試験実施	実施する

科目名	日本国憲法【木3木4】（FB22R010）
英文科目名	The Constitution of Japan
担当教員名	中西俊二＊（なかにししゅんじ＊）
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 3時限 / 木曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションをかねて憲法とは何かを考え、広義と狭義の意味を解説する。日本国憲法がいかなる経緯から制定されるに至ったか、明治憲法の改正手続きに言及する。
2回	国家と憲法の関係および立憲主義の意義と内容について講義する。特に三権分立がどのような機能を果たしているかを解説する。さらに、明治憲法の特徴にも言及する。
3回	国民主権と憲法の最高法規性について考える。憲法は国法秩序の最高法規と解されているが、それは何故なのか、個人の尊厳および国民主権との関係について理解を深めるように解説する。憲法96条は、憲法改正を定めるが、改正に限界はないのか問題提起をする。憲法81条の違憲審査制に関わって司法消極主義についても説明する。
4回	自由主義的民主制と平和主義を取り上げ、自由の確保と憲法9条の戦争の放棄について解説する。「恵庭事件」「長沼事件」等の判例を取り上げると同時に、憲法9条の解釈と集団的自衛権について説明する。
5回	憲法の私人間効力について解説する。憲法は基本的に国家と国民の関係を規律するものであるが、憲法規定は私人間に及ぶかという重要な問題を、「三菱樹脂事件」および「昭和女子大事件」の判例を取り上げ、基本的人権の保障の法的効果として、私人による権利侵害を防ぐために憲法規定はどのように私人間に適用されるべきかを考えることにする。
6回	憲法13条の幸福追求権という包括的人権規定を根拠とするいわゆる「新しい人権」の内容と判例について講義する。「宴の後事件」「京都府学連事件」「北方ジャーナル事件」等を取り上げて、「新しい人権」について考察する。
7回	憲法14条の「法の下での平等」の趣旨と合理的な差別ならびに関連判例について解説する。憲法違反とならない合理的な差別か否かを判断するため、「二重の基準」について言及する。「堀木訴訟」等関連判例も取り上げ解説する。
8回	憲法19条の思想・良心の自由と判例について講義する。保障の内容と他の精神的自由権との関係を理解させるように解説する。判例としては、「良心の自由と謝罪広告の強制」「麴町中学内申書事件」等を取り上げ解説する。
9回	憲法20条の信教の自由の内容と限界について講義する。その理解を深めるため、制度的保障である「政教分離の原則」を憲法20条3項および89条との関係で解説する。判例としては、「津地鎮祭事件」「愛媛県玉串料訴訟」等を取り上げることとする。
10回	憲法23条が保障する学問の自由の内容と大学の自治について講義する。制度的保障としての大学の自治における学生の地位についても言及する。判例としては、「旭川学テ事件」「劇団ポポロ事件」を取り上げることとする。
11回	見ん主義国家において最も重要な人権の一つである憲法21条1項の表現の自由について講義する。表現の自由の内容として「知る権利」「報道の自由」「取材の自由」について説明し、取材源秘匿の自由が最高裁で認められたことの意義を解説する。また、「特定秘密保護法」についてもその法的影響等について言及する。検閲の問題も取り上げることとする。「猿払事件」「博多駅事件」等の判例も取り上げ解説する。
12回	憲法22条1項の定める経済的自由について講義する。同条の保障する職業選択の自由および29条1項の財産権の保障規定に由来する営業の自由とその制限について解説する。消極的目的規制と積極的目的規制の違いによる合憲性判定基準のの区別を理解できるように講義をするめることにする。取り上げる判例としては、「薬局解説の距離制限事件」「小売市場距離制限事件」等とする。
13回	人身の自由の焦点を当てて講義する。具体的には、憲法18じょうの「奴隷的拘束」からの自由、31条の「適正手続きの保障」、33条以下の「令状主義」等を取り上げ解説する。判例としては、「川崎民商事件」「緊急逮捕前の搜索・差押事件」「ポケット所持品検査事件」「高田事件」等を取り上げることとする。
14回	憲法25条の保障する生存権について講義する。成立の背景として福祉国家と生存権の関係、法的性質および生存権と環境権について解説する。判例としては「朝日訴訟」「堀木訴訟」「大阪国際空港公害訴訟」「厚木基地公害訴訟事件」と取り上げることとする。
15回	国務請求権と参政権について講義する。前者については、憲法17条の国家賠償請求権を、後者については、40条の刑事補償請求権を取り扱うこととする。いずれも明治憲法下では認められなかった基本的人権である。判例としては、「板まんだら事件」を取り上げることとする。
16回	まとめとして最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	法学六法にある日本国憲法の前文を読んでおくこと。30分。
2 回	教科書をよく読み、立憲主義について予習しておくこと。50分。
3 回	教科書をよく読み、憲法の最高法規性と憲法改正について予習しておくこと。60分。
4 回	教科書をよく読み民主制と平和主義について予習しておくこと。60分。
5 回	教科書をよく読み、憲法規定の適用範囲について予習しておくこと。60分。
6 回	教科書をよく読み、「新しい人権」について予習しておくこと。60分。
7 回	教科書をよく読み、法の下の平等について予習しておくこと。60分。
8 回	教科書をよく読み、思想・良心の自由について予習しておくこと。
9 回	教科書をよく読み、信教の自由について予習しておくこと。50分。
1 0 回	教科書をよく読み、学問の自由について予習しておくこと。
1 1 回	教科書をよく読み、表現の自由について予習しておくこと。60分。
1 2 回	教科書をよく読み、経済的自由について予習しておくこと。
1 3 回	教科書をよく読み、令状主義等について予習しておくこと。
1 4 回	教科書をよく読み、生存権について予習しておくこと。
1 5 回	国務請求権および参政権について教科書をよく読み、主権者として予習をしておくこと。
1 6 回	これまでの学習事項を整理・理解しておくこと。

講義目的	教科書に取り上げた判例を通して、具体的に現代の憲法問題に対して、自主的に主権者として責任ある判断がとれる民主主義者を養成すること。（教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する）
達成目標	受講生が日常生起する憲法問題を主権者として真剣に受け止め、憲法的问题解決の思考力を身につけること。
キーワード	自然法、個人の尊厳、基本的人権の尊重
成績評価（合格基準60	レポート(20点)、小テスト(20点)、最終評価試験(60点)
関連科目	法学
教科書	テキスト『日本国憲法第4版』/中西俊二/大学教育出版/978-4-86429-452-2 ;『法学六法』/ 石川明・池田真朗等編/信山社
参考書	テキスト『法学第3版』(大学教育出版、2015年)等
連絡先	教務課
注意・備考	毎回講義の終わりに、巻末の択一問題(小テスト)をミシン線に従って提出してもらうので、忘れずに教科書を持参すること。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編B (FB22R030)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス（授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法について）を行い、文章を書く際の注意点を説明する。
2 回	正しい根拠にたどり着く方法（資料の検索方法、見分け方、インターネットと出版物など）を説明する。
3 回	リーディングの技術（1）－文章の構造分析と要約の方法を説明する。
4 回	リーディングの技術（2）－文章の構造分析と要約の方法を説明する。
5 回	リーディングの技術（3）－文章の構造分析と要約の方法を説明する。
6 回	ライティングの技術（1）－5段落から成る文章の書き方を説明する。
7 回	ライティングの技術（2）－5段落から成る文章の書き方を説明する。
8 回	これまでに学習した内容の総括を行い、課題についての注意点を説明する。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく読み、「文章を書くうえで注意すべき点は何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。（標準学習時間30分）
2 回	前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間60分）
3 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）
4 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）
5 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
6 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
7 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
8 回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	本講義の目的は、論文やレポートの作成といった大学での学びに限らず、社会に出てからも日誌や報告書の作成などといった様々な場面で必要となる文章の書き方を身につけることである。「読みやすい文章」「わかりやすい文章」を書くのはもちろんのこと、「説得力のある文章」を書くのに必要なスキルの習得に重点を置く。最初に資料や根拠の扱い方を説明し、その後で、「説得力のある文章」の構成方法を具体的に学んでいく。（教養教育センター単位認定方針Eにもっとも強く関
------	--

	与する)
達成目標	①文章を書く際に気を付けるべき点に注意し、読みやすく、わかりやすい文章を書くことができる。 ②適切な順序で文章を構成し、信頼できる根拠に基づいて、説得力のある文章を書くことができる。
キーワード	文章表現、レポート、論文
成績評価（合格基準60	・毎回の授業内で使用するワークシートの提出（60%） ・課題提出（40%） ※早退・遅刻は2回で1回の欠席とし、授業開始後30分以降の入室は認めない。また、課題未提出の場合は、評価の対象としない。
関連科目	文章表現法基礎編A、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
教科書	特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。
参考書	参考書は、授業内で適宜、紹介する。
連絡先	
注意・備考	・受講者数の上限は50名とする。 ・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。 ・授業には必ず国語辞典を持参すること。 ・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。
試験実施	実施しない

科目名	企業と人間B (FB22R040)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	田邊麻里子＊ (たなべまりこ＊)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	＊ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 ＊文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2回	＊コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3回	＊「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4回	＊より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5回	＊コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6回	＊自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 ＊社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけることを学ぶ。
7回	＊テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8回	まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 自己のコミュニケーションスキルの不足部分を補う学習をしておくこと。 (標準学習時間 120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間 120分)
3回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間 120分)
5回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
7回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120分)
8回	これまでの講義内容をよく理解しておくこと。(標準学習時間 120分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要な報告を上司に伝えることが必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 (教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する)
達成目標	①自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ②ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 ③定型的なビジネス文書を作成することができる。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ビジネスマナー
成績評価 (合格基準60)	小テスト10%、最終評価試験90%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	

注意・備考	＊参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。
試験実施	実施する

科目名	キャリア形成講座B (FB22R050)
英文科目名	Career Design B
担当教員名	飯田哲司＊ (いいだてつし＊), 桑田朋美＊ (くわたともみ＊)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【印象マネジメント】 自己表現力の向上のための印象力マネジメントについて体験ワークを通じて学び、自己理解と自己認識を深めるとともに表現力アップを理解・実践する。 (桑田 朋美＊)
2回	【ビジネスマインド演習】 ビジネス現場ならびに対人マネジメントの分野で活かされる「ビジネス心理学(行動経済学)」「脳科学」「一般常識力」についての基礎を学び、その応用と展開策を実社会事例から研究する。 (飯田 哲司＊)
3回	【実践的ビジネスマナー養成】 社会の実践現場で活かすマナー&ビジネスマナーの考え方と意味を知り、その基礎力・応用力を実技演習により習得する。 (桑田 朋美＊)
4回	【チーム力の強化演習①】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、コンセンサス力の強化を目的に、課題解決力のための考え方と個働協働のあり方について理解する。 (飯田 哲司＊)
5回	【発想力強化トレーニング】 能力要件として注目度の高い「発想力」「ラテラルシンキング」について、その強化方法を学び、習得のための実践的トレーニングを実施する。 (飯田 哲司＊)
6回	【チーム力の強化演習②】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、課題解決のための考え方と個働協働のあり方について理解する。また時間管理の意識についても実践課題解決のなかから強化していく。 (飯田 哲司＊)
7回	【セルフコントロール・意思疎通】 協働で課題に取り組む際の自己コントロールについて理解を深め、ワークにより体感・体験する。あわせて周囲との意思疎通・報連相についての理解も深め、集団の中で行動する自分のスキルとマインドアップを考える。 (桑田 朋美＊)
8回	【講座のまとめ・最終評価試験】 社会人基礎力の習得についての振り返りとキャリア形成に関する整理を行う。実社会で求められる人材となるための基礎力の習得度合いとステップアップの確認を課題解決テストにより最終チェックする。 (全教員)

回数	準備学習
1回	「第一印象」「印象管理」の持つ意味・効果について、自分なりのイメージ・考えを持って臨むこと。
2回	「行動経済学」「ビジネス心理学」のワードについて、自分なりの理解をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
3回	実社会で即発揮できる「実践的・即効性マナー」を習得します。そのための心構えとスタイルで臨むこと。(標準学習時間 60分)
4回	「タイムマネジメント」の意識強化も図ります。社会人にとっての「時間」「時間管理」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
5回	自分の持つ「発想力」のクセ・特徴・発揮の仕方について、自分なりの整理をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
6回	チームで課題を解決するうえで必要なこと、意識すべきこと、取るべき行動のイメージを、自分なりに整理して臨むこと。(標準学習時間 60分)

7回	自分をコントロールするとはどういうことか、自分なりのイメージをもって臨むこと。（標準学習時間 60分）
8回	「社会人基礎力」の意味とその習得法・応用事例について、自分なりに再確認・整理をしたうえで臨むこと。（標準学習時間 60分）

講義目的	・社会で必要とされる力（コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力）を実践的な演習を通じて習得する ・実践的ワークを通じて、主張力・傾聴力・展開力を徹底強化する ・就活対策のみならず、社会人となった以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力について学ぶ（教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する）
達成目標	・コミュニケーション力、課題解決力、自己表現等のレベルアップを、ペアワークおよび演習を通じて実現する ・自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむ ・発想～会議～プレゼン～検証の過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・特徴・強み・弱みを知る
キーワード	社会人基礎力、コミュニケーション力、課題解決力、自己表現力、自己分析・自己理解、偶発的行動論、セルフコントロール、企画発想、アサーティブ、ゆとり世代
成績評価（合格基準60	・毎回のレポート 60%・課題ワークへの取り組み姿勢 20%・中間課題テストと最終評価試験（最終課題テスト） 20%
関連科目	
教科書	毎回プリントを配布
参考書	特になし
連絡先	
注意・備考	受講者数の上限を50名とする。
試験実施	実施する

科目名	外国史 B (FB22R060)
英文科目名	World History B
担当教員名	奥山広規＊ (おくやまひろき＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	大交易時代と南北アメリカ世界を軸に、近世世界を説明する。
2 回	ユーラシア諸帝国の繁栄を軸に、近世世界を説明する。
3 回	市民革命と産業革命を軸に、西洋近代について概観する。
4 回	ヨーロッパの進出と東アジアの変貌を軸に、東洋近代について概観する。
5 回	ヨーロッパとアフリカ・アジアの関係を軸に、帝国主義と世界秩序について説明する。
6 回	第一次・第二次世界大戦の背景・展開・影響について説明する。
7 回	第二次世界大戦後の世界について説明する。
8 回	講義内容の総括をする。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスにおいて講義内容の確認を行うこと。 古代・中世世界についてノートや配布資料を中心に復習しておくこと(標準学習時間60分)。
2 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
3 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
4 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
5 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
6 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
7 回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
8 回	ここまでの講義内容についての復習を行うこと(標準学習時間180分)

講義目的	外国の歴史を古代から近代まで概説的に扱う。現代社会の原型となった近代社会が、古代社会と中世社会の基礎の上に成り立っていることを、時系列に沿って体系的に説明する。また、西洋と東洋という枠組みによって同時代の空間的な視点を、さらには比較によってそれぞれの特徴をも浮き彫りにする。 (教養教育センター 単位認定の方針Bにもっとも強く関与)
達成目標	①世界の古代、中世、近代に関する基礎的な知識を習得する ②毎回の講義が断片的な知識となるのではなく、相互がつながる巨視的な歴史観を身につける
キーワード	
成績評価 (合格基準60)	最終評価試験 (100%) によって、成績を評価する。
関連科目	
教科書	講義中、適宜、指示する。
参考書	講義中、適宜、指示する。
連絡先	徳澤啓一研究室 (7号館4階)
注意・備考	止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。また、講義時、参考資料を配布することがあるが、欠席者への事後配布は行わないので注意すること。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法応用編 B (FB22R070)
英文科目名	Technical Writing (Advanced) B
担当教員名	藤野薫＊ (ふじのかおる＊)
対象学年	2 年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明する。広告文を書く①：指示されたテーマで広告コピーを構想する。
2 回	広告文を書く②：広告コピーに取り組み、作品を講評する。
3 回	文章実務の事例①：ビジネスレターや履歴書について解説する。
4 回	エントリーシートを書く①：エントリーシートの事例とポイントを解説する。
5 回	エントリーシートを書く②：エントリーシートに取り組む。
6 回	文章実務の事例②：契約書や企画書について解説する。
7 回	実用的な文章表現についてのまとめを行い、最終評価試験について説明する。
8 回	文章スキルのポイントを整理する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：広告表現の事例を収集しておくこと。復習：広告コピーのポイントを整理すること。（標準学習時間60分）
2 回	予習：指示されたテーマについて情報を集めておくこと。 復習：広告コピーを自己点検すること。（標準学習時間60分）
3 回	予習：ビジネスレターや履歴書の事例に触れておくこと。復習：ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。（標準学習時間60分）
4 回	予習：エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習：エントリーシートのポイントを整理すること。（標準学習時間60分）
5 回	予習：自己分析を行っておくこと。復習：エントリーシートを自己点検すること。（標準学習時間90分）
6 回	予習：契約書や企画書の事例に触れておくこと。復習：契約書や企画書のポイントをまとめること。（標準学習時間60分）
7 回	予習：実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習：文章表現で大切な点を整理しておくこと。（標準学習時間60分）
8 回	予習：ここまでの講義内容を確認すること。復習：最終評価試験について自己点検すること。（標準学習時間120分）

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	エントリーシートや実務文章に対応することができる。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試
成績評価（合格基準60	演習・提出課題（40%）、最終評価試験（60%）。 原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	文章表現法応用編A、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
教科書	世良利和・藤野薫／「文章スキルとプレゼン力」（緑版）／蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を50名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は必ずテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10.本講義では一部アクティブラーニングを導入し、グループディスカッションを行うことがある。 11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編 B (FB22S010)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	藤野薫＊（ふじのかおる＊）
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
2 回	経験や知識の文章化に取り組む。
3 回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
4 回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
5 回	対立する意見を使って文章を構成する。
6 回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
7 回	800字の構成について解説する。最終評価試験について説明する。
8 回	文章表現のポイントを整理する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読み、文章の構成について確認しておくこと。 復習：受講上の注意と文章構成のパターンについて確認すること。 （標準学習時間45分）
2 回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 （標準学習時間45分）
3 回	予習：文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 （標準学習時間45分）
4 回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 （標準学習時間60分）
5 回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 （標準学習時間60分）
6 回	予習：800字の参考文を読んでくこと。 復習：構成のポイントを整理すること。 （標準学習時間45分）
7 回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 （標準学習時間60分）
8 回	予習：ここまでの講義内容を確認し、最終評価試験の準備をすること。 復習：最終評価試験について自己点検すること。 （標準学習時間120分）

講義目的	一般社会で通用する文章を書くために、基本的な取り組みの姿勢とスキルを身につける。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	文章表現の目的を理解し、800字程度の文章をわかりやすく書くことができる。
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
成績評価（合格基準60）	演習（40％）、最終評価試験（60％）。原則として、演習をすべて行うことが最終評価試験の受験資格となる。
関連科目	文章表現法基礎編 A・B、文章表現法応用編 A・B、プレゼンテーション基礎編 A・B、プレゼンテーション応用編 A・B
教科書	藤野薫・三木恒治・世良利和／文章表現法Ⅰ基礎編（パステルブルー版）／蜻文庫
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を50名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は必ずテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.

	講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にものみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。 11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	企業と人間B (FB22S020)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	田邊麻里子＊ (たなべまりこ＊)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	＊ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 ＊文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2回	＊コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3回	＊「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4回	＊より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5回	＊コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6回	＊自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 ＊社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけることを学ぶ。
7回	＊テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8回	まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 自己のコミュニケーションスキルの不足部分を補う学習をしておくこと。 (標準学習時間 120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間 120分)
3回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間 120分)
5回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
7回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120分)
8回	これまでの講義内容をよく理解しておくこと。(標準学習時間 120分)

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要な報告を上司に伝えることが必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。 (教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する)
達成目標	①自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ②ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 ③定型的なビジネス文書を作成することができる。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ビジネスマナー
成績評価 (合格基準60)	小テスト10%、最終評価試験90%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	

注意・備考	＊参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。
試験実施	実施する

科目名	キャリア形成講座B (FB22S030)
英文科目名	Career Design B
担当教員名	飯田哲司* (いいだてつし*), 桑田朋美* (くわたともみ*)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【印象マネジメント】 自己表現力の向上のための印象力マネジメントについて体験ワークを通じて学び、自己理解と自己認識を深めるとともに表現力アップを理解・実践する。 (桑田 朋美*)
2回	【ビジネスマインド演習】 ビジネス現場ならびに対人マネジメントの分野で活かされる「ビジネス心理学(行動経済学)」「脳科学」「一般常識力」についての基礎を学び、その応用と展開策を実社会事例から研究する。 (飯田 哲司*)
3回	【実践的ビジネスマナー養成】 社会の実践現場で活かすマナー&ビジネスマナーの考え方と意味を知り、その基礎力・応用力を実技演習により習得する。 (桑田 朋美*)
4回	【チーム力の強化演習①】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、コンセンサス力の強化を目的に、課題解決力のための考え方と個働協働のあり方について理解する。 (飯田 哲司*)
5回	【発想力強化トレーニング】 能力要件として注目度の高い「発想力」「ラテラルシンキング」について、その強化方法を学び、習得のための実践的トレーニングを実施する。 (飯田 哲司*)
6回	【チーム力の強化演習②】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、課題解決のための考え方と個働協働のあり方について理解する。また時間管理の意識についても実践課題解決のなかから強化していく。 (飯田 哲司*)
7回	【セルフコントロール・意思疎通】 協働で課題に取り組む際の自己コントロールについて理解を深め、ワークにより体感・体験する。あわせて周囲との意思疎通・報連相についての理解も深め、集団の中で行動する自分のスキルとマインドアップを考える。 (桑田 朋美*)
8回	【講座のまとめ・最終評価試験】 社会人基礎力の習得についての振り返りとキャリア形成に関する整理を行う。実社会で求められる人材となるための基礎力の習得度合いとステップアップの確認を課題解決テストにより最終チェックする。 (全教員)

回数	準備学習
1回	「第一印象」「印象管理」の持つ意味・効果について、自分なりのイメージ・考えを持って臨むこと。
2回	「行動経済学」「ビジネス心理学」のワードについて、自分なりの理解をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
3回	実社会で即発揮できる「実践的・即効性マナー」を習得します。そのための心構えとスタイルで臨むこと。(標準学習時間 60分)
4回	「タイムマネジメント」の意識強化も図ります。社会人にとっての「時間」「時間管理」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
5回	自分の持つ「発想力」のクセ・特徴・発揮の仕方について、自分なりの整理をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
6回	チームで課題を解決するうえで必要なこと、意識すべきこと、取るべき行動のイメージを、自分なりに整理して臨むこと。(標準学習時間 60分)

7回	自分をコントロールするとはどういうことか、自分なりのイメージをもって臨むこと。（標準学習時間 60分）
8回	「社会人基礎力」の意味とその習得法・応用事例について、自分なりに再確認・整理をしたうえで臨むこと。（標準学習時間 60分）

講義目的	・社会で必要とされる力（コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力）を実践的な演習を通じて習得する ・実践的ワークを通じて、主張力・傾聴力・展開力を徹底強化する ・就活対策のみならず、社会人となった以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力について学ぶ（教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する）
達成目標	・コミュニケーション力、課題解決力、自己表現等のレベルアップを、ペアワークおよび演習を通じて実現する ・自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむ ・発想～会議～プレゼン～検証の過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・特徴・強み・弱みを知る
キーワード	社会人基礎力、コミュニケーション力、課題解決力、自己表現力、自己分析・自己理解、偶発的行動論、セルフコントロール、企画発想、アサーティブ、ゆとり世代
成績評価（合格基準60	・毎回のレポート 60%・課題ワークへの取り組み姿勢 20%・中間課題テストと最終評価試験（最終課題テスト） 20%
関連科目	
教科書	毎回プリントを配布
参考書	特になし
連絡先	
注意・備考	受講者数の上限を50名とする。
試験実施	実施する

科目名	経済学B (FB22S040)
英文科目名	Economics B
担当教員名	横尾昌紀＊ (よこおまさのり＊)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	展開形ゲームと戦略形ゲームの関係について
2回	展開形ゲームの応用例(2):「裁量カルールか?」あるいは「なぜ大学の講義にシラバスが必要なのか?」
3回	非対称情報ゲームと完全ベイジアン均衡
4回	労働市場の分析(1):エイジェンシー問題,あるいは「なぜブラック企業が跋扈するのか?」
5回	労働市場の分析(2):シグナリングゲーム,あるいは「あなたはなぜ大学へ行くのか?」
6回	進化と合理性
7回	レプリケータダイナミクスと進化的安定戦略
8回	まとめ,最終評価試験

回数	準備学習
1回	教科書の第6章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
2回	配布した資料を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
3回	教科書の第8章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
4回	教科書の第8章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
5回	教科書の第8章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
6回	教科書の第11章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
7回	教科書の第11章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
8回	全体を総復習してください。 (標準学習時間40分)

講義目的	現代の経済学のひとつの基礎を成す理論であるゲーム理論の中級部分を講義します。人々の意思決定が相互に依存している状況,すなわち,駆け引きのある状況を「戦略的状況」と呼びます。ゲーム理論はそのような状況をシステムティックに分析するために開発された比較的新しい学問分野です。このゲーム理論の学習を通じて,「戦略的思考」を身につけることを目的とします。(教養教育センター 単位認定の方針Cにもっとも強く関与。)
達成目標	・簡単な展開形ゲームと戦略形ゲームの関連,およびナッシュ均衡と部分ゲーム完全均衡の関係を理解する。 ・簡単な不完備情報のゲームの記述法を理解する。 ・簡単な不完備情報ゲームで完全ベイジアン均衡を求める。 ・簡単なレプリケータダイナミクスの記述の仕方を理解し分析する。
キーワード	経済学,戦略,戦略的状況,戦略的思考,ゲーム理論,ナッシュ均衡,部分ゲーム完全均衡,完全ベイジアン均衡,進化。
成績評価(合格基準60)	課題提出(20%),最終評価試験(80%)
関連科目	社会と人間
教科書	ゲーム理論・入門/岡田章著/有斐閣アルマ/9784641123625
参考書	『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』,梶井厚志・松井彰彦著,日本評論社
連絡先	電子メール: yokoo@e.okayama-u.ac.jp
注意・備考	参考書として挙げた『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』(以前教科書として指定)をすでに入手している場合は,新たに教科書を買う必要はありません。最終評価試験の「過去問」を授業の最初の方で配布しますので,入手漏れがないように気をつけてください。

試験実施	実施する

科目名	身近な生物学Ⅱ（FB22S050）
英文科目名	Biology closely related to our daily lives I
担当教員名	波田善夫（はだよしお）
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	生物の系統と進化：原始地球で誕生した生命は発展し、また絶滅し、現在の姿に進化してきた。これらの系統と進化の仕組みについて考えてみたい。観点の1つは多様性と多用性あるいは特殊化と汎用化であるし、水中での生息・生育と陸上生活である。
2 回	バイオーム：気候的特性によって区分された生物群集をバイオームという。様々なバイオームが形成される環境軸は温度、日照、降水量が主要なものである。温度と降水量は理解しやすいファクターであり、教科書などでも広く掲載されている。今回は地球の公転にともなう地球の太陽軌道の周年変化との関係を中心とする。
3 回	食物連鎖とエネルギーフロー：それぞれのバイオームでは、生産者とこれを食べて生育する消費者、そして分解者が組み合わさって、群集を構成している。食物連鎖の各段階では大幅なエネルギーが運動エネルギーなどに变化して失われる。これらの関係をバイオームに着目して考えていく。
4 回	寄生と共生：生物同士の関係には、病原菌のように相手を死に至らしめるものもあるし、協調して単独同士よりも生育状態を改善したりする、いわゆる共生という段階まで多様である。これらについて解説し、生物同士の激しい関係を学ぶ。
5 回	捕食と被食の関係：生物同士の関係の中で、食べる一食べられるの関係は運命的、宿命的なものであるが、これらの関係の理論について考えていく。
6 回	生態系の物質循環Ⅰ：炭素循環は、地球温暖化とも大きく関連しており、地球の将来に大きな影響がある。炭素を中心とした物質循環を学ぶ。
7 回	生態系の物質循環Ⅱ：植物の主要な栄養素は「窒素、リン、カリウム」である。これらの循環について学ぶ。
8 回	これまでの講義内容をまとめたのち、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	生物全ての系統と進化について言及することはできない。動物を中心とするので、大まかな系統を学習してくること。（標準学習時間30分）
2 回	地球上のバイオームにはどのようなものがあるか、それに関する気温、降水量の関係を予習しておくこと。（標準学習時間60分）
3 回	生態系ピラミッド、食物連鎖を予習しておくこと。（標準学習時間30分）
4 回	共生と寄生の例を事前に調べておくこと。（標準学習時間60分）
5 回	植物が食べられないための対策にどのような実例があるか、調べてくること。（標準学習時間60分）
6 回	物質循環を予習し、それぞれのバイオームではどのようなようになるかを考えておくこと。（標準学習時間90分）
7 回	「窒素、リン、カリウム」は、植物体内でどのような働きを行っているかを予習しておくこと。（標準学習時間60分）
8 回	最終評価試験は記述式であるので、系統的・総合的な学習を行っておくこと。

講義目的	我々の存在の基盤である生態系の保全は地球上の全生命、当然のことながら人類の存続にとって最も基本的で重要なことである。この生態系を理解するために、生物間の関係から生態系全体のエネルギーフロー、物質循環を理解し、将来の自然を確実に利用し、保全できる知識を学ぶ。（理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与）
達成目標	生態系はどのような条件で存続できるかを理解する。生物多様性の保全がなぜ必要なのかを理解する。人類の存続を可能とする持続的利用に関する留意点を理解する。
キーワード	生物の系統と進化、バイオーム、食物連鎖、エネルギーフロー、物質循環、生態系ピラミッド、寄生と共生、捕食と被食
成績評価（合格基準60	課題レポート40%、最終評価試験60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	身近な生物学Ⅰ
教科書	なし
参考書	適宜、ホームページ等によって情報を提供する。
連絡先	2 1 号館 6F 研究室 電話 086-256-9646

注意・備考	以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 基礎理学科，生物化学科，臨床生命科学科，動物学科，バイオ・応用化学科，生命医療工学科，生物地球学科 「生物学基礎論Ⅰ・Ⅱ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「生物学基礎論Ⅰ・Ⅱ」の履修生および履修予定学生は「身近な生物学Ⅰ・Ⅱ」の履修を避けること。 課題レポート、最終評価試験については模範解答と採点基準をホームページの講義ノートに掲載する。 講義中、ホームページの講義ノートを閲覧することはかまわないが、最終評価試験中においては閲覧を禁止する。
試験実施	実施する

科目名	身近な地学Ⅱ (FB22S060)
英文科目名	Geoscience closely related to our daily lives II
担当教員名	北岡豪一＊ (きたおかこういち＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	先人は、星の明るさと色を手掛かりにしてどのようにして宇宙を知るようになったのか、それを紹介する。
2 回	宇宙が膨張していることがどうして分かったのか、また、宇宙にははじまりがあり、大きさがあることがどのようにして分かるようになったのか説明する。
3 回	宇宙がはじまって、まず物質ができ、星、銀河、太陽系、地球が形成されてきた過程を概説する。さまざまな元素は星の中で生まれたことも説明する。
4 回	地球上の生き物は太陽の恩恵を受けて生きている。環境の基本要素である地球表面の温度はどのようにして決まるのか、すじみちを説明する。
5 回	どうして風が吹くのか、理解を深める。自転する地球の上で風はどのように吹くのかについて学習する。
6 回	暖かい空気と冷たい空気はどのようにして混じるのか、低気圧や台風はどのようにして発生し、発達するのか、説明する。
7 回	雨はどのようにして降るのか、メカニズムを説明する。また、陸域の水はどのように循環しているのか、また、それによって生き物が生きていられることについて説明する。
8 回	地球温暖化、環境汚染（放射能汚染）など、深刻な環境問題について概説する。後半の0.5コマで最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	人間は、身近に見えるものに対して、遠近をどのようにして感じているのか考えておくこと。（標準学習時間：60分）
2 回	光が波であること、光の色、波の基本的な特徴についてよく調べておくこと。（標準学習時間：60分）
3 回	高校で学んだ原子や原子核についてあらましを復習しておくこと。元素の周期律表をよくみておくこと。（標準学習時間：60分）
4 回	ストーブに向かうと暖かく感じ、当たっている正面が熱いのはなぜなのか、考えておくこと。（標準学習時間：60分）
5 回	空気が暖まるとなぜ軽くなるのか、空気よりも軽い気球や煙はなぜ上昇するのか、よく考えておくこと。（標準学習時間：60分）
6 回	スプレーや自転車の空気入れから噴出する気体はなぜ冷たく感じるのか、考えておくこと。（標準学習時間：60分）
7 回	外気が冷たいとき、窓ガラスに水滴がついたり、車の窓が曇るのはなぜか、考えておくこと。（標準学習時間：60分）
8 回	最終評価試験を実施するので、これまで学習した内容をよく復習し理解しておくこと。（標準学習時間：180分）

講義目的	自然界では、さまざまな時間空間スケールでエネルギーと物質が循環していることを認識することが基本である。本講義では、まず、人類が地球や宇宙をどのようにして知り、現代の地球観、宇宙観に至ったのか概観する。そして、地球表層の大気と水が太陽と地球のエネルギーを駆動源として循環しており、その過程が天気、風、雨、川などとして身近に現れていることを学習する。（理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与）
達成目標	・宇宙が膨張していることがどのようにして明らかにされたのかを知っている。 ・宇宙のはじまり、物質の生成、宇宙の歴史の概要を知っている。 ・地球の歴史を通じて、地球上の大気と水がどのようにして形成されたのかを知っている。 ・地球表層の温度はどのようにして決まるのかを理解している。 ・大気と水が地球規模でどのように循環しているのかを理解している。 ・身近におこっている気象・水循環のメカニズムの概要を理解している。 ・温暖化の問題など、地球環境について考えることができるようになっている。
キーワード	宇宙、太陽系、太陽放射、大気の循環、水の循環、気象、地球環境、地球温暖化
成績評価（合格基準60	毎回講義の小レポート（50点）と最終評価試験（50点）により評価する。

関連科目	身近な物理学Ⅰと身近な化学Ⅰを受講していることが望ましい。
教科書	なし
参考書	「ニューステージ新地学図表」/浜島書店編集部/浜島書店/978-4-8343-4012-9
連絡先	kitaoka_51@yahoo.co.jp
注意・備考	提出課題については、講義中に模範解答を示しフィードバックを行う。 講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。 講義資料は講義開始時に配布する。 以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 基礎理学科，生物地球学科 「地学基礎論Ⅰ・Ⅱ」と一部内容が重複する可能性があるので，その科目の履修生および履修予定学生は「身近な地学Ⅰ・Ⅱ」の履修を避けること。
試験実施	実施する

科目名	インターンシップ概論 (FB22S070)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	齊藤尚志* (さいとうたかし*)
対象学年	2年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。
2回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する。
3回	自己PRの基礎について説明する。
4回	自己PRの基礎について説明する。
5回	企業研究について説明する。
6回	面接実践演習を通して、具体的な面接の仕方を説明する。
7回	インターンシップに行くための心構えについて説明する。
8回	インターンシップに行くために自己PR、企業研究についてのまとめをする。

回数	準備学習
1回	岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み、インターンシップの意義などを確認しておくこと。(標準学習時間:60分)
2回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	自己PRのレポートを完成させて、提出するために推敲しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	インターンシップのマッチングに向けて、自己PRの確認、面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	インターンシップとは、企業・団体などにおいて、学生が将来の職業、キャリア選択を意識した就業体験をすることによって、社会や企業の実情を知り、学生が自らの職業適性や将来設計を考えると同時に、大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です。本講義では、インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と、インターンシップ後の報告などの事後指導を通して、インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする。 (教育支援機構 教養教育センターの学位授与方針項目Cに強く関与する)
達成目標	・インターンシップ参加の心構えを身に着けること(学位授与方針項目C) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること(学位授与方針項目C) ・インターンシップ終了後、自らの経験をまとめると同時に、プレゼンテーションができること(学位授与方針項目C) ・社会に貢献できる人材となること(見学の理念)(学位授与方針項目E)
キーワード	インターンシップ、企業研究、面接対策、企業研修
成績評価(合格基準60)	毎回の提出物20%, レポート80%により評価する。
関連科目	インターンシップA・B・C、文章表現法Ⅰ、文章表現法Ⅱ、プレゼンテーションⅠ、プレゼンテーションⅡ、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論、社会・産業実習
教科書	教科書は1冊使います。 「第1版 学生のためのキャリアワークブック ～キャリア・コミュニケーション・就職活動の知識と実践～」/株式会社理想経営/株式会社理想経営
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンME。必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする。
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
注意・備考	履修登録:「インターンシップA・B・C、社会・産業実習」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと。 賠償保険:インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」(1年間210円)へ必ず加入すること。
試験実施	実施しない

科目名	インターンシップ概論 (FB22S080)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	松田周司* (まつだしゅうじ*)
対象学年	2年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。
2回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する。
3回	自己PRの基礎について説明する。
4回	自己PRの基礎について説明する。
5回	企業研究について説明する。
6回	面接実践演習を通して、具体的な面接の仕方を説明する。
7回	インターンシップに行くための心構えについて説明する。
8回	インターンシップに行くために自己PR、企業研究についてのまとめをする。

回数	準備学習
1回	岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み、インターンシップの意義などを確認しておくこと。(標準学習時間:60分)
2回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	自己PRのレポートを完成させて、提出するために推敲しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	インターンシップのマッチングに向けて、自己PRの確認、面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	インターンシップとは、企業・団体などにおいて、学生が将来の職業、キャリア選択を意識した就業体験をすることによって、社会や企業の実情を知り、学生が自らの職業適性や将来設計を考えると同時に、大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です。本講義では、インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と、インターンシップ後の報告などの事後指導を通して、インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする。 (教育支援機構 教養教育センターの学位授与方針項目Cに強く関与する)
達成目標	・インターンシップ参加の心構えを身に着けること(学位授与方針項目C) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること(学位授与方針項目C) ・インターンシップ終了後、自らの経験をまとめるとともに、プレゼンテーションができること(学位授与方針項目C) ・社会に貢献できる人材となること(見学の理念)(学位授与方針項目E)
キーワード	インターンシップ、企業研究、面接対策、企業研修
成績評価(合格基準60)	毎回の提出物20%, レポート80%により評価する。
関連科目	インターンシップA・B・C、文章表現法Ⅰ、文章表現法Ⅱ、プレゼンテーションⅠ、プレゼンテーションⅡ、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論、社会・産業実習
教科書	教科書は使用しない。
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンME。必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする。
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
注意・備考	履修登録:「インターンシップA・B・C、, 社会・産業実習」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと。 賠償保険:インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」(1年間210円)へ必ず加入すること。
試験実施	実施しない

科目名	企業情報特論B（FB22S090）
英文科目名	Business Leader Lecture Series B
担当教員名	中村修（なかむらおさむ）、伊代野淳（いよのあつし）
対象学年	2年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講演者：富士ゼロックス岡山株式会社 代表取締役社長 藤田康史 タイトル：「大転換期の企業経営と求める人材」 講演後、質疑応答をする。 (全教員)
2回	講演者：株式会社天満屋 執行役員 斎藤和好 タイトル：「小売業の中の百貨店」 講演後、質疑応答をする。 (全教員)
3回	講演者：山陽新聞社 代表取締役社長 松田正己 タイトル：「新聞づくりは地域づくり」（予定） 講演後、質疑応答をする。 (全教員)
4回	講演者：株式会社システムズナカシマ 代表取締役社長 中島義雄 タイトル：「ナカシマグループにおける新事業への取り組み」（予定） 講演後、質疑応答をする。 (全教員)
5回	講演者：三井住友銀行（予定） タイトル：（講演内容未定） 講演後、質疑応答をする。 (全教員)
6回	講演者：株式会社はるやまホールディングス 監査役 佐藤晃司 タイトル：「着こなしのTP0」 講演後、質疑応答をする。 (全教員)
7回	講演者：リッキービジネスソリューション株式会社 代表取締役 岡山理科大学客員教授 澁谷耕一 タイトル：「創業経営者から学んだこと～伊藤雅俊、今泉嘉久、大竹美喜、南部靖之、孫正義、北尾吉孝～」 講演後、質疑応答をする。 (全教員)

準備学習	新聞を読む習慣を付け、当該講義の講師や企業、授業内容について、事前知識を得ておくこと。（標準学習時間60分）
講義目的	経済活動や企業間競争のグローバル化の急速な展開に伴い、本質的な市場ニーズを正確に把握し、それに対応した事業戦略・技術開発戦略を構築することが、企業の重要な課題になっている。本科目では、確固たる経営理念のもとに企業や産業界をリードしている卓越した経営者等に、企業活動のあるべき姿、事業・商品戦略、研究開発戦略、求められる技術者像と人材育成、企業と大学の連携や地域貢献、等について、判りやすくお話いただく。これにより企業や社会に貢献する技術者として持つべき素養を身に付ける。

	毎回の講義毎に講師が異なるため、毎回の講義を聴講し、得た知識を自身のキャリア形成に役立てることが目的である。 教育支援機構 教養教育センターの単位認定の方針項目Cに強く関与し、Eにある程度関与する。
達成目標	企業や社会に貢献する技術者として、以下の素養を身につけ（C）、理解することができる（E）。 ・経営理念と企業活動のあるべき姿・戦略的経営および商品戦略・技術経営と研究開発戦略・企業における人材育成・企業にとっての地域社会との関わりと社会貢献・産学官連携と大学への期待。 ※（ ）内は教育支援機構 教養教育センターの「単位認定の方針」の対応する項目（大学HP）を参照。
キーワード	経営理念、経営戦略、技術マネジメント（MOT）、産学連携
成績評価（合格基準60	毎回の講義ごとに講師が異なるため、毎回の講義を聴講し、都度毎の講義に関するレポート提出が課せられる。レポート（100%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	技術マネジメント、企業等体験実習（インターンシップ）、科学技術倫理、プレゼンテーション
教科書	使用しない
参考書	藤末健三著 「技術経営入門」 日経BP社発行
連絡先	キャリア支援センター（25号館7階）
注意・備考	1）教室の収容人数制限により受講者数が制限されることがあります。 2）企業経営者の講義であるから、入社面接の際の注意事項と同様な態度で受講すること。 3）本講義は原則的に本年度春1学期の「企業情報特論A」と併せて受講すること。 4）講義中の撮影、録音等を行うことは原則禁止する。
試験実施	実施しない

科目名	身近な化学Ⅱ (FB22T010)
英文科目名	Chemistry closely related to our daily lives II
担当教員名	坂根弦太 (さかねげんた)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 5時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	イントロダクション。講義の進め方を説明する。物質の状態は何によって決まるか、説明する。
2 回	身近な気体と溶液のおもしろい性質について説明する。
3 回	化学反応によって新たな物質が生まれることを説明する。
4 回	身の回りの酸と塩基について説明する。
5 回	酸化と還元のおもしろい性質について説明する。
6 回	物質が光を吸収したり放出したりする原理を説明する。
7 回	化学者は物質をどうやってつくるのか、説明する。
8 回	1回～7回までの総括を説明する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	物質の状態は何によって決まるのかについて復習を行うこと。第2回目授業までに教科書の「身近な現象から気体と溶液の性質を学ぶ」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
2 回	身近な現象から学ぶ気体と溶液の性質について復習を行うこと。第3回目授業までに教科書の「化学反応によって新たな物質が生まれる」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
3 回	化学反応によって新たな物質が生まれることについて復習を行うこと。第4回目授業までに教科書の「身の回りの酸と塩基を考える」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
4 回	身の回りの酸と塩基について復習を行うこと。第5回目授業までに教科書の「酸化と還元のおもしろい性質を考える」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
5 回	酸化と還元のおもしろい性質について復習を行うこと。第6回目授業までに教科書の「光は物質をどう変えるか」について予習を行うこと (標準学習時間90分)
6 回	光は物質をどう変えるかについて復習を行うこと。第7回目授業までに身近な物質はどんな物質でできているのか、調べておくこと (標準学習時間90分)
7 回	身近な物質はどんな物質でできているのかについて復習を行うこと。第8回目授業までに第1回目～第7回目授業の内容について復習を行うこと (標準学習時間120分)
8 回	ここまで授業内容についての復習を行うこと (標準学習時間120分)

講義目的	身近な物質で、焦げる物質と焦げない物質がある。水に浮く物質と沈む物質がある。温めて融けやすい物質と融けにくい物質がある。水に溶ける物質と溶けない物質がある。物質は他の物質と反応して別の物質になる。物質を構成する原子・分子はイオンになる。物質を特徴づける性質を知り、化学反応を学び、原子・分子・イオンが動いて変化する様子を想像・実感できるようにする。熱、光、電気などが関わる化学の世界を理解できるようにする。(理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与)
達成目標	(1)物質の三態(気体・液体・固体)について説明できる (2)化学反応について説明できる (3)酸と塩基、酸化と還元について説明できる (4)物質と電磁波の関係について説明できる
キーワード	気体、液体、固体、エネルギー、溶液、化学反応、酸、塩基、酸化、還元、電池、電気分解、電磁波
成績評価(合格基準60%)	課題提出20%、小テストの結果20%、最終評価試験60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	「身近な化学Ⅰ」を受講していることが望ましい。
教科書	「化学」入門編 身近な現象・物質から学ぶ化学のおもしろさ／日本化学会 化学教育協議会「グループ・化学の本21」編／化学同人／978-4759810912
参考書	指定しない
連絡先	A1号館3階 理学部化学科 無機元素化学(坂根)研究室 e-mail: gsakane@chem.ous.ac.jp http://www.chem.ous.ac.jp/~gsakane/
注意・備考	・この講義では講義資料を紙に印刷して講義時間内に配布する。 ・講義中の録音／録画は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。

	・講義中の撮影（静止画）は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。 ・課題提出については、講義中に模範解答を配布しフィードバックを行う。 ・小テストについては、小テスト回収後に模範解答を配布しフィードバックを行う。 ・以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 化学科，基礎理学科，生物化学科，臨床生命科学科，バイオ・応用化学科 ・「化学基礎論Ⅰ・Ⅱ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「化学基礎論Ⅰ・Ⅱ」の履修生および履修予定学生は「身近な化学Ⅰ・Ⅱ」の履修を避けること。
試験実施	実施する

科目名	現代人の科学 E (放射線の科学) (FB22T020)
英文科目名	Science Literacy E
担当教員名	花房直志＊ (はなふさただし＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 5時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンスを行い、放射線利用の歴史と現状について講義する。その後、討論する。
2 回	放射線、放射性同位元素の物理と化学の講義を行い、その後、討論する。
3 回	放射線、放射性同位元素の物理と化学について講義と演示実験を行い、その後、討論する。
4 回	放射線の測定、線量と単位についての講義を行い、その後、討論する。
5 回	放射線の測定、線量と単位について講義と演示実験を行い、その後討論する。
6 回	放射線の生物作用と健康影響についての講義を行い、その後、討論する。
7 回	放射線の生物作用と健康影響についての講義と演示実験を行い、その後、討論する。
8 回	放射線被曝、リスク管理、放射線防護について講義と演示実験を行い、その後、まとめの討論を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んでこのコースのテーマを確認し、授業目的、達成目標について把握しておくこと。放射線教育支援サイト「らでい」 (https://www.radi-edu.jp) を訪問し、資料集、用語集などに目を通しておくこと。(標準学習時間 180分)
2 回	文部科学省の「新しい放射線副読本、中学生・高校生のための放射線副読本」 第2章 (http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/attach/1344729.htm) に目を通して、放射線の種類と性質について調べておくこと。(標準学習時間180分)
3 回	配布資料及び放射線医学総合研究所の「医学教育における被ばく医療関係の教育・学習のための参考資料」 (http://www.nirs.go.jp/publication/igaku_siryo/igaku_siryo.pdf) に目を通して、放射線の種類と性質について概要を理解しておくこと。(標準学習時間180分)
4 回	配布資料及び環境省「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料(見出し項目 放射線測定と計算)」 (http://www.env.go.jp/chemi/rhm/kisoshiryo-01.html) に目を通して、概要を理解しておくこと。(標準学習時間180分)
5 回	配布資料及び「原子力百科事典ATOMICA」 (http://www.rist.or.jp/atomica/) を訪問して放射線測定で使用される用語について調べておくこと。(標準学習時間180分)
6 回	配布資料及び放射線医学総合研究所の「放射線被ばくの早見図」 (http://www.nirs.go.jp/data/pdf/hayamizu/j/20150401.pdf) に目を通して、放射線被曝について調べておくこと。(標準学習時間180分)
7 回	配布資料及び放射線医学総合研究所の「医学教育における被ばく医療関係の教育・学習のための参考資料」 (http://www.nirs.go.jp/publication/igaku_siryo/igaku_siryo.pdf) に目を通して放射線の健康影響について調べておくこと。(標準学習時間180分)
8 回	配布資料及び「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料(見出し項目 確定的影響、リスク、防護の原則)」 に目を通して、概要を理解しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	放射線の性質に関する基本を学ぶ。放射線の人体影響に関する基本を学ぶ。放射線防護の基本概念と安全管理との関係を理解する。
達成目標	放射線の種類、性質を概説でき、それらが放射線の生物作用と関係していることを理解する。使用される単位と放射線測定について概説できる。放射線の生物作用について概説できる。放射線の急性影響と晩発影響について概説できる。被曝の種類、放射線防護と安全管理について説明できる。
キーワード	放射線、放射能、放射性同位元素、放射線発生装置、半減期、ベクレル、線量、グレイ、シーベルト、放射線検出器、放射線損傷、突然変異、人体影響、急性影響、晩発影響、確率的影響、確定的影響、職業被曝、公衆被曝、放射線防護、リスク、線量限度、安全文化
成績評価(合格基準60)	講義ごとのレポートの結果とまとめのレポートの結果から評価する。
関連科目	
教科書	使用しない。

参考書	ブルーバックス B-568放射能を考える（危険とその克服）／森永晴彦／講談社 ブルーバックス B-1518 放射線利用の基礎知識（半導体、強化タイヤから品種改良、食品照射まで）／東嶋和子／講談社 ブルーバックス B-860 人は放射線になぜ弱いのか／近藤宗平／講談社 文春新書 177 放射能は怖いのか（放射線生物学の基礎）／佐藤満彦／文藝春秋 朽ちていった命（被曝治療83日間の記録）／NHK「東海村臨界事故」取材班／新潮文庫
連絡先	花房直志 tel: 086-235-7497, e-mail: hanafusa@okayama-u.ac.jp
注意・備考	・講義資料は初回講義時に配布します。 ・課題へのフィードバックは次回講義時に行います。 ・講義中の撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由ですが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む) は禁止します。
試験実施	実施しない

科目名	国際バカロレア概論【木5集中】（FB22T030）
英文科目名	Introduction to International Baccalaureate
担当教員名	眞砂和典（まさごかずのり）、永留聡*（ながとめさとし*）、高木志保（たかぎしほ）、ダッタシャミ*（だったしゃみ*）
対象学年	2年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 5時限
対象クラス	理学部、工学部、総合情報学部、生物地球学部、経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	国際バカロレア(IB)って何？ これからの講義の概要を説明する。 （眞砂 和典、高木 志保）
2回	担当 永留 聡 英数学館高等学校 校長 今回と第12回の授業の中でIBの理念に基づく10個の学習者像を学習し、理解することを目的とする。またカリキュラム構成上重要なTOK（知の理論）とは何か、TOKのダイアグラム、その中心には学習者があり、知るための8つの方法との関連性を知る事を目的とする。またCASのプログラムについての認識を深める事も同時に目的とする。全体を通して教育改革における IB の役割を考えながら進めていく。 （永留 聡*）
3回	1. IBの学習者像について学ぶ。10の学習者像と日本の学校の目標や校訓について比較しながら考える。 2. プレゼンテーションについて。 （眞砂 和典、高木 志保）
4回	1. DPの6つの教科群について考える。 2. 学習と発達について。発達段階に沿った学習のみが効率的なのか？ （眞砂 和典、高木 志保）
5回	評価（Assessed Curriculum）について考える。ルーブリック、ポートフォリオなど。 第7回以降のプレゼンテーションで使用するルーブリックを共働で作る。 （眞砂 和典、高木 志保）
6回	TOKについて体験的に学ぶ。 （眞砂 和典、高木 志保）
7回	7～10回は第一回目の集中授業 7月21日（土）＜代講予備日＞ 9：10～16：15 。部分的に他の授業の代講がある場合はその時間を抜けて構わない。全日が休校日の置き換えとなった場合は8月4日（土）に振り替える。内容としては、これまでに用意したプレゼンテーションをし、質疑応答、そして互いの評価をルーブリックによって行う。 （眞砂 和典、高木 志保）
8回	同上 （眞砂 和典、高木 志保）
9回	同上 （眞砂 和典、高木 志保）
10回	DPにおける「協働設計」について体験的に学ぶ。 グループ学習の利点と欠点について考える。 （眞砂 和典、高木 志保）
11回	発表予備時間 または「協働設計」の続き。 （眞砂 和典、高木 志保）
12回	担当 永留 聡 英数学館高等学校 校長 第2回からの発展。 （永留 聡*）
13回	13～16回は第二回目の集中授業 8月7日（火）他の授業の試験がある場合はその時間を抜け

	て構わない。 担当 シャミ ダッタ 東京学芸大学 准教授 「IBと教員養成の実践から」 (真砂 和典,高木 志保,ダッタ シャミ*)
1 4 回	同上 (真砂 和典,高木 志保,ダッタ シャミ*)
1 5 回	同上 (真砂 和典,高木 志保,ダッタ シャミ*)
1 6 回	同上 (真砂 和典,高木 志保,ダッタ シャミ*)

回数	準備学習
1 回	シラバスで講義の概要を事前に調べておくこと。参考書の欄に書いた記事を読んで理解しておく。 (学習時間の目安 60分)
2 回	英数学館について調べておく。また、文部科学省のHP 「国際バカロレアについて」 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/index.htm などから「IBの学習者像」について詳しい説明を読んで理解しておく。(100分)
3 回	あなた自身の中学や高校の目標や校訓を調べ、意味や内容を説明できるように300字くらいにまとめておく。(100分)
4 回	文部科学省のHP 「国際バカロレアについて」 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/index.htm から6群の教科概要について調べ、理解しておく。(60分)
5 回	プリント又はデジタルデータ。IBDPの評価方法について事前に資料を熟読してくること。(60分)
6 回	文部科学省のHP 「国際バカロレアについて」 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/index.htm などからTOKについて調べ、300字くらいにまとめておく。(100分)
7 回	この授業の前半を通して学んだことなど、教育改革や手法に関することを調べて発表する。資料調査、まとめ、プレゼンテーションの準備 (500分)
8 回	同上
9 回	同上
1 0 回	同上
1 1 回	体験に基づいてグループ学習について調べ、300字くらいにまとめてくること。(120分)
1 2 回	文部科学省のHP 「国際バカロレアについて」 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/index.htm などからCASについて調べ、300字くらいにまとめておく。(100分)
1 3 回	準備内容は追って連絡する。
1 4 回	同上
1 5 回	同上
1 6 回	同上

講義目的	国際バカロレア (IB) は多文化に対する理解と尊敬を通じて、平和でより良い世界の実現の為に貢献できる、探究心、知識、そして思いやりのある若者の育成を目指している。本授業ではIBの理念に基づく教育を理解することを目的とする。また、カリキュラム構成上重要なTOK (知の理論)、CASのプログラムについての認識を深める。全体を通して教育改革における IB の役割を考えながら進めていく。その中心には学習者がおり、「主体的・対話的で深い学び」のファシリテーターとして教員を考えるきっかけを作る。(教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与するとともにプログラム終了認定の方針のAにもっとも強く関与する。)
達成目標	・ IBの10の学習者像の概念を理解する事ができる。 ・ TOKについての基礎的な概念を説明できる。 ・ CASについての基礎的な概念を説明できる。 ・ DPの基礎的な科目設定・評価方法が説明できる。 ・ 良いプレゼンテーションとは何か。評価の観点からも理解している。 ・ 教育改革におけるIBの意味について説明できる。
キーワード	IB、IBDP、IB Educator Certificate、TOK、CAS、Knowledge Issue、Ways of knowing(知のための方法)、Areas of knowledge(知識の領域)、ルーブリック評価
成績評価 (合格基準60)	プレゼンテーション (30%)、宿題及びレポート (70%) の結果から評価する。多数の宿題・レポートの課題を出す。

	総計で60%以上を合格とする。
関連科目	この科目は IB Educator Certificate を取得するための入門科目である。ただし、これ以外の科目は 2018年度 IB 教育課程論 1単位、IB教育方法論 1単位 2019年度 IB 教育評価論 2単位、DP数学 2単位、DP化学 2単位 2020年度 DP教育実践研究Ⅰ 2単位、DP教育実践研究Ⅱ 2単位 と順次開講されていく予定である。 たとえこれらの授業を取らなくても、本授業でIBの教育に対する知見を得ておくことは未来の教育を考える上で大きな役割を果たすであろう。
教科書	使用しない。
参考書	IBについてコンパクト（4ページ）にまとめた記事は http://souken.shinagakunet.com/college_m/2017_RCM202_32.pdf がある ので授業を取るかどうかの参考にしてもらおうとよい。その他は授業で紹介していく。
連絡先	masago（アットマーク）ped.ous.ac.jp グローバル教育センター（C1号館4階） 眞砂 和典（研究室 C7号館2階）
注意・備考	この授業は多くの場合、学生中心のアクティブラーニングによって学びを深めるので、主体的・積極的に授業に取り組むことが求められる。
試験実施	実施しない

科目名	インターンシップ概論 (FB22T040)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	齊藤尚志* (さいとうたかし*)
対象学年	2 年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 5時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。
2 回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する。
3 回	自己PRの基礎について説明する。
4 回	自己PRの基礎について説明する。
5 回	企業研究について説明する。
6 回	面接実践演習を通して、具体的な面接の仕方を説明する。
7 回	インターンシップに行くための心構えについて説明する。
8 回	インターンシップに行くために自己PR、企業研究についてのまとめをする。

回数	準備学習
1 回	岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み、インターンシップの意義などを確認しておくこと。(標準学習時間:60分)
2 回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	ME 1 などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	ME 1 などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	自己PRのレポートを完成させて、提出するために推敲しておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	インターンシップのマッチングに向けて、自己PRの確認、面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	インターンシップとは、企業・団体などにおいて、学生が将来の職業、キャリア選択を意識した就業体験をすることによって、社会や企業の実情を知り、学生が自らの職業適性や将来設計を考えると同時に、大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です。本講義では、インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と、インターンシップ後の報告などの事後指導を通して、インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする。 (教育支援機構 教養教育センターの学位授与方針項目Cに強く関与する)
達成目標	・インターンシップ参加の心構えを身に着けること(学位授与方針項目C) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること(学位授与方針項目C) ・インターンシップ終了後、自らの経験をまとめると同時に、プレゼンテーションができること(学位授与方針項目C) ・社会に貢献できる人材となること(見学の理念)(学位授与方針項目E)
キーワード	インターンシップ、企業研究、面接対策、企業研修
成績評価(合格基準60)	毎回の提出物20%, レポート80%により評価する。
関連科目	インターンシップA・B・C、文章表現法Ⅰ、文章表現法Ⅱ、プレゼンテーションⅠ、プレゼンテーションⅡ、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論、社会・産業実習
教科書	教科書は1冊使います。 「第1版 学生のためのキャリアワークブック ～キャリア・コミュニケーション・就職活動の知識と実践～」／株式会社理想経営／株式会社理想経営
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンME。必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする。
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
注意・備考	履修登録:「インターンシップA・B・C、社会・産業実習」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと。 賠償保険:インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」(1年間210円)へ必ず加入すること。
試験実施	実施しない

科目名	インターンシップ概論 (FB22T050)
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	松田周司* (まつだしゅうじ*)
対象学年	2年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 5時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。
2回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する。
3回	自己PRの基礎について説明する。
4回	自己PRの基礎について説明する。
5回	企業研究について説明する。
6回	面接実践演習を通して、具体的な面接の仕方を説明する。
7回	インターンシップに行くための心構えについて説明する。
8回	インターンシップに行くために自己PR、企業研究についてのまとめをする。

回数	準備学習
1回	岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み、インターンシップの意義などを確認しておくこと。(標準学習時間:60分)
2回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)
5回	自己PRのレポートを完成させて、提出するために推敲しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	インターンシップのマッチングに向けて、自己PRの確認、面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと。(標準学習時間60分)
7回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること。(標準学習時間60分)

講義目的	インターンシップとは、企業・団体などにおいて、学生が将来の職業、キャリア選択を意識した就業体験をすることによって、社会や企業の実情を知り、学生が自らの職業適性や将来設計を考えると同時に、大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です。本講義では、インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と、インターンシップ後の報告などの事後指導を通して、インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする。 (教育支援機構 教養教育センターの学位授与方針項目Cに強く関与する)
達成目標	・インターンシップ参加の心構えを身に着けること(学位授与方針項目C) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること(学位授与方針項目C) ・インターンシップ終了後、自らの経験をまとめるとともに、プレゼンテーションができること(学位授与方針項目C) ・社会に貢献できる人材となること(見学の理念)(学位授与方針項目E)
キーワード	インターンシップ、企業研究、面接対策、企業研修
成績評価(合格基準60)	毎回の提出物20%, レポート80%により評価する。
関連科目	インターンシップA・B・C、文章表現法Ⅰ、文章表現法Ⅱ、プレゼンテーションⅠ、プレゼンテーションⅡ、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論、社会・産業実習
教科書	教科書は使用しない。
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンME。必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする。
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
注意・備考	履修登録:「インターンシップA・B・C、社会・産業実習」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと。 賠償保険:インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」(1年間210円)へ必ず加入すること。
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法基礎編B (FB22U010)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	生田夏樹＊ (いくたなつき＊)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	金曜日 1時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	与えられたテーマB(「私の職業観」)の文章を作成する(1) 第9課題: アウトラインを作成する。
2回	与えられたテーマB(「私の職業観」)の文章を作成する(1) 第10課題: 本文を作成する。
3回	与えられたテーマC(「創造性について」)の文章を作成する(1) 第11課題: アウトライン1回目を作成する。
4回	与えられたテーマCの文章を作成する(1) 第12課題: アウトライン2回目を作成する。
5回	与えられたテーマCの文章を作成する(2) 第13課題: 本文を作成する。
6回	与えられたテーマD(「情報について」)の文章を作成する(1) 第14課題: アウトライン1回目を作成する。
7回	与えられたテーマDの文章を作成する(2) 第15課題: アウトライン2回目を作成する。
8回	与えられたテーマDの文章を作成する(3) 第16課題: 本文を作成する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 これまでに、部活やアルバイトの経験があるなら、そこからどのようなことを学んだかを考えること。そのような経験がない場合も、将来、社会人となった場合に、どのような心構えを持って生きて行くかについて考えておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
3回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 「創造性」が発揮される場としてどのようなものがあるか、例を考えておくこと。 必要なら、インターネットで検索して事例を探してみる。こと。(標準学習時間120分)
4回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
5回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
6回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 「情報について」という題で小論文を書く場合、序論に入れる問題提起のフレーズとしてどのようなものが考えられるか、ノートに列挙してみる。こと。(標準学習時間120分)
7回	前回提出した課題につけられたコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべきところがある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
8回	前回提出した課題につけられたコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべきところがある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)

講義目的	小論文、レポート等の作成において必要とされる、論理的で明晰な文章の書き方の基礎を受講者が身につけることである。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	① 文章を要約するために必要な発想ならびに技法を習得すること。 ② 文章を作成するための「アウトライン」の重要性を理解すること。 ③ 与えられた課題について、アウトラインに基づいて800字の作文を独力で完成させることができること。
キーワード	文章表現、作文、アウトライン、要約
成績評価(合格基準60)	課題提出7回分(56%), 最終評価試験(44%), 60%以上を合格とする。
関連科目	「文章表現法基礎編A」「文章表現法応用編A・B」「プレゼンテーション基礎編A・Bおよび応用編A・B」

教科書	なし。
参考書	プリント（資料）を配布する。
連絡先	
注意・備考	課題点も成績評価に含まれるので、毎回の課題を必ず提出すること。 受講者数の上限を50名とする。
試験実施	実施する

科目名	心理学 B (FB22U020)
英文科目名	Psychology B
担当教員名	松浦美晴＊ (まつうらみはる＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	金曜日 1時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業の概要と、「情動と動機づけ」について説明する。
2 回	「対人認知・対人魅力と態度変容」について説明する。
3 回	「援助行動・攻撃行動」について説明する。
4 回	「集団と個人」について説明する。
5 回	「リーダーシップと集団間葛藤」について説明する。
6 回	「人間のコミュニケーション行動」について説明する。
7 回	「情報と人間行動」について説明する。
8 回	「情報化社会での人間行動の変化」について説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んで、学習の過程を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	教科書第7章のp.69～76に目を通し、「演習」p.81「課題1」を行ってくること。(標準学習時間120分)
3 回	教科書第7章のp.77～80に目を通し、「演習」p.83「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)
4 回	教科書第8章のp.85～89に目を通し、「演習」p.95「課題2」を行ってくること。(標準学習時間120分)
5 回	教科書第8章のp.89～92に目を通し、「演習」p.96「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)
6 回	教科書第9章に目を通し、「演習」p.107「課題2」を行ってくること。(標準学習時間120分)
7 回	教科書第10章に目を通して行くこと。(標準学習時間60分)
8 回	これまでの内容を見直して、整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	人間の心と行動の仕組みを研究する学問である心理学について概説し、体系的な理論を学ばせる。心理学の基本的な知識についての理解を深めさせ、よりよい人間性の育成を目指す。(教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する)
達成目標	心理学における人間の心と行動のとらえかたを理解し、トピックと理論について知り、それらを説明できるようになる。
キーワード	こころの理解、認知、感情、集団、社会行動
成績評価 (合格基準60)	最終評価試験 (100%)
関連科目	心理学 A
教科書	生活にいかす心理学ver.2／古城和子 (編著)／ナカニシヤ出版／4888487057
参考書	授業中に適宜指示する。
連絡先	山陽学園大学 TEL：086-272-6254 (代表)
注意・備考	日常の経験を振り返り、その裏付けとして授業の内容を捉え、人間についての理解を深めることを望む。
試験実施	実施する

科目名	技術者の社会人基礎B (FB22V010)
英文科目名	Social communication for engineers B
担当教員名	田邊麻里子＊ (たなべまりこ＊)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	金曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学プロジェクトコース,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	＊ガイダンス：講義内容、進め方、注意点、期待値、評価方法の説明をする。 ＊文章力や読解力に関して自己レベルの確認をし、今後の予習復習計画の立案を行う。
2回	＊社外から/社内他部署から/上司から/家人から/間違い電話など様々なテーマに応じた電話応対をロールプレイを通じて学ぶ。
3回	＊ケーススタディ①に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
4回	＊ケーススタディ②に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
5回	＊ケーススタディ③取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の仕方を学ぶ。
6回	＊優れた経営者/実業家のエピソードを通して、仕事の仕方やマネジメント・リーダーシップ論を学ぶ。
7回	＊組織における行動のあり方を説明し、企業の組織を理解したうえで、どんな働き方をしたいのか/どんな会社が自分にとって良い組織なのかを検討する。
8回	総括

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義の目的を理解しておくこと。 自己の文章力や読解力の不足部分を学習し、次回の講義に備えること。 (標準学習時間 120分)
2回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
3回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
5回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)
7回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)
8回	これまでの講義で学んだことを振り返り、できなかった点を復習しておくこと。 (標準学習時間 120分)

講義目的	本授業では、技術者としての知識と専門性を遺憾なく発揮するために、必要なスキルや知識を習得することを目的とする。 実際の現場での電話のやり取りや報告連絡の方法を実践的に学ぶことで、状況に応じた態度と言葉の使い方に慣れるとともに、ノンバーバル（非言語）のコミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築方法を理解する。また、会社の仕組みや社会で働くことの意味を理解することで、技術者としての責任と義務を自覚できるように講義をすすめる。なお、本講義では、学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。（教養教育センター単位認定方針のEに強く関与する）
達成目標	①コミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築ができる。 ②会社の形態や働く意義について理解できる。 ③ビジネススキル3級程度の経済知識と判断力を習得できる。
キーワード	
成績評価（合格基準60	提出課題50%・講義ごとの小テストの結果50%により成績を評価し、総計で60%を合格とする。
関連科目	技術者の社会人基礎A、企業と人間A・B、社会と人間A・B
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じて、指示する。
連絡先	
注意・備考	＊参加型・実践型の講義のため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。 ＊「技術者の社会人基礎A」を受講していることが望ましい。

試験実施	実施しない
------	-------

科目名	文章表現法基礎編B (FB22V020)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	生田夏樹＊ (いくたなつき＊)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	金曜日 2時限
対象クラス	理学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	与えられたテーマB(「私の職業観」)の文章を作成する(1) 第9課題: アウトラインを作成する。
2回	与えられたテーマB(「私の職業観」)の文章を作成する(1) 第10課題: 本文を作成する。
3回	与えられたテーマC(「創造性について」)の文章を作成する(1) 第11課題: アウトライン1回目を作成する。
4回	与えられたテーマCの文章を作成する(1) 第12課題: アウトライン2回目を作成する。
5回	与えられたテーマCの文章を作成する(2) 第13課題: 本文を作成する。
6回	与えられたテーマD(「情報について」)の文章を作成する(1) 第14課題: アウトライン1回目を作成する。
7回	与えられたテーマDの文章を作成する(2) 第15課題: アウトライン2回目を作成する。
8回	与えられたテーマDの文章を作成する(3) 第16課題: 本文を作成する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 これまでに、部活やアルバイトの経験があるなら、そこからどのようなことを学んだかを考えること。そのような経験がない場合も、将来、社会人となった場合に、どのような心構えを持って生きて行くかについて考えておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
3回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 「創造性」が発揮される場としてどのようなものがあるか、例を考えておくこと。 必要なら、インターネットで検索して事例を探してみる。こと。(標準学習時間120分)
4回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
5回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
6回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 「情報について」という題で小論文を書く場合、序論に入れる問題提起のフレーズとしてどのようなものが考えられるか、ノートに列挙してみる。こと。(標準学習時間120分)
7回	前回提出した課題につけられたコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべきところがある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
8回	前回提出した課題につけられたコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべきところがある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)

講義目的	小論文、レポート等の作成において必要とされる、論理的で明晰な文章の書き方の基礎を受講者が身につけることである。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	① 文章を要約するために必要な発想ならびに技法を習得すること。 ② 文章を作成するための「アウトライン」の重要性を理解すること。 ③ 与えられた課題について、アウトラインに基づいて800字の作文を独力で完成させることができること。
キーワード	文章表現、作文、アウトライン、要約
成績評価(合格基準60)	課題提出7回分(56%), 最終評価試験(44%), 60%以上を合格とする。
関連科目	「文章表現法基礎編A」「文章表現法応用編A・B」「プレゼンテーション基礎編A・Bおよび応用編A・B」

教科書	なし。
参考書	プリント（資料）を配布する。
連絡先	
注意・備考	課題点も成績評価に含まれるので、毎回の課題を必ず提出すること。 受講者数の上限を50名とする。
試験実施	実施する

科目名	経済学B (FB22V030)
英文科目名	Economics B
担当教員名	山下賢二＊ (やましたけんじ＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	金曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。 特に企業行動の原則と生産関数について講義する。
2 回	ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。 特に生産関数と等量曲線の関係について講義する。
3 回	ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。 特に生産関数と費用関数の関係について講義する。
4 回	ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。 特に S 字型短期費用関数を用いた損益分岐点、操業停止点の導出について講義する。
5 回	ミクロ経済理論のうち市場の理論について講義する。 特に完全競争市場、厚生分析について講義する。
6 回	ミクロ経済理論のうち市場の理論について講義する。 特に独占市場について講義する。
7 回	マクロ経済理論の基礎を講義する。 特に短期と長期の違いを強調する。
8 回	7 回分の講義のまとめを行う。 最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	新聞などから経済ニュースを読んでおくこと (標準学習時間60分)
2 回	1. 微分の復習をしておくこと 2. 第1回目の講義で指示したホームページから資料をダウンロードしておくこと (標準学習時間60分)
3 回	前回の講義の復習をしておくこと (標準学習時間60分)
4 回	前回の講義の復習をしておくこと (標準学習時間60分)
5 回	前回の講義の復習をしておくこと (標準学習時間60分)
6 回	前回の講義の復習をしておくこと (標準学習時間60分)
7 回	前回の講義の復習をしておくこと (標準学習時間60分)
8 回	全体の復習をしておくこと (標準学習時間120分)

講義目的	経済現象は日々変化しており、その把握は経済理論の助けなしでは困難なものがある。本講義では、経済現象に対する科学的・論理的な冷静なる視点を養うことを目的として、若干の数学を用いながら、経済理論の最も基本的な部分を講義する。経済学Bでは、ミクロ経済学のうち企業理論と市場理論を講義し、マクロ経済学の基本的な部分を講義する。
------	---

	(教養教育センター 単位認定の方針Cにもっとも強く関与。)
達成目標	基本的な経済理論を理解できるようになること、様々な経済問題を科学的・論理的に把握できるようになること
キーワード	ミクロ経済学・マクロ経済学・企業・政府・消費・投資・市場・国民所得・経済政策
成績評価（合格基準60	最終評価試験(100%)
関連科目	
教科書	① 1からの経済学／中谷武・中村保編著／碩学舎/中央経済社／9784502680809 ② プリント(ホームページからダウンロード。URLは第1回目の講義で指示する。)
参考書	適宜指示する。
連絡先	岡山商科大学経済学部 山下賢二研究室 kenyamashita@po.osu.ac.jp
注意・備考	講義では、微分（偏微分・全微分含む）を多用する。高校で微分を既に学んでいることが望ましい。そうでない場合は各自で初等的な「微分積分」の科目を受講するなりすることを勧める。 試験形態は筆記試験とする。
試験実施	実施する

科目名	環境と社会B (FB22V040)
英文科目名	Environment and Society B
担当教員名	剣持堅志＊ (けんもつかたし＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	金曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	水の循環と海洋の働き、水質汚濁の指標、水環境汚染が生じる原因、その歴史、対策について講義する。 水環境汚染を防止するための法制度、水質浄化施設の機能と役割、安全で安心な水道水を供給するための仕組みについて講義する。
2 回	大気環境汚染が生じる原因、その歴史と対策、大気環境汚染の指標と汚染を防止するための法制度（環境基準等）について講義する。大気汚染防止のための技術開発、諸外国における大気汚染の現状と越境汚染問題について講義する。
3 回	化学物質汚染とそのリスクと対策、海洋汚染、生物汚染、人体汚染、食品汚染等の現状について講義する。また、非意図的な有害物質の生成、遠隔地への輸送等についても講義する。
4 回	循環型社会実現の必要性と課題について講義する。 廃棄物問題の歴史、廃棄物処理の現状と課題、3R（リデュース（Reduce）、リユース（Reuse）、リサイクル（Recycle））の現状とその課題について講義する。
5 回	環境モニタリング技術について講義する。環境中に微量に存在する有害化学物質の高感度分析技術、大気、水質、放射線などの監視測定技術、微生物汚染の検査技術の進歩について講義する。
6 回	自動車の排ガス規制がもたらした技術の進歩と企業の努力について講義する。自動車の出現が社会・経済に与えたインパクト、自動車排ガス問題に対する規制の歴史について講義する。自動車排ガスクリーン化や、燃費の向上のための技術開発、電気自動車への急激な移行や自動運転車の開発などの影響についても講義する。
7 回	技術の進歩がもたらす環境や社会経済へのインパクトについて講義する。シェール革命が与えたエネルギー供給へのインパクト、太陽光発電や電気自動車の開発に見られる急速な技術開発、自動運転、人工知能（AI）などの進歩がもたらす社会への衝撃について講義する。
8 回	かけがえのない地球を次世代に残すため、「持続可能な社会実現」に向けた国際機関、国、自治体の活動と市民が果たすべき役割について講義する。 環境マネジメントシステムの導入、ライフスタイルの変革、地域協働の大切さについて延べ、講義を締めくくる。 最終評価試験を実施

回数	準備学習
1 回	生活を支える水環境の保全について、参考書①3-6章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。機会があれば、浄水場、下水処理場、児島湖、ダム湖等を見学しておくこと。
2 回	生活を支える水環境の保全について、参考書3-6章や参考書やインターネットなどで大気汚染情報など関連するニュースを参照して勉強しておくこと。 （標準学習時間60分）
3 回	化学物質汚染について、参考書3-7章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 （標準学習時間60分）
4 回	循環型社会について、参考書3-5章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 （標準学習時間60分）
5 回	インターネットなどで、どのような技術が環境監視や環境・食品汚染等の測定に使用されているか事前に情報収集して文章にまとめておくこと。 （標準学習時間60分）
6 回	インターネットなどで、自動車排ガス規制の規制の歴史と自動車メーカーの対応状況について事前に情報収集して文章にまとめておくこと。 （標準学習時間60分）
7 回	インターネットなどで、自動運転技術の現状と将来、その影響について情報収集して文章にまとめておくこと。 （標準学習時間60分）
8 回	各主体の役割と取り組みについて、参考書5章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。

	また、評価試験の準備を行うこと。（標準学習時間120分） 評価試験の範囲は1～8回
講義目的	地球誕生以来培われてきた自然に対して人類が如何に影響を与えてきたかを学び、自然の大切さを知り、これを保全していく努力が必要なことを講義する。 過去に発生した公害・環境問題を如何に人々が如何に克服してきたかを知り、喫緊の課題となっている地球温暖化問題についてその重要性を認識し、ライフスタイルを変革していく必要があることを講義する。 更に今後の企業社会を支えていく学生に、課題を解決するための技術開発が課題解決の原動力になってきたこと、逆にこうした技術開発が社会経済や私たちの生活に大きな影響を与える可能性があること、 また、課題を解決するためには、時には社会構造を変革する必要もあることを講義する。 （教養教育センター 単位認定の方針Cにもっとも強く関与。）
達成目標	①地球の歴史と自然の大切さを学ぶ。 ②過去の公害・環境問題について学び、環境問題の重要性について認識する。 ③様々な課題解決の努力が技術の進歩につながることを学ぶ。 ④環境問題を解決するためにはエネルギーの適切な使用が大切なことを学ぶ。 ⑤学生、社会人として必要となる環境保全の基礎知識を習得する。 ⑥環境問題は社会の仕組みや経済と密接に関連していることを学ぶ。
キーワード	公害、環境問題、人口問題、貧困・格差の拡大、グローバル主義と反グローバル主義、地球環境問題、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、代替エネルギー、再生可能エネルギー、原子力発電、原子力事故、水質汚染、大気汚染、化学物質汚染、食品汚染、循環型社会、リサイクル、環境モニタリング、電気自動車、自動運転、人口知能（AI）の進化、環境マネジメントシステム、ライフスタイルの変革
成績評価（合格基準60	中間評価試験（50%）及び最終評価試験（50%）で成績を評価し、 総計60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	
参考書	①改定6版 eco検定(環境社会検定試験)®」公式松井孝典テキスト／東京商工会議所／日本能率協会マネジメントセンター／ISBN：978-4-8207-5952-2 C 3051 ②不都合な真実（アルゴア著、ランダムハウス講談社） ISBN 978-427000181 3) ③地球システムの崩壊（松井 孝典、新潮選書） ④生命の多様性（エドワード・O. ウィルソン、岩波現代文庫）
連絡先	（個人メール） katashi_kenmotsu@festa.ocn.ne.jp
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	技術者の社会人基礎B (FB22W010)
英文科目名	Social communication for engineers B
担当教員名	田邊麻里子＊ (たなべまりこ＊)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	理学部, 電気電子システム学科, 工学プロジェクトコース, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	＊ガイダンス：講義内容、進め方、注意点、期待値、評価方法の説明をする。 ＊文章力や読解力に関して自己レベルの確認をし、今後の予習復習計画の立案を行う。
2回	＊社外から/社内他部署から/上司から/家人から/間違い電話など様々なテーマに応じた電話応対をロールプレイを通じて学ぶ。
3回	＊ケーススタディ①に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
4回	＊ケーススタディ②に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
5回	＊ケーススタディ③に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の仕方を学ぶ。
6回	＊優れた経営者/実業家のエピソードを通して、仕事の仕方やマネジメント・リーダーシップ論を学ぶ。
7回	＊組織における行動のあり方を説明し、企業の組織を理解したうえで、どんな働き方をしたいのか/どんな会社が自分にとって良い組織なのかを検討する。
8回	総括

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義の目的を理解しておくこと。 自己の文章力や読解力の不足部分を学習し、次回の講義に備えること。 (標準学習時間 120分)
2回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
3回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
5回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)
7回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)
8回	これまでの講義で学んだことを振り返り、できなかった点を復習しておくこと。 (標準学習時間 120分)

講義目的	本授業では、技術者としての知識と専門性を遺憾なく発揮するために、必要なスキルや知識を習得することを目的とする。 実際の現場での電話のやり取りや報告連絡の方法を実践的に学ぶことで、状況に応じた態度と言葉の使い方に慣れるとともに、ノンバーバル（非言語）のコミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築方法を理解する。また、会社の仕組みや社会で働くことの意味を理解することで、技術者としての責任と義務を自覚できるように講義をすすめる。なお、本講義では、学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。（教養教育センター単位認定方針のEに強く関与する）
達成目標	①コミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築ができる。 ②会社の形態や働く意義について理解できる。 ③ビジネススキル3級程度の経済知識と判断力を習得できる。
キーワード	
成績評価（合格基準60	提出課題50%・講義ごとの小テストの結果50%により成績を評価し、総計で60%を合格とする。
関連科目	技術者の社会人基礎A、企業と人間A・B、社会と人間A・B
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じて、指示する。
連絡先	
注意・備考	＊参加型・実践型の講義のため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

	＊「技術者の社会人基礎A」を受講していることが望ましい。
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法基礎編 B (FB22W020)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	杉林周陽＊（すぎばやしのりあき＊）
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
2 回	経験や知識の文章化に取り組む。
3 回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
4 回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
5 回	対立する意見を使って文章を構成する。
6 回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
7 回	800字の構成について解説する。最終評価試験について説明する。
8 回	文章表現のポイントを整理する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読み、文章の構成について確認しておくこと。 復習：受講上の注意と文章構成のパターンについて確認すること。 （標準学習時間45分）
2 回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 （標準学習時間45分）
3 回	予習：文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 （標準学習時間45分）
4 回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 （標準学習時間60分）
5 回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 （標準学習時間60分）
6 回	予習：800字の参考文を読んでくこと。 復習：構成のポイントを整理すること。 （標準学習時間45分）
7 回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 （標準学習時間60分）
8 回	予習：ここまでの講義内容を確認し、最終評価試験の準備をすること。 復習：最終評価試験について自己点検すること。 （標準学習時間120分）

講義目的	一般社会で通用する文章を書くために、基本的な取り組みの姿勢とスキルを身につける。
達成目標	文章表現の目的を理解し、800字程度の文章をわかりやすく書くことができる。
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
成績評価（合格基準60	演習（40％）、最終評価試験（60％）。原則として、演習をすべて行うことが最終評価試験の受験資格となる。
関連科目	文章表現法基礎編 A・B、文章表現法応用編 A・B、プレゼンテーション基礎編 A・B、プレゼンテーション応用編 A・B
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽／新・文章表現法 I 基礎編（群青色版）／蜻文庫
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
注意・備考	1. 受講者数の上限を 50 名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信

	機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時 のみ配布する。 9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。 11.講義中の録音・撮影は、プ ライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編 B (FB22X010)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	杉林周陽＊（すぎばやしのりあき＊）
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
2 回	経験や知識の文章化に取り組む。
3 回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
4 回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
5 回	対立する意見を使って文章を構成する。
6 回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
7 回	800字の構成について解説する。最終評価試験について説明する。
8 回	文章表現のポイントを整理する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスを読み、文章の構成について確認しておくこと。 復習：受講上の注意と文章構成のパターンについて確認すること。 （標準学習時間45分）
2 回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 （標準学習時間45分）
3 回	予習：文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 （標準学習時間45分）
4 回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。 （標準学習時間60分）
5 回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 （標準学習時間60分）
6 回	予習：800字の参考文を読んでくこと。 復習：構成のポイントを整理すること。 （標準学習時間45分）
7 回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 （標準学習時間60分）
8 回	予習：ここまでの講義内容を確認し、最終評価試験の準備をすること。 復習：最終評価試験について自己点検すること。 （標準学習時間120分）

講義目的	一般社会で通用する文章を書くために、基本的な取り組みの姿勢とスキルを身につける。
達成目標	文章表現の目的を理解し、800字程度の文章をわかりやすく書くことができる。
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
成績評価（合格基準60	演習（40％）、最終評価試験（60％）。原則として、演習をすべて行うことが最終評価試験の受験資格となる。
関連科目	文章表現法基礎編 A・B、文章表現法応用編 A・B、プレゼンテーション基礎編 A・B、プレゼンテーション応用編 A・B
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽／新・文章表現法 I 基礎編（群青色版）／蜻文庫
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
注意・備考	1. 受講者数の上限を 50 名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信

	機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時 のみ配布する。 9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。 11.講義中の録音・撮影は、プ ライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	論理学B (FB22X020)
英文科目名	Logic B
担当教員名	中島聡 (なかしまさとし)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	西洋の近現代の論理学について概説する。 帰納論理学(1) 帰納法の性質・種類、ミルの五つの実験的探求の方法について説明する。
2 回	帰納論理学(2) パースのアブダクション(仮説形成推理)の論理形式・性質・特徴を説明する。
3 回	命題論理学(1) 命題論理学の基本と論理式作成の手順を説明する。
4 回	命題論理学(2) 真理値分析、つまり命題論理式の真偽計算の方法を三つ説明する。
5 回	命題論理学(3) 三つの命題形式の性質・特徴と真偽計算の方法(恒真性テスト・恒偽性テスト)を説明する。
6 回	述語論理学(1) 述語論理学の基本的立場と量化式の作成の方法を説明する。
7 回	述語論理学(2) 解釈の意味と妥当式の真偽判定の方法(妥当性テスト・矛盾性テスト)を説明する。
8 回	帰納論理学・命題論理学・述語論理学の基礎的な事項についての学習内容を復習する。 また最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	教科書第二部「帰納法」を読み、帰納法の性質・種類、ミルの実験的探求の方法について予習を行うこと。(標準学習時間120分)。
2 回	教科書第二部「仮説形成推理と探求の論理」を読み、パースのアブダクションの性質について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
3 回	教科書第二部「命題論理学の基本的事項」を踏まえ、論理式の作成手順について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4 回	教科書第二部「命題計算」を読み、命題論理式の真偽計算の方法について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
5 回	教科書第二部「恒真式・恒偽式」を読み、三種類の命題形式の性質と真偽計算の方法について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
6 回	教科書第二部「述語と量化」を読み、述語論理学の基本的立場と量化式の作成の方法について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7 回	教科書第二部「妥当式 矛盾式」を読み、解釈の意味と妥当式の真偽判定の方法について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
8 回	ここまでの授業内容について復習を行うこと。(標準学習時間180分)

講義目的	西洋の近現代の代表的な三つの論理学を取り扱い、各論理学の核心的な事項を学習する。論理学は「人の正しい思考の規則・法則を明らかにする」基本的・形式的な学問である。主に各々の論理学の推論の技法を、事例をもとに習得するとともに、言語の記号処理の手法を学習する。これは、社会生活上での問題解決能力や言語表現力・プレゼンテーション等のコミュニケーション能力の向上にもつなげる。このように論理学Bは論理的推論の技法の学習と社会的場面での応用・展開を目的とする。(教養教育センター単位認定のBにもっとも強く関与する)
達成目標	①各論理学の基礎的な事項について正確な理解ができる。 ②さまざまな推論の問題演習を通して、その技法を習得することができる。 ③言語の記号処理と真偽の判定ができる。 ④社会生活上での問題解決能力や幅広い場でのコミュニケーション能力が展開できる。
キーワード	論理的推論の形態と技法 自然言語の記号処理 論理式の真偽計算 述語と量化
成績評価 (合格基準60)	最終評価試験により成績を評価する。 最終評価試験において基準点を設け、得点が100点満点中、60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	「論理学A」を受講しているが望ましい。

教科書	論理学研究／中島 聡／ふくろう出版／978-4-861865466
参考書	教科書巻末に掲載した参考文献を参照してください。
連絡先	
注意・備考	論理学はその内容が文系理系の両分野にわたる学問である。学習成果を確実に積み上げていくには復習が必須である。毎週講義の後は必ず復習をして、不明な箇所を確認しておいてください。一層理解できるようになります。
試験実施	実施する

科目名	環境と社会B (FB22X030)
英文科目名	Environment and Society B
担当教員名	剣持堅志＊ (けんもつかたし＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	水の循環と海洋の働き、水質汚濁の指標、水環境汚染が生じる原因、その歴史、対策について講義する。 水環境汚染を防止するための法制度、水質浄化施設の機能と役割、安全で安心な水道水を供給するための仕組みについて講義する。
2 回	大気環境汚染が生じる原因、その歴史と対策、大気環境汚染の指標と汚染を防止するための法制度（環境基準等）について講義する。大気汚染防止のための技術開発、諸外国における大気汚染の現状と越境汚染問題について講義する。
3 回	化学物質汚染とそのリスクと対策、海洋汚染、生物汚染、人体汚染、食品汚染等の現状について講義する。また、非意図的な有害物質の生成、遠隔地への輸送等についても講義する。
4 回	循環型社会実現の必要性と課題について講義する。 廃棄物問題の歴史、廃棄物処理の現状と課題、3R（リデュース（Reduce）、リユース（Reuse）、リサイクル（Recycle））の現状とその課題について講義する。
5 回	環境モニタリング技術について講義する。環境中に微量に存在する有害化学物質の高感度分析技術、大気、水質、放射線などの監視測定技術、微生物汚染の検査技術の進歩について講義する。
6 回	自動車の排ガス規制がもたらした技術の進歩と企業の努力について講義する。自動車の出現が社会・経済に与えたインパクト、自動車排ガス問題に対する規制の歴史について講義する。自動車排ガスクリーン化や、燃費の向上のための技術開発、電気自動車への急激な移行や自動運転車の開発などの影響についても講義する。
7 回	技術の進歩がもたらす環境や社会経済へのインパクトについて講義する。シェール革命が与えたエネルギー供給へのインパクト、太陽光発電や電気自動車の開発に見られる急速な技術開発、自動運転、人工知能（AI）などの進歩がもたらす社会への衝撃について講義する。
8 回	かけがえのない地球を次世代に残すため、「持続可能な社会実現」に向けた国際機関、国、自治体の活動と市民が果たすべき役割について講義する。 環境マネジメントシステムの導入、ライフスタイルの変革、地域協働の大切さについて延べ、講義を締めくくる。 最終評価試験を実施

回数	準備学習
1 回	生活を支える水環境の保全について、参考書①3-6章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。機会があれば、浄水場、下水処理場、児島湖、ダム湖等を見学しておくこと。
2 回	生活を支える水環境の保全について、参考書3-6章や参考書やインターネットなどで大気汚染情報など関連するニュースを参照して勉強しておくこと。 （標準学習時間60分）
3 回	化学物質汚染について、参考書3-7章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 （標準学習時間60分）
4 回	循環型社会について、参考書3-5章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 （標準学習時間60分）
5 回	インターネットなどで、どのような技術が環境監視や環境・食品汚染等の測定に使用されているか事前に情報収集して文章にまとめておくこと。 （標準学習時間60分）
6 回	インターネットなどで、自動車排ガス規制の規制の歴史と自動車メーカーの対応状況について事前に情報収集して文章にまとめておくこと。 （標準学習時間60分）
7 回	インターネットなどで、自動運転技術の現状と将来、その影響について情報収集して文章にまとめておくこと。 （標準学習時間60分）
8 回	各主体の役割と取り組みについて、参考書5章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。

	また、評価試験の準備を行うこと。（標準学習時間120分） 評価試験の範囲は1～8回
講義目的	地球誕生以来培われてきた自然に対して人類が如何に影響を与えてきたかを学び、自然の大切さを知り、これを保全していく努力が必要なことを講義する。 過去に発生した公害・環境問題を如何に人々が如何に克服してきたかを知り、喫緊の課題となっている地球温暖化問題についてその重要性を認識し、ライフスタイルを変革していく必要があることを講義する。 更に今後の企業社会を支えていく学生に、課題を解決するための技術開発が課題解決の原動力になってきたこと、逆にこうした技術開発が社会経済や私たちの生活に大きな影響を与える可能性があること、 また、課題を解決するためには、時には社会構造を変革する必要もあることを講義する。 （教養教育センター 単位認定の方針Cにもっとも強く関与。）
達成目標	①地球の歴史と自然の大切さを学ぶ。 ②過去の公害・環境問題について学び、環境問題の重要性について認識する。 ③様々な課題解決の努力が技術の進歩につながることを学ぶ。 ④環境問題を解決するためにはエネルギーの適切な使用が大切なことを学ぶ。 ⑤学生、社会人として必要となる環境保全の基礎知識を習得する。 ⑥環境問題は社会の仕組みや経済と密接に関連していることを学ぶ。
キーワード	公害、環境問題、人口問題、貧困・格差の拡大、グローバル主義と反グローバル主義、地球環境問題、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、代替エネルギー、再生可能エネルギー、原子力発電、原子力事故、水質汚染、大気汚染、化学物質汚染、食品汚染、循環型社会、リサイクル、環境モニタリング、電気自動車、自動運転、人口知能（AI）の進化、環境マネジメントシステム、ライフスタイルの変革
成績評価（合格基準60	中間評価試験（50%）及び最終評価試験（50%）で成績を評価し、 総計60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	
参考書	①改定6版 eco検定(環境社会検定試験)®」公式松井孝典テキスト／東京商工会議所／日本能率協会マネジメントセンター／ISBN：978-4-8207-5952-2 C 3051 ②不都合な真実（アルゴア著、ランダムハウス講談社） ISBN 978-427000181 3) ③地球システムの崩壊（松井 孝典、新潮選書） ④生命の多様性（エドワード・O. ウィルソン、岩波現代文庫）
連絡先	（個人メール） katashi_kenmotsu@festa.ocn.ne.jp
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	身近な地学Ⅱ (FB22X040)
英文科目名	Geoscience closely related to our daily lives II
担当教員名	北岡豪一＊ (きたおかこういち＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	先人は、星の明るさと色を手掛かりにしてどのようにして宇宙を知るようになったのか、それを紹介する。
2 回	宇宙が膨張していることがどうして分かったのか、また、宇宙にははじまりがあり、大きさがあることがどのようにして分かるようになったのか説明する。
3 回	宇宙がはじまって、まず物質ができ、星、銀河、太陽系、地球が形成されてきた過程を概説する。さまざまな元素は星の中で生まれたことも説明する。
4 回	地球上の生き物は太陽の恩恵を受けて生きている。環境の基本要素である地球表面の温度はどのようにして決まるのか、すじみちを説明する。
5 回	どうして風が吹くのか、理解を深める。自転する地球の上で風はどのように吹くのかについて学習する。
6 回	暖かい空気と冷たい空気はどのようにして混じるのか、低気圧や台風はどのようにして発生し、発達するのか、説明する。
7 回	雨はどのようにして降るのか、メカニズムを説明する。また、陸域の水はどのように循環しているのか、また、それによって生き物が生きていられることについて説明する。
8 回	地球温暖化、環境汚染（放射能汚染）など、深刻な環境問題について概説する。後半の0.5コマで最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	人間は、身近に見えるものに対して、遠近をどのようにして感じているのか考えておくこと。（標準学習時間：60分）
2 回	光が波であること、光の色、波の基本的な特徴についてよく調べておくこと。（標準学習時間：60分）
3 回	高校で学んだ原子や原子核についてあらましを復習しておくこと。元素の周期律表をよくみておくこと。（標準学習時間：60分）
4 回	ストーブに向かうと暖かく感じ、当たっている正面が熱いのはなぜなのか、考えておくこと。（標準学習時間：60分）
5 回	空気が暖まるとなぜ軽くなるのか、空気よりも軽い気球や煙はなぜ上昇するのか、よく考えておくこと。（標準学習時間：60分）
6 回	スプレーや自転車の空気入れから噴出する気体はなぜ冷たく感じるのか、考えておくこと。（標準学習時間：60分）
7 回	外気が冷たいとき、窓ガラスに水滴がついたり、車の窓が曇るのはなぜか、考えておくこと。（標準学習時間：60分）
8 回	最終評価試験を実施するので、これまで学習した内容をよく復習し理解しておくこと。（標準学習時間：180分）

講義目的	自然界では、さまざまな時間空間スケールでエネルギーと物質が循環していることを認識することが基本である。本講義では、まず、人類が地球や宇宙をどのようにして知り、現代の地球観、宇宙観に至ったのか概観する。そして、地球表層の大気と水が太陽と地球のエネルギーを駆動源として循環しており、その過程が天気、風、雨、川などとして身近に現れていることを学習する。（理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与）
達成目標	・宇宙が膨張していることがどのようにして明らかにされたのかを知っている。 ・宇宙のはじまり、物質の生成、宇宙の歴史の概要を知っている。 ・地球の歴史を通じて、地球上の大気と水がどのようにして形成されたのかを知っている。 ・地球表層の温度はどのようにして決まるのかを理解している。 ・大気と水が地球規模でどのように循環しているのかを理解している。 ・身近におこっている気象・水循環のメカニズムの概要を理解している。 ・温暖化の問題など、地球環境について考えることができるようになっている。
キーワード	宇宙、太陽系、太陽放射、大気の循環、水の循環、気象、地球環境、地球温暖化
成績評価（合格基準60	毎回講義の小レポート（50点）と最終評価試験（50点）により評価する。

関連科目	身近な物理学Ⅰと身近な化学Ⅰを受講していることが望ましい。
教科書	なし
参考書	「ニューステージ新地学図表」/浜島書店編集部/浜島書店/978-4-8343-4012-9
連絡先	kitaoka_51@yahoo.co.jp
注意・備考	提出課題については、講義中に模範解答を示しフィードバックを行う。 講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。 講義資料は講義開始時に配布する。 以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 基礎理学科，生物地球学科 「地学基礎論Ⅰ・Ⅱ」と一部内容が重複する可能性があるので，その科目の履修生および履修予定学生は「身近な地学Ⅰ・Ⅱ」の履修を避けること。
試験実施	実施する

科目名	現代人の科学E(地球温暖化) (FB22X050)
英文科目名	Science Literacy E
担当教員名	山下榮次* (やましたえいじ*)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、講義の進め方、教科書・参考書、成績評価の方針、環境科学が他の科学と異なる点を示し、勉学の方法について説明する。環境問題とは何かを説明する。
2回	環境汚染のメカニズム、環境汚染のリスク、自然的環境汚染、人為的環境汚染、公害、環境基準と排出基準などの環境科学用語を説明する。
3回	環境汚染と環境変化の違い、生物と環境の関わり、環境の成り立ち、環境の自然的変化、環境の人為的变化、などの環境科学用語を説明をする。
4回	地球誕生から現在までの地球環境の変遷とその原因、気候システムの形成の仕組み（構成、エネルギーの流れ）などの環境科学用語を説明をする。
5回	気候の変動、ENSO、地球のエネルギーバランスと温室効果について、地学と気象学の基礎的な説明をする。気候変動の自然的要因、気候変動の人為的要因の説明をする。
6回	温室効果気体と人間活動、地球全体での炭素循環について、地学と気象学の基礎的な説明をする。次に、岡山（渋川・牛窓）で、実測した大気中CO2の濃度変化を、マウナロア（USA）と綾里（気象庁）と比較し、岡山における大気中CO2の変化の特徴を説明する。CO2の一部である大気と海洋のCO2の交換量の測定を実測したので、その結果を紹介する。
7回	CO2の循環の重要な部分である大気と海洋のCO2交換量の測定を実測した。観測は、岡山大学理学部牛窓臨海実験所と、深江丸（神戸大学海事科学部附属練習船）、白鳳丸（東京大学海洋研究所所属）や海洋地球研究船「みらい」（JAMSTEC）に乗船しておこなった。海洋観測の結果を示し、炭素循環についての説明を行う。
8回	大気質と人の生活との関わりについて、地学、気象学、行政法律、公衆衛生の観点から説明する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを熟読して、内容を知り、内容を守ること。環境科学が他の科学と異なる点を見つけ、自分の意見を持って出席すること。（標準学習時間90分）
2回	配布した資料No. 1（はじめに）をよく読み、環境汚染のメカニズム、リスク、自然的環境汚染、人為的環境汚染、公害、環境基準と排出基準の定義を理解しておくこと。（標準学習時間90分）
3回	配布した資料No. 2（環境汚染）をよく読み、環境変化、生物と環境の関わり、環境の成り立ち、環境の自然的変化、環境の人的変化の意味を理解しておくこと。（標準学習時間90分）
4回	配布した資料No. 3（地球環境の変遷とその原因、気候システムの形成の仕組み）をよく読み、環境変化、生物と環境の関わり、環境の成り立ち、環境の自然的変化、環境の人為的变化の意味を理解しておくこと。（標準学習時間90分）
5回	配布した資料No. 4（気候の変動、ENSO、地球のエネルギーバランスと温室効果）をよく読み、地球誕生から現在までの過去の気候変化、地球全体の平均気温の変化、気候変動の自然的要因、気候変動の人為的要因、エルニーニョ、南方振動、テレコネクション、地球のエネルギーバランス、温室効果の仕組みを理解しておくこと。（標準学習時間90分）
6回	配布した資料No. 5（温室効果気体）をよく読み、温室効果気体の名称と濃度、その時系列変化、地球温暖化のメカニズムの概要を自分の言葉で述べるよう復習しておくこと。（標準学習時間90分）
7回	配布した資料No. 6（岡山の大気質：山下榮次、第19回OUS技術セミナー資料、2014/2/21）を読み、炭素循環の概要を自分の言葉で述べるよう復習しておくこと。（標準学習時間90分）
8回	配布した資料No. 6（岡山の大気質：山下榮次、第19回OUS技術セミナー資料、2014/2/21）を読み、大気質と人の生活との関わりについて自分の言葉で説明することが出来るよう復習しておくこと。（標準学習時間90分）

講義目的	本講義では、人間と環境（特に空気）との係りについて、基礎的な環境科学用語の定義を説明する
------	--

	。環境問題を自然科学的観点（地学、気象学、海洋学等）と社会科学的観点（環境関連法規、社会学等）から説明する。環境問題の諸現象について、原因、発生メカニズムを説明する。大気中CO₂の実測定の結果を示し、炭素循環について説明する。 そして、環境問題を深く理解し、地域環境や地球環境の変動に関する意見を、自分の言葉で述べることの出来る人材の育成に資することを目的とする。 （理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与）
達成目標	・環境科学が他の科学と異なる点を自分の言葉説明できる。 ・環境汚染のメカニズム、リスク、自然的環境汚染、人為的環境汚染を自分の言葉で説明できる。 ・地球温暖化のメカニズムの概要を自分の言葉で説明できる。 ・大気質と人の生活との関わりについて自分の言葉で説明できる。
キーワード	環境汚染、環境変化、気候システム、炭層循環、温室効果気体、地球温暖化、大気質と人の生活との関わり
成績評価（合格基準60	講義中に行う小試験（50%）と第8回目講義時に行う最終評価試験（50%）によって成績を評価する。採点の基準は100点満点のうち60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	適宜、資料を配布する。
参考書	図説環境科学／（社）環境情報科学センター編／朝倉書店／4-254-16027-5 C3044.. 環境科学概論／山下栄次他／大学教育出版／4-88730-655-5 C3040
連絡先	
注意・備考	・講義資料は講義前に配布する。講義終了後の資料配布請求には原則応じない。 ・毎回の講義で配布した資料は活用するので、忘れずに前回のも含め持参すること。 ・「準備学習」の欄に提示してある復習を、必ず済ませておくこと。 ・毎講義時に小テストを行う。解答例を講義中に説明することでフィードバックを行う。 ・プロジェクターによる図などの説明と板書を組み合わせて講義を進めていく。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。格別の理由がある場合は事前に相談すること。
試験実施	実施する

科目名	国際バカロレア概論【金5集中】（FB22Y010）
英文科目名	Introduction to International Baccalaureate
担当教員名	眞砂和典（まさごかずのり）, 永留聡*（ながとめさとし*）, 高木志保（たかぎしほ）, ダッタシャミ*（だったしゃみ*）
対象学年	2年
開講学期	春2
曜日時限	金曜日 5時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	国際バカロレア(IB)って何？ これからの講義の概要を説明する。 （眞砂 和典, 高木 志保）
2回	担当 永留 聡 英数学館高等学校 校長 今回と第12回の授業の中でIBの理念に基づく10個の学習者像を学習し、理解することを目的とする。またカリキュラム構成上重要なTOK（知の理論）とは何か、TOKのダイアグラム、その中心には学習者がおり、知るための8つの方法との関連性を知る事を目的とする。またCASのプログラムについての認識を深める事も同時に目的とする。全体を通して教育改革における IB の役割を考えながら進めていく。 （永留 聡*）
3回	1. IBの学習者像について学ぶ。10の学習者像と日本の学校の目標や校訓について比較しながら考える。 2. プレゼンテーションについて。 （眞砂 和典, 高木 志保）
4回	1. DPの6つの教科群について考える。 2. 学習と発達について。発達段階に沿った学習のみが効率的なのか？ （眞砂 和典, 高木 志保）
5回	評価（Assessed Curriculum）について考える。ルーブリック、ポートフォリオなど。 第7回以降のプレゼンテーションで使用するルーブリックを共働で作る。 （眞砂 和典, 高木 志保）
6回	TOKについて体験的に学ぶ。 （眞砂 和典, 高木 志保）
7回	7～10回は第一回目の集中授業 7月21日（土）＜代講予備日＞ 9：10～16：15 。部分的に他の授業の代講がある場合はその時間を抜けて構わない。全日が休校日の置き換えとなった場合は8月4日（土）に振り替える。内容としては、これまでに用意したプレゼンテーションをし、質疑応答、そして互いの評価をルーブリックによって行う。 （眞砂 和典, 高木 志保）
8回	同上 （眞砂 和典, 高木 志保）
9回	同上 （眞砂 和典, 高木 志保）
10回	DPにおける「協働設計」について体験的に学ぶ。 グループ学習の利点と欠点について考える。 （眞砂 和典, 高木 志保）
11回	発表予備時間 または「協働設計」の続き。 （眞砂 和典, 高木 志保）
12回	担当 永留 聡 英数学館高等学校 校長 第2回からの発展。 （永留 聡*）
13回	13～16回は第二回目の集中授業 8月7日（火）他の授業の試験がある場合はその時間を抜け

	て構わない。 担当 シャミ ダッタ 東京学芸大学 准教授 「IBと教員養成の実践から」 (真砂 和典,高木 志保,ダッタ シャミ*)
1 4 回	同上 (真砂 和典,高木 志保,ダッタ シャミ*)
1 5 回	同上 (真砂 和典,高木 志保,ダッタ シャミ*)
1 6 回	同上 (真砂 和典,高木 志保,ダッタ シャミ*)

回数	準備学習
1 回	シラバスで講義の概要を事前に調べておくこと。参考書の欄に書いた記事を読んで理解しておく。 (学習時間の目安 60分)
2 回	英数学館について調べておく。また、文部科学省のHP 「国際バカロレアについて」 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/index.htm などから「IBの学習者像」について詳しい説明を読んで理解しておく。(100分)
3 回	あなた自身の中学や高校の目標や校訓を調べ、意味や内容を説明できるように300字くらいにまとめておく。(100分)
4 回	文部科学省のHP 「国際バカロレアについて」 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/index.htm から6群の教科概要について調べ、理解しておく。(60分)
5 回	プリント又はデジタルデータ。IBDPの評価方法について事前に資料を熟読してくること。(60分)
6 回	文部科学省のHP 「国際バカロレアについて」 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/index.htm などからTOKについて調べ、300字くらいにまとめておく。(100分)
7 回	この授業の前半を通して学んだことなど、教育改革や手法に関することを調べて発表する。資料調査、まとめ、プレゼンテーションの準備 (500分)
8 回	同上
9 回	同上
1 0 回	同上
1 1 回	体験に基づいてグループ学習について調べ、300字くらいにまとめてくること。(120分)
1 2 回	文部科学省のHP 「国際バカロレアについて」 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/index.htm などからCASについて調べ、300字くらいにまとめておく。(100分)
1 3 回	準備内容は追って連絡する。
1 4 回	同上
1 5 回	同上
1 6 回	同上

講義目的	国際バカロレア (IB) は多文化に対する理解と尊敬を通じて、平和でより良い世界の実現の為に貢献できる、探究心、知識、そして思いやりのある若者の育成を目指している。本授業ではIBの理念に基づく教育を理解することを目的とする。また、カリキュラム構成上重要なTOK (知の理論)、CASのプログラムについての認識を深める。全体を通して教育改革における IB の役割を考えながら進めていく。その中心には学習者がおり、「主体的・対話的で深い学び」のファシリテーターとして教員を考えるきっかけを作る。(教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与するとともにプログラム終了認定の方針のAにもっとも強く関与する。)
達成目標	・ IBの10の学習者像の概念を理解する事ができる。 ・ TOKについての基礎的な概念を説明できる。 ・ CASについての基礎的な概念を説明できる。 ・ DPの基礎的な科目設定・評価方法が説明できる。 ・ 良いプレゼンテーションとは何か。評価の観点からも理解している。 ・ 教育改革におけるIBの意味について説明できる。
キーワード	IB、IBDP、IB Educator Certificate、TOK、CAS、Knowledge Issue、Ways of knowing(知のための方法)、Areas of knowledge(知識の領域)、ルーブリック評価
成績評価 (合格基準60)	プレゼンテーション (30%)、宿題及びレポート (70%) の結果から評価する。多数の宿題・レポートの課題を出す。

	総計で60%以上を合格とする。
関連科目	この科目は IB Educator Certificate を取得するための入門科目である。ただし、これ以外の科目は 2018年度 IB 教育課程論 1単位、IB教育方法論 1単位 2019年度 IB 教育評価論 2単位、DP数学 2単位、DP化学 2単位 2020年度 DP教育実践研究Ⅰ 2単位、DP教育実践研究Ⅱ 2単位 と順次開講されていく予定である。 たとえこれらの授業を取らなくても、本授業でIBの教育に対する知見を得ておくことは未来の教育を考える上で大きな役割を果たすであろう。
教科書	使用しない。
参考書	IBについてコンパクト（4ページ）にまとめた記事は http://souken.shinagakunet.com/college_m/2017_RCM202_32.pdf がある ので授業を取るかどうかの参考にしてもらおうとよい。その他は授業で紹介していく。
連絡先	masago（アットマーク）ped.ous.ac.jp グローバル教育センター（C1号館4階） 眞砂 和典（研究室 C7号館2階）
注意・備考	この授業は多くの場合、学生中心のアクティブラーニングによって学びを深めるので、主体的・積極的に授業に取り組むことが求められる。
試験実施	実施しない

科目名	国際関係論B (FB22Z010)
英文科目名	Approaches to Transnational Relations B
担当教員名	砂川和泉＊ (すながわいずみ＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	国際紛争の解決(1)国際紛争の平和的解決原則について説明する。
2 回	国際紛争の解決(2)国際連合の主要な司法機関である国際司法裁判所について説明する。
3 回	国際社会の平和と安全の維持(1)：戦争の違法化について説明する。
4 回	国際社会の平和と安全の維持(2)：勢力均衡と集団安全保障について説明する。
5 回	国際社会の平和と安全の維持(3)：国際連合による集団安全保障について説明する。
6 回	国際社会の平和と安全の維持(4)：国際連合の平和維持活動について説明する。
7 回	国際社会の平和と安全の維持(5)：2000年以降の国際連合における平和と安全の維持に関する諸活動について説明する。
8 回	最終評価試験を実施する。 最終評価試験のフィードバックとして試験内容の解説を行う。

回数	準備学習
1 回	新聞の国際面に目を通しておくこと(標準学習時間30分)
2 回	前回の講義内容について復習しておくこと(標準学習時間30分) 配布したプリントを読んでおくこと(標準学習時間15分)
3 回	前回の講義内容について復習しておくこと(標準学習時間30分) 配布したプリントを読んでおくこと(標準学習時間15分)
4 回	前回の講義内容について復習しておくこと(標準学習時間30分) 配布したプリントを読んでおくこと(標準学習時間15分)
5 回	前回の講義内容について復習しておくこと(標準学習時間30分) 配布したプリントを読んでおくこと(標準学習時間15分)
6 回	前回の講義内容について復習しておくこと(標準学習時間30分) 配布したプリントを読んでおくこと(標準学習時間15分)
7 回	前回の講義内容について復習しておくこと(標準学習時間30分) 配布したプリントを読んでおくこと(標準学習時間15分)
8 回	前回までの講義内容について復習しておくこと(標準学習時間180分)

講義目的	国際機構の活動内容を検討することにより、国際社会の平和と安全を維持するために国際機構が果たしている役割と課題を明らかにする。(教養教育センター 単位認定の方針Cにもっとも強く関与。)
達成目標	①国際紛争を処理するための基本的な仕組みについて説明できる。 ②国際社会の平和と安全を維持するための基本的な仕組みについて説明できる。
キーワード	国際機構、国際連合
成績評価 (合格基準60)	上記達成目標の到達度を最終評価試験(100%)で評価する。
関連科目	国際関係論A
教科書	使用しない。授業時間中にプリントを配布する。
参考書	適宜指示する。
連絡先	
注意・備考	最終評価試験のフィードバックとして、試験内容の解説を行う。 講義中の撮影、録音及び録画を禁止する。
試験実施	実施する

科目名	福祉環境論B (FB22Z020)
英文科目名	Welfare Environmental Science B
担当教員名	土橋恵美子＊ (つちはしえみこ＊)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：後期講義の目的、進め方について説明する。 手話について実技（入門Ⅰ）をとおして説明する。
2回	手話について実技（入門Ⅱ）をとおして説明する
3回	ノートテイクについて実技をとおして説明する。
4回	パソコン通訳について実技をとおして説明する。
5回	障がいへの理解に関する映像を視聴する。
6回	支援すること・されることについてグループワークをとおして考察する。
7回	障がいを自分のこととしてとらえ、合理的配慮の視点から考察する。
8回	第1回から第7回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読んで、講義全体の過程を把握しておくこと。 指文字について自分の名前を調べておくこと。(標準学習時間60分)
2回	手話実技で覚えた表現を繰り返し練習しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	速く・正しく・読みやすく書くための方法を考えること。(標準学習時間120分)
4回	パソコン通訳（パソコンテイク）について調べておくこと。(標準学習時間120分)
5回	障がいへの理解を新聞記事や番組（NHK教育テレビ「手話ニュース」など）をとおして考えておくこと。(標準学習時間120分)
6回	支援すること・されることについて考えておくこと。(標準学習時間120分)
7回	合理的配慮の視点と考え方を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第1回から第7回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	「聴覚障がい者への支援方法」について学び、聴覚障がい者に関する法律や当事者の声を通して『知る』ことにより、バリアがどこにあるかを感じとり、合理的配慮の視点から考察することを目的とする。（教養教育センター 単位認定の方針Dにもっとも強く関与。Cに強く関与。）
達成目標	①新聞記事、番組（NHK教育テレビ「手話ニュース」など）、書籍などから障がいとは何か、バリアとは何かを『理解する』ことができる。 ②聴覚障がい者への支援方法を、実技を通して『知り』、支援する・される間にあるバリアを『わかり』、当事者が求める支援について、合理的配慮の視点から理論を用いて説明できる。 ③能動的な支援として「かわる・かえる」過程を体感し、障がい者支援について、具体案を提示し、その効果を説明することができる。
キーワード	障がい、聴覚障がい者、合理的配慮、知る、支援、バリア
成績評価（合格基準60	グループワーク（ディスカッション）への貢献40%、講義最終日の試験（最終評価試験）60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	健康の科学
教科書	使用しない。適宜資料を配布する
参考書	適宜紹介する
連絡先	
注意・備考	・障がいのある学生で何らかの配慮を必要とする場合は、初回講義までに申し出ること。 ・この講義はアクティブラーニングを重視し、グループワークおよびグループディスカッションを行う。
試験実施	実施する

科目名	芸術B (FB22Z030)
英文科目名	Arts B
担当教員名	柳沢秀行＊ (やなぎさわひでゆき＊), 四角隆二＊ (しかくりゅうじ＊), 橋本龍＊ (はしもとりよう＊)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	美術館論：美術館の社会における機能を説明した後、岡山県域の美術館、博物館についての情報提供を主にしつつ、岡山県域の文化的土壌についての講義 (柳沢 秀行＊)
2回	2～4回は、集中講義形式にて大原美術館（倉敷市）で実施。 大原美術館の歴史を紐解きつつ、美術館の社会における機能の具体例を知る。 (柳沢 秀行＊)
3回	2～4回は、集中講義形式にて大原美術館（倉敷市）で実施。 大原美術館の作品鑑賞を主としながら、西洋と日本の近代美術史概要を知る。 (柳沢 秀行＊)
4回	2～4回は、集中講義形式にて大原美術館（倉敷市）で実施。 作品へのアプローチについての講義と実践活動。 (柳沢 秀行＊)
5回	5～6回は、集中講義形式にて岡山市立オリент美術館で実施。 地方都市にオリент美術館が存在する理由と意義、果たすべき役割について学ぶ。 (四角 隆二＊)
6回	5～6回は、集中講義形式にて岡山市立オリент美術館で実施。 オリент考古美術品鑑賞を主としながら、「文明とは何か」「人類文化の多様性」について学ぶ。 (四角 隆二＊)
7回	7～8回は、集中講義形式にて林原美術館で実施。 林原美術館において、刀剣、武具、甲冑、調度品、絵画、古文書などを鑑賞する。 林原美術館設立の経緯とコレクションの概要を解説し、合わせて開催中の展覧会を鑑賞する。 (橋本 龍＊)
8回	7～8回は、集中講義形式にて林原美術館で実施。 林原美術館を代表するコレクションについての特別鑑賞を行い、幅広い作品を鑑賞する。 (橋本 龍＊)

回数	準備学習
1回	岡山県にはどのような美術館があるか、あなたの故郷にはどのような美術館があるか、調べてみる こと。(標準学習時間60分)
2回	大原美術館に現地集合となるので、位置・経路・到達必要時間について調査し、開始時間に必ず間に合うよう十分な時間的余裕をもって行動すること。(標準学習時間60分)
3回	大原美術館に現地集合となるので、位置・経路・到達必要時間について調査し、開始時間に必ず間に合うよう十分な時間的余裕をもって行動すること。(標準学習時間120分)
4回	大原美術館の歴史、設立経緯、基本方針、主要展示内容について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	オリент美術館に現地集合となるので、位置・経路・到達必要時間について調査し、開始時間に必ず間に合うよう十分な時間的余裕をもって行動すること。オリент美術館の歴史、設立経緯、基本方針、主要展示内容について予習しておくこと。特にオリент関係の展示が中心であるので、オリентの地理的環境や自然環境、古代オリент文明に関する知識を充実させておくこと。 (標準学習時間120分)

6回	オリエント美術館に現地集合となるので、位置・経路・到達必要時間について調査し、開始時間に必ず間に合うよう十分な時間的余裕をもって行動すること。オリエント美術館の歴史、設立経緯、基本方針、主要展示内容について予習しておくこと。特にオリエント関係の展示が中心であるので、オリエントの地理的環境や自然環境、古代オリエント文明に関する知識を充実させておくこと。（標準学習時間120分）
7回	林原美術館に現地集合となるので、位置・経路・到達必要時間について調査し、開始時間に必ず間に合うよう十分な時間的余裕をもって行動すること。林原美術館の歴史、設立経緯、基本方針、主要展示内容について予習しておくこと。特に旧岡山藩主池田家にゆかりのある展示物が多いことから、池田家関係の基礎知識を充実させておくこと。（標準学習時間120分）
8回	林原美術館に現地集合となるので、位置・経路・到達必要時間について調査し、開始時間に必ず間に合うよう十分な時間的余裕をもって行動すること。林原美術館の歴史、設立経緯、基本方針、主要展示内容について予習しておくこと。特に旧岡山藩主池田家にゆかりのある展示物が多いことから、池田家関係の基礎知識を充実させておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	美術館で絵画を鑑賞した経験を持つ人は少ないかもしれない。美術館に行ったことがあっても、じっくりと味わって鑑賞できた人はさらに少ないかもしれない。美術館での鑑賞が通り一遍になってしまうのは、作家であるとか、制作に至った心理状態とか、社会的背景などを知らないからではないだろうか。 今回の一連の講義は、学芸員の解説のもと、展示物を鑑賞することとする。この貴重な体験をきっかけとして芸術の鑑賞の仕方を学んで楽しさを知り、今後の生活に資することを目的とする。（教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する）
達成目標	・高いレベルの絵画・工芸品などを知的レベルの高い状況で鑑賞した経験を持つこと。 ・絵画、工芸品などと作家の人格、思考、成長、社会的背景などと関連させて鑑賞することができるようになること。 ・芸術の楽しさを知ること。
キーワード	美術館、絵画、工芸品、鑑賞、学芸員
成績評価（合格基準60）	訪問した美術館において、もっとも感銘した内容についてテーマを設定し、これに関するレポートの提出によって評価する。
関連科目	
教科書	
参考書	
連絡先	
注意・備考	現地集合、現地解散となるので講義開始時刻まで確実に集合できるよう、時間的に十分な余裕をもって行動すること。経路に関しては、可能な限り公共交通機関を使用することとし、交通事故などに気をつけること。
試験実施	実施しない

科目名	科学・工作ボランティア入門【月4水4】（FB32D110）
英文科目名	Introduction to Volunteer Activitiy for Scie nce and Technology
担当教員名	高原周一（たかはらしゅういち）, 吉村功*（よしむらたくみ*）, 森田明義*（もりたあきよし*）, 武田芳紀*（たけだよしのり*）, 高見寿*（たかみひさし*）, 滝澤昇（たきざわのぼる）, 山口一裕（やまぐちかずひろ）, 米田稔（よねだみのる）, クルモフバレリー（くるもふばれりー）
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 4時限 / 水曜日 4時限
対象クラス	理学部, 工学部, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス（講義内容と進め方の説明） 科学ボランティア活動の意義と現状、本学の科学ボランティアリーダー養成事業について概説する。本講義の進め方について説明する。有用なウェブサイトを紹介する。 （高原 周一）
2 回	講義担当教員および補助学生が自己紹介するとともに、簡単な実験を披露する。本学の科学ボランティアリーダー資格認定制度と学外で活動するための手続き・注意点を説明する。 （全教員）
3 回	発表会準備（1） 発表会の進行について説明する。班分けを行い、班内で自己紹介を行う。発表内容について検討する。 （全教員）
4 回	発表会準備（2） 科学イベントで実施できる教材を紹介するとともに、科学イベントの効果的な進め方について説明する。 発表会の内容を決定する。 （全教員）
5 回	発表会準備（3） 科学イベントにおける安全対策について講習する。 必要な器具をそろえて実験・工作を試行してみる。 （全教員）
6 回	発表会準備（4） 発表会企画書および配布資料の書き方について説明する。 実験・工作の改良・追加を試みる。 （全教員）
7 回	発表会準備（5） 発表会の詳細について説明する。実験の原理を班で共有する。発表会での進行、プレゼンテーションについて検討する。準備の進行状況を教員に報告し、指導を受ける。（全教員） （全教員）
8 回	発表会準備（6） 発表会での進行、プレゼンテーションについて確定する。プレゼンテーションに必要なフリップ等を作成する。 （全教員）
9 回	発表会準備（7） 各班が教員の前で発表内容をひと通り説明し、指導を受ける（予行演習）。それをもとに発表内容を再検討する。 （全教員）
10 回	発表会準備（8） 予行演習の続きを行う。発表会の準備を行う。企画書・発表会配布資料について教員がコメントするので、それを参考に修正を検討する。 （全教員）
11 回	発表会準備（9） 発表会の準備を完了させる。 （全教員）
12 回	発表会（1） 発表会で発表する。※ 12回目～14回目は土曜日に連続して行う。

	(全教員)
1 3 回	発表会 (2) 他班の発表を聞いて相互評価を行う。
	(全教員)
1 4 回	発表会 (3) 各班の教員評価および学生の相互評価結果を発表する。発表会の片づけを行う。
	(全教員)
1 5 回	この授業での活動について振り返りを行う。この授業に対する改善意見を出し合う。今後予定されている科学ボランティア活動について紹介し、参加を促す。
	(全教員)

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んでおくこと。キャンパスライフの「科学ボランティア活動」のページを読んでおくこと。本学の科学ボランティアセンターのホームページを閲覧しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	紹介したウェブサイトを閲覧しておくこと。科学ボランティア活動に関係するサイトを検索し、閲覧しておくこと。科学ボランティアセンターおよび本学図書館等で科学ボランティア活動に役立つような本を探すこと。(標準学習時間120分)
3 回	本やインターネットで発表会に使えるような実験内容を調べる。科学ボランティアセンターのホームページでボランティア情報を閲覧し、参加したい企画があれば申し込むこと。(標準学習時間120分)
4 回	発表会の内容についての各人の提案をレポートにまとめること。(標準学習時間120分)
5 回	実験に必要な器具を調達すること。類似の実験について本やインターネットで調べること。(標準学習時間120分)
6 回	実験の改良・追加について考えておくこと。そのために必要な器具を調達すること。実験内容に関連する情報・原理について本やインターネットで調べること。(標準学習時間120分)
7 回	引き続き、実験内容に関連する情報・原理について本やインターネットで調べる。実験内容と小中高の理科のカリキュラムとの関係について調べる。 (標準学習時間120分)
8 回	各人が分担した作業 (物品の確保、シナリオ・フリップの作成など) を行うこと。(標準学習時間60分)
9 回	予行演習の準備を行うこと。(標準学習時間60分)
1 0 回	企画書・発表会配布資料を作成すること。各人が分担した作業を行うこと。(標準学習時間60分)
1 1 回	企画書・発表会配布資料の改訂版を作成すること。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。(標準学習時間60分)
1 2 回	発表会に向けて各自が担当内容を再確認すること。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。発表会当日の会場設営・準備に参加すること。(12回目～14回目の合計の標準学習時間180分)
1 3 回	12回目の準備学習欄にまとめて記載
1 4 回	12回目の準備学習欄にまとめて記載
1 5 回	この授業での活動について、自分なりに総括しておくこと。発表会で配られた解説書を読んでおくこと。この授業に対する改善意見を考えてくること。(標準学習時間60分)

講義目的	近年、市民と青少年の科学・技術への関心・理解を深めるために、全国各地で科学イベントが開催されるようになった。本講義は、このような活動を推進する人材である「科学ボランティアリーダー」の養成を目指し、地域で活躍するために必要な資質・能力の基礎を培うことを目的とする。 まず、教員による講習を行った後、グループごとに自分たちで選んだ楽しい実験・工作を準備し、学園内公開の発表会で発表する。これらを通じて、受講生自身が科学・技術をおおいに楽しみながら、科学・技術に対する関心を深め、科学ボランティア活動を行うための基礎的な力を身につける。同時に、社会人として必要となるコミュニケーション力等の汎用的な能力の向上も目指す。グループ内での討論、教員への報告、発表会でのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。(科学ボランティアセンターの単位認定方針A「科学ボランティア活動の意義と楽しさを理解し卒業後も地域で科学ボランティアリーダーとして活躍する意欲をもつ」に強く関与)
達成目標	1. 科学ボランティア活動の意義と楽しさを理解し、これに積極的に参加する意欲をもつ。 2. 科学ボランティア活動を行う上で最低限必要となる知識・能力を身につける。 3. 科学・技術全般に関心をもつ。 4. 社会人として必要な企画力、情報収集力、問題解決力、チームワークとリーダーシップ、コミュニケーション力などを身につける。
キーワード	楽しい実験・工作、科学・工作教室、科学ボランティア活動
成績評価 (合格基準60)	レポートの内容 (70%)、発表会の内容 (30%) によって評価する。発表会の評価には、受講生相互の評価も加味する。

関連科目	科学ボランティア実践指導Ⅰ・Ⅱ、科学ボランティア活動
教科書	使用しない。
参考書	「ものづくりハンドブック 1～7」 たのしい授業編集委員会/編・仮説社 他 授業中に紹介する。
連絡先	教育学部初等教育学科 高原周一（A1号館3階、e-mail: takahara[アットマーク]ped.ous.ac.jp TEL: 086-256-9607）もしくは科学ボランティアセンター（B4号館1階、TEL: 086-256-9570）
注意・備考	・本クラスは基本的に指定された曜日・時限に行われるが、発表会は土曜日に行う。 ・受講希望者が60名を超える場合はガイダンス（初回の講義）の参加者から受講生を選抜することがあるので、ガイダンスには必ず出席すること。 ・発表会の材料費は受講生の自己負担とする。 ・本講義は科学ボランティアリーダー資格認定の必修の講義である。科学ボランティアリーダー資格認定制度については、科学ボランティアセンターのホームページ（http://ridai-svc.org/）に説明がある。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」→「科学ボランティア実践指導Ⅰ」→「科学ボランティア実践指導Ⅱ」→「科学ボランティア活動」 ・グループワークによりアクティブ・ラーニングを行う。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中および発表会の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。 ・発表会での相互評価結果はMomo-campus上でフィードバックされる。発表会での教員の評価はその場でフィードバックされる。
試験実施	実施しない

科目名	国際関係論 B (FV22B111)
英文科目名	Approaches to Transnational Relations B
担当教員名	渡邊剛央 (わたなべたけひさ)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	国際連盟における安全保障制度について学ぶ。国際連盟が成立する前と後とでは、安全保障の仕組みがどのように変わったのか、また、国際連盟における安全保障制度にはどのような問題があったのかについて学ぶ。
2 回	国際連合における安全保障制度について学ぶ。国際連合における安全保障制度の内容について学んだうえで、その問題点およびそれへの対処について学ぶ。
3 回	平和維持活動について学ぶ。平和維持活動とは何か、これまでどのような平和維持活動が行われてきたのか、平和維持活動の法的性質、平和維持活動に対する日本のかかわりについて学ぶ。
4 回	自衛権について学ぶ。自衛権とは何か、個別的自衛権と集団的自衛権との違い、自衛権の行使要件について学ぶ。
5 回	国家責任の成立要件について学ぶ。国家はどのような場合にその行為についての責任を負わなければならないのかについて学ぶ。
6 回	国家責任の追及要件および解除について学ぶ。国家責任を追及するのは誰か、国家責任を負う国はどのような義務を果たさなければならないのかについて学ぶ。
7 回	国際司法裁判所について学ぶ。国際司法裁判所の組織、管轄、判決、勧告的意見について学ぶ。
8 回	裁判以外の紛争の平和的解決方法について学ぶ。交渉、仲介、周旋、審査、調停について学ぶ。そのうえで最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	国際連盟がどのような組織であったかについて調べてみる。
2 回	配布資料を読んで、キーワードとその意味を把握すること。
3 回	配布資料を読んで、キーワードとその意味を把握すること。
4 回	配布資料を読んで、キーワードとその意味を把握すること。
5 回	配布資料を読んで、キーワードとその意味を把握すること。

6回	配布資料を読んで、キーワードとその意味を把握すること。
7回	配布資料を読んで、キーワードとその意味を把握すること。
8回	配布資料を読んで、キーワードとその意味を把握すること。

講義目的	現在の国際社会では組織化が進展しており、国際社会の秩序や平和を維持するためには、国際機構の存在は欠かせない。したがって、国際関係を学ぶうえで、国際連合などの国際機構についての理解を深めることは必要不可欠である。そこで、本講義では、国際紛争の平和的解決や国際安全保障において国際機構が果たしている役割を概観することにより、現在の国際社会の基本的な仕組みや活動内容を解説する。また今後日本が国際社会において貢献できる役割についても考えてみたい。
達成目標	○国際連合の安全保障制度について説明できるようになること。 ○平和維持活動について説明できるようになること。 ○自衛権について説明できるようになること。 ○国家責任について説明できるようになること。 ○国際司法裁判所の役割について説明できるようになること。 ○国家責任
キーワード	国際連合、安全保障
成績評価（合格基準60	各回に実施する基礎力テスト（比率10%）および応用力テスト（比率40%）、最終評価試験（比率50%）により評価する。100点満点に換算し、60点以上で合格とする。
関連科目	国際社会の特徴や国際連合の概要などの国際関係論の基礎事項は国際関係論Aで講義するので、それを受講してからこの講義を受講するのが望ましい。
教科書	講義で資料を配布する。
参考書	国際連合－軌跡と展望／明石康／岩波書店／978-4004310525

連絡先	(研究室等確定後に記載)
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	教養演習 B (FV22B121)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	演習の進め方、方針などについて説明をする。
2 回	受講生自らが選定した新聞記事を資料としてグループワーク形式の発表・討論を行う。(1)
3 回	受講生自らが選定した新聞記事を資料としてグループワーク形式の発表・討論を行う。(2)
4 回	受講生自らが選定した新聞記事を資料としてグループワーク形式の発表・討論を行う。(3)
5 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(1)
6 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(1)
7 回	受講生自らが選定した時事問題について、新聞記事等を資料として、レジュメを用意した個人発表を行ない、討論をする。(1)
8 回	これまで演習で実施したグループワークと個人発表の講評を行う。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、発表の進め方を把握しておくこと。
2 回	テーマを選定した者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。
3 回	テーマを選定した者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。
4 回	テーマを選定した者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。
5 回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。

6回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。
7回	発表者はレジュメ・資料を用意し、他の受講生は配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。
8回	これまでの演習で学んだことを整理する。

講義目的	①主として各国の文化に関連する文章を読みながら議論をする。②分野を問わず、参加者自身が関心を持つ問題についての簡単な報告（個人あるいはグループによる）を行う。「教養演習A」に続き、さらなる思考能力、表現能力の向上を目指す。決められたテーマに関して発表する準備を通じて、問題に対して自らの考えを整理し、問題に対して自らの考えを整理し、説得力のある発言が行えることを達成目標とする。また、質疑応答、グループ学習を通じてコミュニケーション能力を高めることも、ねらいの一つである。教養演習Bでは、受講生自らが作成した資料に基づく発表および討論を中心とする。
達成目標	①時事問題について、受講者自らがグループワークを通してディスカッションを実施することができること。 ②受講者が関心を持つ問題（分野を問わない）について、簡単な個人発表を通して自分の意見を発表できること。 以上を本演習の目的とする。
キーワード	時事問題、プレゼンテーション、ディスカッション、政治、経済、文化、国際問題
成績評価（合格基準60	最終評価試験(100%)により評価する。
関連科目	政治学AB、社会と人間AB、日本国憲法、国際関係論AB
教科書	使用しない。
参考書	必要に応じて適宜指示する。

連絡先	(研究室等確定後に記載)
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	学びの基礎論B (FV22B131)
英文科目名	Introduction to Life Long Learning B
担当教員名	小林忠資 (こばやしただし)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス 自己実現と学び 人生の一回性や自己実現・至高経験について考察する。
2 回	グループ活動によるルール作り グループ活動を活性化し、やる気を持続させる方法について検討する。ブレインストーミング等、グループ活動をよりよいものにするための知識を説明する。
3 回	プレゼンテーション技法 プレゼンテーション技術を学び、論理的なまとめ方を説明する。
4 回	アイディアの発想法 テーマをもとにK J法の知識を学び、グループでのプロジェクトを開始する。
5 回	岡山理科大学を深く知る (文章の作成) 岡山理科大学の歴史、岡山理科大学の建学の理念、学べる内容、主な就職先について調べて、文章にまとめる。
6 回	岡山理科大学を深く知る (スライドの作成) 文章にまとめた内容について、スライドをまとめる。
7 回	課題発表と振り返り① 学びの集大成としてプレゼンテーションを行い、ピア・レビューを実践する。
8 回	課題発表と振り返り② 学びの集大成としてプレゼンテーションを行い、ピア・レビューを実践する。

回数	準備学習
1 回	講義の目的を理解し、シラバスを確認すること。 また、自己実現について考えておくこと。
2 回	グループ活動において自分が果たす役割について考えておくこと。
3 回	論理的にまとめるために必要な要素は何かを検討しておくこと。
4 回	これまでの学びを整理しておくこと。
5 回	岡山理科大学について調べてくる。
6 回	岡山理科大学について文章でまとめてくること。
7 回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるようにしておくこと。
8 回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるようにしておくこと。

講義目的	本講義の目標は、新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機付けを行うとともに、基礎的な学習技術を修得し、活用することである。内容として、「学びの基礎論A」をふまえて①チームビルディングの構築②基本的なアカデミック・スキル (文章表現法、プレゼンテーション) を修得する③テーマに対して、グループで協同して課題発表を行う④一人ひとりが、グループの発表に対してルーブリックにより評価を行う。アクティブ・ラーニングを行う。
達成目標	①グループワークにおいて積極的にコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を築くことができる。

	②第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる。 ③自分の考えをまとめプレゼンテーションすることができる。
キーワード	学び、人間力、コミュニケーション、アカデミックスキル
成績評価（合格基準60	・授業中に作成したワークシートの提出（30%） ・レポート（30%） ・課題発表（40%）
関連科目	
教科書	特定の教科書は使用しない
参考書	適宜指示する
連絡先	（研究室等確定後に記載）
注意・備考	・本授業は学びの基礎論Aを受講していることがのぞましい。 ・授業中の飲食・私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしまっておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は出席者からコピーをしておくこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある
試験実施	実施しない

科目名	現代人の科学B（FV22B141）
英文科目名	Science Literacy B
担当教員名	財部健一（たからべけんいち）
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス、グループ分け。配布資料を参考にインパクトの大きな課題選択と2回目以降の進め方のガイダンス。
2 回	インパクトの大きな課題の発見、意見交換、評価とグループとして取り組み設定（アクティブラーニング1）
3 回	インパクトの大きな課題の発見、意見交換、評価とグループとして取り組み設定（アクティブラーニング2）
4 回	インパクトの大きな課題の対処法の発見と評価（アクティブラーニング3）
5 回	インパクトの大きな課題の対処法の発見と評価（アクティブラーニング4）
6 回	インパクトの大きな課題の対処法がもたらす新しい価値の発見と評価（アクティブラーニング5）
7 回	インパクトの大きな課題の対処法がもたらす新しい価値の発見と評価とまとめ（アクティブラーニング6）
8 回	アクティブラーニング6のまとめの報告

回数	準備学習
1 回	講義目的、達成目標を学習し単位目当ての安易な履修は避けること。（標準学習時間30分）
2 回	インパクトの大きな課題について、各自の意見を用意しておくこと。（標準学習時間60分）
3 回	アクティブラーニング1により設定された課題の事前学習しておくこと。（標準学習時間60分）
4 回	アクティブラーニング2により設定された課題の事前学習しておくこと。（標準学習時間60分）
5 回	アクティブラーニング3により設定された課題の事前学習しておくこと。（標準学習時間60分）
6 回	アクティブラーニング4により設定された課題の事前学習しておくこと。（標準学習時間60分）
7 回	アクティブラーニング5により設定された課題の事前学習しておくこと。（標準学習時間60分）
8 回	アクティブラーニング6のまとめの報告準備をしておくこと。（標準学習時間90分）

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学・技術リテラシー（知識のみならず科学的なものの見方も含む）を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は、様々な科学・技術分野のトピックスを題材にし、科学・技術リテラシーの向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学B」では、実験も交えながら、主に物理・化学分野のいくつかのトピックスを取り上げる。なお、この科目は特定の分野の基礎知識の修得を前提としない。
達成目標	未来社会を創る大学生に求められる新しい価値の創出力に必要なアカデミックスキルであるアクティブラーニング（自ら調べ、チームで考え、新しい価値観である新しい結論を導く）を体験し、問題発掘、対処、解決、浸透法などの習慣を身に付ける事を目標とする。習慣には、人の話を聞く（多様なものの見方や分析の仕方、柔軟な発想力を学ぶ等々）、自分の意見を相手に分かりやすく述べる（順序立てて考え述べる）、議論に積極的に参加する、仲間と強調して一つの課題に取り組む、グループで決めた学習ルールを守る等の態度、方法の習得が含まれる。
キーワード	インパクトの大きな科学、技術課題、説明責任、新しい価値の創出、新しい価値の浸透、アクティブラーニング
成績評価（合格基準60	定期試験は行いません。第8回の報告が60%、各回のアクティブラーニングでの積極性40%とする。
関連科目	
教科書	なし
参考書	宇沢弘文/社会的共通資本/岩波新書/2000：アレックス・ペンランド/小林啓倫訳/ソーシャル物理学/草思社/2015
連絡先	D2号館3F 財部研究室
注意・備考	この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。講義資料は講義開始時に配布する。ワークショップ形式で行うため、50名以上の場合には受講制限する可能性がある。受講生から出された意見にはその都度コメントし、フィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	文学B (FV22C110)
英文科目名	Literature B
担当教員名	大西好幸＊（おおにしよしゆき＊）
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション 日本近代文学の展開を概説する。
2回	近代文学前期（幕開け）として啓蒙主義、写実主義、擬古典主義を取り上げ、解説する。
3回	復習小テスト① 近代文学前期（試み）として浪漫主義、自然主義を取り上げ、解説する。
4回	復習小テスト② 近代文学前期（確立）として反自然主義、新現実主義を取り上げ、解説する。
5回	復習小テスト③ 近代文学後期（脈流）としてプロレタリア文学、新感覚派、「文学界」を取り上げ、解説する。
6回	復習小テスト④ 近代文学後期（再生）として無頼派、第一・二次戦後派、第三の新人、戦後世代を取り上げ、解説する。
7回	復習小テスト⑤ 近代の韻文として近代詩、近代俳句・短歌を取り上げ、解説する。
8回	愛媛に関する文学作品を調べておくこと。これまでの授業内容を総復習し試験に備えておくこと。 【標準学習時間180分】

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。近代文学作品の中で最も印象深い作品について感想をまとめておくこと。【標準学習時間60分】
2回	前回の復習をしておくこと。 教科書「啓蒙主義、写実主義、擬古典主義」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間120分】
3回	前回の復習をしておくこと。 教科書「浪漫主義、自然主義」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間120分】
4回	前回の復習をしておくこと。 教科書「反自然主義、新現実主義」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間120分】
5回	前回の復習をしておくこと。教科書「プロレタリア文学、新感覚派、『文学界』」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間120分】
6回	前回の復習をしておくこと。教科書「無頼派、第一・二次戦後派、第三の新人、戦後世代」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間120分】
7回	前回の復習をしておくこと。教科書「近代詩、近代俳句・短歌」の箇所を読んで予習をしておくこと。【標準学習時間120分】

講義目的	文学の主要作品を手がかりとして、日本や世界の文化の特質、ものの考え方、日本と外国の違いについて、さまざまな観点から考える。作品に登場するさまざまな世界や人間像を考察することによって、文学や社会の構造に対する理解を深めてゆくことを目標とする。文学Bは近代以降の文学作品を対象とし、「文学A」に引き続き、風土、言語、歴史的背景を手掛かりとして、文学作品に表れた近代人の思い、心の動き方、近現代社会での人間模様などを見てゆきたい。 （単位認定の方針Bに強く関与する）
達成目標	(1) 日本近代文学の基礎的な知識を身につける。 (2) 古典文学との関係や西欧文学からの影響について考察し、近代文学の特質を理解する。 (3) 時代背景を手掛かりとして、作品を通して人々の生き方や考え方に触れ、日本の文化・思想・歴史を学び、理解を深める。
キーワード	写実主義、擬古典主義、浪漫主義、自然主義、反自然主義、プロレタリア文学、新感覚派、無頼派、戦後派、近代詩、近代短歌・俳句、日本文学史
成績評価（合格基準60%）	提出物(20%)、小テスト(30%)、最終評価試験(50%)により総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
関連科目	「文学A」を受講していることが望ましい。
教科書	完成 日本文学史ノート 二訂版／兵庫県高等学校教育研究会国語部会編／京都書房／ISBN978-4-7637-2204-1

	(第 1 回目の授業で紹介する) プリントを適宜配布する。
参考書	授業時に適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	日本史B (FV22C120)
英文科目名	Japanese History B
担当教員名	白石成二＊ (しらいしせいじ＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	自己紹介を行う。日本史を学ぶ意義は「多角的なものの見方」や「固定観念の相対化」であることを確認したうえで、授業の進め方について説明する。その後、奈良時代末の称徳・道鏡政権の時代の政変について確認する。その時代、政治は混迷を極めるが、その原因・背景を確認するとともに、この称徳天皇をもって古代の女帝の歴史に幕を下ろすことになったのはなぜかについて検討する。
2 回	桓武天皇の登場のきっかけは父光仁天皇が即位したことであった。政権を掌握するうえで障壁となる勢力を排除していく過程について説明する。桓武天皇の大きな功績は、長岡京・平安京遷都（造都）と東北地方の蝦夷の征圧（征夷）であったが、その二大政策をなぜ実行する必要があったのかについて考える。天皇の天武系の皇統からの転換という意識、渡来系氏族との強い結びつき、怨霊思想などが背景にあったことを説明する。さらにこの桓武天皇の子孫たちが後に「桓武平氏」となっていったのかについても検討する。
3 回	嵯峨天皇の時代は「弘仁の治」と呼ばれ、我が国で唐風化が最も盛んだった時代とされる。その推進役が文人官僚であったことを確認する。そして彼らの知識は遣唐使によって多くもたらされたものであったが、その遣唐使の軌跡を辿ることによって当時の日本外交のあり方を検討する。さらに遣唐使の留学生であった最澄と空海を取り上げ、その仏教の国際性ととともに、その後の日本宗教界に与えた影響について説明する。さらに空海信仰のあらわれとして四国に根付いている四国遍路の現代的意味についても考える。
4 回	文人官僚の頂点を極めた菅原道真と藤原氏との対立・抗争の原因や背景について触れ、道真が猛威をふるう怨霊となり、怨霊思想のピークを迎える。それが今日では「学問の神様」となって厚い信仰を受けるようになったのはなぜかを考える。次に平将門と藤原純友の乱を取り上げ、「承平・天慶の乱」から「天慶の乱」への名称変更について説明する。またこの戦乱が、その後の時代にどのような影響をもたらしたか、さらに勇猛さの象徴とされる武士の実像についても検討する。
5 回	平安王朝、摂関政治の全盛期を演出した藤原道長の政権獲得の過程にふれるとともに、源氏の棟梁源頼光や紫式部の父藤原為時らを取り上げ、道長政権を支えたのは受領階級の人々であったことを確認する。道長の「御堂関白記」や藤原実資の「小右記」の記事を取り上げ、当時の貴族たちの実態について説明する。そして当時の末法思想や浄土教の流布の様相を具体的に上げるとともに、安倍晴明に代表される陰陽師たちの実像に迫る。その陰陽道は平安時代だけでなく、今日の社会にも根強く残存していることを確認する。
6 回	摂関政治の文化は国風文化といわれる。その国風文化の具体的に見ていくとともに「国風」の内容についても考える。紫式部の「源氏物語」を例に取り上げ、その中に中国文化が色濃く残されており、東アジアの交流の中で形成された国際性豊かな作品であることを確認する。その一方で、上級貴族たちが誰一人として外国に赴くことがなかったように、我が国の鎖国的体質についても説明する。また当時の女流文学の作品を残した女性のほとんどは受領層の出身者であったが、それはなぜなのかを検討する。
7 回	貴族の時代から武士の時代への大きな転換の時代にいち早く登場した源氏の台頭の経過について触れ、一方、平氏は源氏に遅れをとったものの、やがて源氏を凌駕し、院政を支える重要な軍事力となっていった。その両者が入り乱れて戦った保元の乱や、その後の平治の乱について具体的に説明する。そしてこの戦乱を経過することによって傭兵的存在であった武士が政権の帰趨を決定することが明らかになり、その結果として平清盛による平氏政権が成立する。この保元・平治の乱をもって中世とするのか、また平氏政権は武家政権であったのかという問題についても検討する。
8 回	第1回から第7回までの授業で扱った事項について、補足説明をする。過去の歴史ではあっても、それは現在の様々な問題と密接に関わっていることを確認する。そのうえで最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	孝謙・称徳天皇と道鏡政権については瀧浪貞子『最後の女帝孝謙天皇』（吉川弘文館）、橋本治『日本の女帝の物語』（集英社新書）、北山茂夫『女帝と道鏡』（中公新書）、その時代の政変については倉本一宏『奈良朝の政変劇』（吉川弘文館）、遠山美都男『古代の皇位継承』（吉川弘文館）などがある。どれか一冊を図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間120分）
2 回	桓武天皇については、井上満郎『桓武天皇』（ミネルヴァ書房）、高橋昌明『京都「千年の都」の

	歴史』（岩波新書）、吉田敏『古代の都はどうつくられたか』（吉川弘文館）、山田雄司『跋扈する怨霊』（吉川弘文館）、蝦夷との戦いについては、熊谷公男『古代の蝦夷と城柵』（吉川弘文館）、高橋崇『坂上田村麻呂』（吉川弘文館）、樋口知志『阿弭流為』（ミネルヴァ書房）、高橋富雄『辺境』（教育社）などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間120分）
3回	嵯峨朝の政治については佐々木恵介『平安京の時代』（吉川弘文館）、吉川真司『平安京』（吉川弘文館）、遣唐使については古瀬奈津子『遣唐使の見た中国』（吉川弘文館）、最澄と空海については、篠原資明『空海と日本の思想』（岩波新書）、木内堯大・多田孝正『最澄』（創元社）、後藤昭雄『天台仏教と平安朝文人』（吉川弘文館）、速水侑『呪術宗教の世界』（塙新書）、星野英紀・浅川泰宏『四国遍路』（吉川弘文館）などがある。図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間120分）
4回	菅原道真については坂本太郎『菅原道真』（吉川弘文館）、将門・純友については村上春樹『将門記』（山川出版社）、樋口州男『将門伝説の歴史』（吉川弘文館）、松原弘宣『藤原純友』（吉川弘文館）、下向井龍彦『純友追討記』（山川出版社）、森公章『古代豪族と武士の誕生』（吉川弘文館）などがある。図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間120分）
5回	藤原道長と受領については、北山茂夫『藤原道長』（岩波新書）、山中裕『藤原道長』（吉川弘文館）、瀧谷寿『藤原道長』（ミネルヴァ書房）、倉本一宏『藤原道長の日常生活』（講談社現代新書）、同『藤原道長の権力と欲望』（文春新書）、古瀬奈津子『摂関政治』（岩波新書）、森田悌『受領』（教育社）、繁田信一『安陪清明』（吉川弘文館）、元木泰雄『源満仲・頼光』（ミネルヴァ書房）などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間120分）
6回	平安期の女流文学については、清水好子『紫式部』（岩波新書）、秋山虔『源氏物語』（岩波新書）、瀧谷寿『源氏物語の風景』（吉川弘文館）、瀧浪貞子『源氏物語を読む』（吉川弘文館）、岸上慎二『清少納言』（吉川弘文館）、山中裕『和泉式部』（吉川弘文館）、王朝文化については、保立道久『平安王朝』（岩波新書）、木村朗子『女たちの平安宮廷』（講談社選書）、服藤早苗『平安朝女性のライフサイクル』（吉川弘文館）などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間120分）
7回	武士の成立・台頭については、五味文彦『中世社会のはじまり』（岩波新書）、同『殺生と信仰－武士を探る』、元木泰雄『武士の成立』（吉川弘文館）、野口実『列島を翔る平安武士』（吉川弘文館）、保元・平治の乱から平氏政権の成立については、曾我良成『物語がつくった驕れる平家』（臨川書店）、元木泰雄『源頼義』（吉川弘文館）、五味文彦『平清盛』（吉川弘文館）などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間120分）
8回	ここまでの授業内容についての復習を行うこと。（標準学習時間120分）

講義目的	「日本史A」に続き、日本列島内における近世以降の歴史を扱い、武士の台頭、明治維新など近現代へとつながる時系列の中で日本がどのような社会を形成してきたか、また文化や信仰・宗教がどのように変遷したかに関して講義を展開する。そのプロセスで歴史的な事象から得られる情報について、批判、そして客観的に再構築できる力を得ることが講義の目的である。諸要素を時系列の中で客観的に把握し、その因果関係をはじめ、歴史的な事象とその背景について、分析できる力と、その分析結果について深く考察できる力を得ることが達成すべき目標である。 （単位認定の方針Bに強く関与する）
達成目標	我が国の古代から武家政権の成立、中世の幕開けまでを取り上げる。その時代の諸要素を時系列の中で客観的に把握し、その因果関係をはじめ、歴史的な事象とその背景について、分析できる力と、その分析結果について深く考察できる力を習得する。
キーワード	「奈良時代」「平安時代」「最澄・空海」「平将門・藤原純友」「摂関政治」「武士」「平安文学」「国風文化」「清和源氏」「桓武平氏」「保元・平治の乱」「平氏政権」
成績評価（合格基準60	最終評価試験100%により成績を評価する。
関連科目	日本史A
教科書	使用しない。授業の進行過程で資料・プリント等を配布する。
参考書	日本社会の歴史（上）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305004：日本社会の歴史（中）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305012：日本社会の歴史（下）／網野善彦／岩波新書／I S B N 4004305020：教養としての日本史（上）（下）／白石成二／創風社／ISBN：978-4-86037-233-0 時代ごとの参考文献は「準備学習」の項で紹介しているので参照すること。また授業の進行過程でも適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
注意・備考	（１）第１回目から毎回出席をとるので、十分注意すること。（２）ケガ、病気、その他で欠席した場合、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出することが必要となる。（３）これら証明するものや、活動報告書等がない場合は欠席扱いとなるので、十分注意して受講すること。
試験実施	実施する

科目名	外国史B (FV22C130)
英文科目名	World History B
担当教員名	松澤仁志＊ (まつざわひとし＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション。講義の進め方、歴史学習の意義について説明する。
2 回	近代ヨーロッパ世界の成立について概観する。
3 回	近代国民国家の発展について説明する。
4 回	アメリカ合衆国の建国と発展について説明する。
5 回	帝国主義とアジアの民族運動について説明する。
6 回	二つの世界大戦の背景と展開について説明する。
7 回	第二次世界大戦後の世界について説明する。
8 回	これまでの学習内容の復習をし、疑問点を明らかにしておくこと (180分)

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んで、学習の流れを把握しておくこと (60分)
2 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (120分)
3 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (120分)
4 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (120分)
5 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (120分)
6 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (120分)
7 回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと (120分)

講義目的	歴史を学ぶことは、年号を覚えることだけではないことを気づかせ、現代を生きる我々が、どのような歴史を持って今に至っているかを「外国史A」に続いて考え、将来を歩む人生観の形成に資することを目的とする。現代社会は19世紀のヨーロッパによる世界侵略がベースとなって形作られていることは確かであるが、その動きに対して世界の各地域の人々がどのように対応してきたのか、世界の現代史を決定づけたともいえよう。本講義では、近代以降の歴史の流れの中で、世界がお互いにどういう形で影響しあってきたのかを中心に解説する。 (単位認定の方針Bに強く関与する)
達成目標	近代から現代までの世界史の流れを概観するとともに、歴史的考察力、判断力、及び、未来を展望する力を培う。
キーワード	
成績評価 (合格基準60)	講義中の課題 (30%)、最終評価試験 (70%) により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	「外国史A」を履修していることが望ましい。
教科書	市民のための世界史／桃木 至朗他／大阪大学出版会／ISBN487259469X：ニュース ページ世界史詳覧／／浜島書店／ISBN4834320251
参考書	
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。 また、電子メールでも質問を受け付ける。(メールアドレスは講義初回に公開する)
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	政治学 B (FV22C140)
英文科目名	Political Science B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 地域社会、国際社会について概説する。
2 回	地方分権－地方自治－について講義する。
3 回	主要国の政治体制－議院内閣制と大統領制－について講義する。
4 回	国境を超える政治－国際政治のアクター－について講義する。
5 回	冷戦の終わりからテロとの戦いへについて講義する。
6 回	自由民主主義体制の諸原理（1）－日本国憲法における自由－について講義する。
7 回	自由民主主義体制の諸原理（2）－日本国憲法における平等－について講義する。
8 回	これまで扱ったテーマを再度振り返り重要なポイントを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、講義内容を把握しておくこと。
2 回	第 5 章を読んでおく。
3 回	議院内閣制と大統領制を調べておく。
4 回	第 1 2 章を読んでおく。
5 回	第 1 0 章を読んでおく。
6 回	日本国憲法における自由を調べておく。
7 回	日本国憲法における平等を調べておく。
8 回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。

--	--

講義目的	本講義では、政治学の基礎知識を学ぶとともに、現代の社会や政治を自分の頭で捉えるための視点と考え方を身につける。また、「政治学A」に引き続き、現在進行中の重要な時事問題を講義の素材として活用し、現代政治の意味をさらに深めて考えたい。本講義の目標は、現代政治についての基本的知識とその捉え方を修得し、現代の政治について自分の考えを持つことである。政治学Bでは、主として、＜政治の仕組み＞及び＜政治と世界＞について学ぶ。
達成目標	本講義の目標は、現代政治についての知識とその捉え方を修得し、特に国際社会という視点から政治を理解し基本的な用語を説明できること、また新聞やニュースの記事を正しく理解できることである。
キーワード	政治学、現代政治、現代社会、地方分権、政治体制、議院内閣制、大統領制、国際政治、自由民主主義、冷戦、テロ
成績評価（合格基準60	最終評価試験（100％）により評価する。
関連科目	日本国憲法、社会と人間AB、経済学AB、国際関係論AB
教科書	はじめて出会う政治学【第3版】／真淵・久米・北山著／有斐閣アルマ／978-4-641123687
参考書	NEW教科書シリーズ政治学／山田光矢編／弘文堂／978-4-335001925 その他必要に応じて適宜指示する。
連絡先	（研究室等確定後に記載）
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	経済学B (FV22C150)
英文科目名	Economics B
担当教員名	山中高光* (やまなかたかみつ*)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	[オリエンテーション] [マクロ経済をとらえる枠組み]GDP統計、三面等価、物価、経済成長、寄与度、成長方程式、総需要、総供給などマクロ経済の動きをとらえる枠組みを説明する。
2回	[有効需要と乗数メカニズム]財市場の均衡、短期のGDPの決定メカニズム、有効需要の原理、乗数メカニズムについて説明する。
3回	[貨幣と金融]貨幣の機能、日本のマネーストック、金融システム、信用創造、貨幣市場の均衡、金融政策について説明する。
4回	[マクロ経済政策]財市場と貨幣市場(資産市場)の同時均衡、利子率とGDPの決定、財政政策・金融政策の効果、フィリップス曲線について説明する。
5回	[インフレ・デフレと失業]インフレーション、デフレーション、失業、について説明する。
6回	[経済成長と経済発展]経済成長のメカニズム、ハロッド＝ドーマーの成長モデル。新古典派の成長理論、内省的経済成長モデルについて説明する。
7回	[国際経済学]比較優位、自由貿易、国際収支、為替レート、マンデル＝フレミングモデルについて説明する。
8回	[まとめ] 1回から7回までに学んだマクロ経済学の復習とより進んだ学習のために若干のガイダンスを行う。 後半45分で試験を行う。

回数	準備学習
1回	テキストの予習。新聞を読む習慣を身に付ける。市場経済の動きを新聞やTV等で把握しておくこと。関連するマクロ経済統計の推移を把握しておくこと。テキストの練習問題を解く。
2回	テキストの予習。新聞を読む習慣を身に付ける。市場経済の動きを新聞やTV等で把握しておくこと。関連するマクロ経済統計の推移を把握しておくこと。テキストの練習問題を解く。
3回	テキストの予習。新聞を読む習慣を身に付ける。市場経済の動きを新聞やTV等で把握しておくこと。関連するマクロ経済統計の推移を把握しておくこと。テキストの練習問題を解く。
4回	テキストの予習。新聞を読む習慣を身に付ける。市場経済の動きを新聞やTV等で把握しておくこと。関連するマクロ経済統計の推移を把握しておくこと。テキストの練習問題を解く。
5回	テキストの予習。新聞を読む習慣を身に付ける。市場経済の動きを新聞やTV等で把握しておくこと。関連するマクロ経済統計の推移を把握しておくこと。テキストの練習問題を解く。
6回	テキストの予習。新聞を読む習慣を身に付ける。市場経済の動きを新聞やTV等で把握しておくこと。関連するマクロ経済統計の推移を把握しておくこと。テキストの練習問題を解く。
7回	テキストの予習。新聞を読む習慣を身に付ける。市場経済の動きを新聞やTV等で把握しておくこと。関連するマクロ経済統計の推移を把握しておくこと。テキストの練習問題を解く。
8回	すべての講義を復習しておくこと。

講義目的	基本的な経済理論を理解できるようになること、様々な経済問題を科学的・論理的に把握できるようになることを目標とする。経済現象は日々変化しており、その把握は経済理論の助けなしでは困難なものがある。本講義では、経済現象に対する科学的・論理的な冷静なる視点を養うことを目的として、若干の数学を用いながら、経済理論の最も基本的な部分を講義する。主として、個々の経済主体や個々の市場の経済行動を取り扱うミクロ経済理論について講義する。経済学Bではその中でも特に市場について講義する。また、国レベルでの経済行動を取り扱うマクロ経済理論の概略についても講義する。 (この講義は教養教育センター単位認定の方針Cに強く関与する)
達成目標	1. 基本的な経済理論を理解できる。 2. 様々な経済問題を科学的・論理的に把握できる。
キーワード	マクロ経済学、GDP統計、乗数モデル、IS-LM分析、マクロ経済政策、財政政策、金融政策、インフレ・デフレ、失業、経済成長、国際経済学
成績評価 (合格基準60)	最終評価試験100%

関連科目	経済学 A
教科書	入門経済学第4版／伊東元重／日本評論社／ISBN 978-4-535-55817-5
参考書	経済学・入門 第3版／塩澤 修平／有斐閣／ISBN 978-4-641-22004-1 ：マンキュー入門経済学 第2版／マンキュー／東洋経済新報社／ISBN9784492314432 その他授業中に随時紹介する
連絡先	授業終了後に教室などで質問を受け付ける。また電子メールで質問を受け付ける（メールアドレスは講義初回に公開する）。
注意・備考	講義では、微分を利用する。 試験形態は計算問題も含め筆記試験とする。
試験実施	実施する

科目名	心理学B (FV22F111)
英文科目名	Psychology B
担当教員名	矢野葉子＊ (やのようこ＊)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 1時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション、および心理学で取り扱う、感じる－動く－考えるとはなにか？そして自分とはなにか？について概説し、今後の講義方針を説明する
2 回	感じる－知覚、情動/感情、について、概説する
3 回	動く－行動、学習について、概説する
4 回	考える－認知、思考について、概説する
5 回	感じる-動く-考える～レスポナント条件づけ、およびオペラント条件づけについて、概説する
6 回	自分とは－パーソナリティについて、概説する
7 回	今まで学んだ心理学的知見に基づいて、身近な問題に照らし合わせながら、概説する
8 回	感じる-動く-考える、とはなにか？そして自分とはなにか？について、前回までの講義内容をおさらいした上で改めて概説し、後半45分で最終評価試験を行う

回数	準備学習
1 回	日常生活において、ある出来事が起こったときに、「自分が抱いた感情/取った行動/浮かんだ考え」について、数例まとめておく(120分)
2 回	日常生活において、ある出来事が起こったときに「自分がどんな感覚および感情を抱いたか」について、数例記録しておく(120分)
3 回	日常生活において、ある出来事が起こったときに「自分がどんな行動をしたか」について、数例記録しておく(120分)
4 回	日常生活において、ある出来事が起こったときに「思い浮かんだ考え」について、数例記録しておく(120分)
5 回	日常生活において、ある出来事が起こる前と起こった後にそれぞれ、抱いた感情/取った行動/浮かんだ考え？について、数例記録しておく(120分)
6 回	自分とは何か？自分を理解するとはどういうことなのか？について、自分なりの考えやイメージをまとめておく(120分)
7 回	日常生活において、自分が疑問を抱いたり困っていることに対して、今まで学んだ心理学的知見がどのように役立つかを自分なりに考えておく(120分)
8 回	これまでの講義内容を振り返り、疑問点を明らかにしておく(120分)

講義目的	現代心理学が明らかにした人間の行動の仕組みに関する研究成果を、特定の学派や立場にかたよらないように体系化して概説する。そして、心理学に関する基本的な知識を理解させ、よりよい人間性の育成を目指す。そのため、心の健全な発達、社会への適応のあり方、人間関係論など、幅広いトピックを扱う。心理学Bでは、動機、感情、パーソナリティについての基本的な知識を理解し、説明できること、また心理学の知見を日常に役立てることを達成目標とする。 (単位認定の方針Bに強く関与する)
達成目標	心理学についての基本的な知識を理解し、日常生活を心理学的な視点から捉え、説明できるようになること
キーワード	
成績評価 (合格基準60)	講義中の課題(60%) 最終評価試験(40%)
関連科目	心理学A
教科書	使用しない
参考書	講義中に紹介する
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける
注意・備考	講義中の課題については、その講義時間内に解答例を示し、フィードバックを行う
試験実施	実施する

科目名	法学B（FV22F121）
英文科目名	Law B
担当教員名	渡邊剛央（わたなべたけひさ）
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 1時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	民法の基本原則について学ぶ。私的自治の原則とその修正，民法の全体構造について学ぶ。
2 回	能力について学ぶ。契約を結ぶことができるのは誰か（権利能力），未成年者のように単独で契約を結ぶことができない者（制限行為能力者）について学ぶ。
3 回	意思表示について学ぶ。どうすれば契約が成立するのか，逆にどういう場合に契約が成立しないのかについて学ぶ。
4 回	契約に関するルールについて学ぶ。同時履行の抗弁権，危険負担，瑕疵担保責任について学ぶ。
5 回	家族法について学ぶ。婚姻の成立要件，離婚の成立要件，相続の方法について学ぶ。
6 回	罪刑法定主義について学ぶ。罪刑法定主義の存在意義，具体的内容について学ぶ。
7 回	違法性阻却事由について学ぶ。正当行為，正当防衛，緊急避難について学ぶ。
8 回	具体的な犯罪について学ぶ。どのような行為が犯罪として定められているのかについて学ぶ。そのうえで総合評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	民法の構造がどのようなになっているのかについて調べてみること。
2 回	配布資料を読んで，キーワードとその意味を把握すること。
3 回	配布資料を読んで，キーワードとその意味を把握すること。
4 回	配布資料を読んで，キーワードとその意味を把握すること。
5 回	配布資料を読んで，キーワードとその意味を把握すること。
6 回	配布資料を読んで，キーワードとその意味を把握すること。

7回	配布資料を読んで、キーワードとその意味を把握すること。
8回	配布資料を読んで、キーワードとその意味を把握すること。

講義目的	普段は気に留めないが、私たちは、常に法規範に取り巻かれて生活している。いざお互いの利益が衝突したり権利が侵害されると、法が顕在化し、私たちは法に則って問題を解決することになる。法は社会における問題解決基準となり得る。では、法とは何か。判例を通して、身近な具体的問題を取り上げつつ、自由・財産・犯罪等の観点から法というものを考察することが本講義の目的である。法学Bで主として取り扱う分野は「民法」と「刑法」である。公法と私法、民事法と刑事法の基礎概念の理解と区別ができること。日々生起する政治的・社会的事象に対して、法的問題構成と解決ができるリーガルマインド(法的判断能力)を養成することが達成すべき目標である。
達成目標	○契約に関するルールを説明できるようになること。 ○家族法について説明できるようになること。 ○刑法の基本原則について説明できるようになること。
キーワード	民法, 刑法
成績評価（合格基準60	各回に実施する基礎力テスト（比率10%）および応用力テスト（比率40%），最終評価試験（比率50%）により評価する。100点満点に換算し，60点以上で合格とする。
関連科目	法学の基礎についての学習は法学Aで行うので，それを履修した後でこの講義を受講するのが望ましい。
教科書	講義で資料を配布する。
参考書	民法入門（第7版）／川井健／有斐閣／978-4641136250：刑法入門（岩波新書）／山口厚／岩波書店／978-4004311362
連絡先	（研究室等確定後に記載）
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	社会と人間B (FV22F131)
英文科目名	Society and Human Beings B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 1時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の概要、進め方、評価方法について説明する。 日本を取り巻く国際情勢を把握することの意義について説明する。
2 回	TPPが与える日本社会への影響について解説する。
3 回	安全保障法制（集団的自衛権）について解説する。
4 回	地球温暖化対策（パリ協定）が抱える諸問題について解説する。
5 回	農業改革の現状と課題について解説する。
6 回	日本の領土問題について解説する。
7 回	EUが抱える諸問題、アジアの政治経済について解説する。
8 回	これまでに取り上げたテーマのポイント総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、講義内容を把握しておくこと。
2 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと。
3 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと。
4 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと。
5 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと。
6 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと。
7 回	講義のテーマについて事前に調べておくこと。
8 回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現する。そして、この「社会」には一定のルールと秩序が存在する。そこでは、そのルールと秩序を巡って、色々な対立が起き、様々な人間模様、社会問題が生まれる。この講義では、「市民性＝社会参画の権利と義務」「社会的責任」をテーマにして議論する。題材は、女性の社会進出、地球環境、企業の社会的責任、裁判員制度等の現在進行形の社会時事問題である。受講生が良き市民として成長し、状況をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけばよいかを学ぶことが講義の目的である。憶測や予見を排して問題点を観察し、自主的・主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、・それを言葉や文章で表現出来ることを達成すべき目標とする。
達成目標	①報道内容をそのまま受け止めるのではなく、自分なりの考えを持って判断できること ②国際情勢を踏まえた上で、日本の抱える問題を捉えることができること 問題に対する自分なりの判断を、言葉や文章で表現できることを目標とする。
キーワード	社会問題、時事、TPP、安全保障、集団的自衛権、地球温暖化、農業改革、日本の領土、EU、アジア
成績評価（合格基準60	最終評価試験（100％）により評価する。
関連科目	社会と人間A、政治学AB、教養演習AB、日本国憲法、国際関係論AB、経済学AB
教科書	使用しない。必要に応じ適宜資料を配布する。
参考書	『最新時事用語＆問題（月間新聞ダイジェスト別冊号）』最新号、『公務員時事用語＆問題』最新年度版、その他必要に応じ適宜紹介する。
連絡先	（研究室等確定後に記載）
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編 B (FV22P111)
英文科目名	Technical Writing (Basic) B
担当教員名	戸田修司 (とだしゅうじ)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 レポートおよび小論文、就職活動におけるエントリーシートにおける文書作成の重要性、また自身の考えを的確に他人に伝えるポイントを説明する。 提出課題①「あなたが自慢できること」
2 回	何人かの提出課題①を皆で共有し、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に個々が提出課題①を修正出来るように指導する。 提出課題②「友人から学んだこと」
3 回	何人かの提出課題②を皆で共有し、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に個々が提出課題②を修正出来るように指導する。 提出課題③「今までで最も努力したこと」
4 回	何人かの提出課題③を皆で共有し、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に個々が提出課題③を修正出来るように指導する。 提出課題④「社会人としての責任」
5 回	何人かの提出課題④を皆で共有し、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に個々が提出課題④を修正出来るように指導する。 提出課題⑤「最近印象に残ったニュースについて」
6 回	何人かの提出課題⑤についてグループワークを行い、各自調べてきたことを基に内容を確認し、自身の考えをまとめる。何人かの考えを提示し、どうすれば説得力のある内容になるかを指導する。 提出課題⑥「男女共同参画社会について」
7 回	何人かの提出課題⑥についてグループワークを行い、各自調べてきたことを基に内容を確認し、自身の考えをまとめる。何人かの考えを提示し、どうすれば説得力のある内容になるかを指導する。
8 回	これまでの講義で取り上げた文章作成のポイントを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認し、学習の進め方を把握しておくこと。 予習：提出課題①の概要を作成する。
2 回	提出課題①の完成文を作成する（次回提出）。 提出課題②の概要を作成する。

3回	提出課題②の完成文を作成する（次回提出）。 提出課題③の概要を作成する。
4回	提出課題③の完成文を作成する（次回提出）。 提出課題④の概要を作成する。
5回	提出課題④の完成文を作成する（次回提出）。 提出課題⑤について調べる。
6回	提出課題⑤の完成文を作成する（次回提出）。 提出課題⑥について調べる。
7回	提出課題⑥の完成文を作成する（次回提出）。 これまでの講義内容を振り返り、文章作成のポイントを整理する。

講義目的	本講義の目標は、文章に対する苦手意識をさらに克服できるよう、ピアレビューやグループワークを行う。このとき、友人のレポートを読んだり、互いにコメントしあうことで、切磋琢磨しながら、学ぶことになる。また、レポート作成のスキルを高めるため、1200字程度の学術的なレポートを課題にだし、その完成をとおして、文章力を向上させる。他の講義のレポート課題やビジネスでの文書にも応用できるよう、汎用的な文章の書き方を学ぶ。
達成目標	①個々の文章の条件に合わせた文章表現ができること ②自身の考えの根拠を具体的に示し、説得力のある文章を作成できること グループワークを行うことで、文章を作成することに対する苦手意識を克服すること目標とする。
キーワード	レポート、小論文、エントリーシート、自己分析、自己表現、文章表現、アイデア、文章構成、概要、要約、作文
成績評価（合格基準60	課題提出(60%)、最終評価試験(40%)により評価する。
関連科目	文章表現法基礎編、学びの基礎論AB、教養演習AB、インターンシップ概論、インターンシップABC

教科書	使用しない。
参考書	必要に応じて適宜指示する（適宜資料を配布する）。
連絡先	（研究室等確定後に記載）
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	プレゼンテーション基礎編B（FV22P121）
英文科目名	Presentation Skills (Basic) B
担当教員名	小林忠資（こばやしただし）
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義の概要、進め方、評価方法等の説明) グループの編成を行う。
2回	課題発表のテーマの設定 日頃の問題意識からテーマを選び、目的、方法を決める。
3回	調べた内容をまとめる 調査結果をまとめるとともに、プレゼンテーションを作成する。【演習】
4回	プレゼンテーションを完成させる 論理展開、聞き手の分かりやすさを考えた説明の順番を考える。【演習】
5回	よいプレゼンテーションについて考える プレゼンテーションを評価するためのルーブリックを各自で作成する。【演習】
6回	プレゼンテーションのリハーサル ルーブリックの修正を行う。【演習】
7回	最終プレゼンテーション① 発表とフィードバックを実施する。【演習】
8回	最終プレゼンテーション② 発表とフィードバックを実施する。【演習】

回数	準備学習
1回	講義の目的を理解し、シラバスを確認しておくこと。
2回	課題を考えてくること。
3回	決めた方法にしたがい、参考文献の収集を行いながら調べ学習を行う。
4回	スライドの構成を考えてくること。
5回	どうすればよいプレゼンテーションができるか考えてくること。
6回	プレゼンテーションの練習を行うこと。
7回	原稿を見ないでプレゼンテーションできるようにすること。
8回	原稿を見ないでプレゼンテーションできるようにすること。

講義目的	本講義の目標は、高度なプレゼンテーションの技法を学び、学会発表や研究発表等が効果的に行えるようにすることである。より実践的にプレゼンテーションのトレーニングを行う。テーマを決め、プレゼンテーションを作成させ、グループ内での発表とクラス全体での発表を組みあわせ、発表の機会を増やす。友人の発表を批判的に見ることで、そこでの気づきを自分のプレゼンテーションに反映させる。
達成目標	①特定のテーマについて目的と方法を明確にして、調査を行い、その結果をスライドにまとめることができる ②自分の主張を根拠やデータを用いてスライドにまとめることができる ③聴衆を前にした発表の場で、アイコンタクトを取り、適切な速度や声量で発表することができる。
キーワード	コミュニケーション、グループワーク、論理表現、情報収集、情報分析
成績評価（合格基準60	ワークシートの提出（40%） 発表の様子（40%）

	最終評価試験（20％） 発表評価の内訳は、内容構成、話し方、図表の使い方とする。 ※2回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は、2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ※グループワーク、プレゼン作成およびプレゼン発表（リハーサルも含む）の欠席の場合は、その時点で評価対象としない。
関連科目	
教科書	特定の教科書は使用しない
参考書	適宜指示する
連絡先	（研究室等確定後に記載）
注意・備考	・本授業は、プレゼンテーション基礎編Aを履修していることがのぞましい。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。ただし、私語については、グループワークを行うときはこの限りではない。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしまっておくこと。 ・パワーポイントを利用した実習をおこなう。 ・グループワークがあるため、理由なき欠席は認めない。 ・受講生の既習知や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。
試験実施	実施する

科目名	企業と人間B (FV22W110)
英文科目名	Industry and Humans B
担当教員名	寺田盛紀 (てらだもりき)
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	日本的経営の「三種の神器」とそれと関連した雇用慣行（新規学卒採用と企業内教育）について概説する。
2 回	キャリア形成1：日本の企業の従業員採用慣行（「就職」）について、「就社」という概念も活用し、海外の例も参考にして概説する。
3 回	キャリア形成2：年功制について様々のデータを参考にして、賃金制度、昇進制度の視点から、講述する。「内部労働市場」という議論も紹介する。
4 回	キャリア形成3：終身雇用の歴史的展開、近年の実態について、「新時代の日本的経営」以降の複線型雇用形態との関連で講述する。
5 回	キャリア形成4：従業員の意思決定へのコミットメントについて、企業内労使関係（労働組合）、経営参加、各種提案制度、職場懇談会などを取り上げて説明する。
6 回	キャリア形成5：企業内キャリアを構築する上で間接的作用を果たしている配置転換、ジョブ・ローテーション/エンリッチメント、企業内等級制度などの人材管理・開発施策について説明する。
7 回	キャリア形成6：従業員教育（企業内教育）のシステムの歴史展開、実態について、OJTに焦点をあてて、講述する。
8 回	これまでの講義で理解に至らなかった諸点について、総括的な質疑を行う。講義の後半（45分）で、最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	「日本的経営」と用語について適切な倍他を通して調べておくこと。
2 回	就職活動のプロセスを取材しておくこと。
3 回	父母、きょうだいから「年功制」について、ヒヤリングをしておくこと。
4 回	「終身雇用」という用語について簡潔に答えられるようにしておくこと。
5 回	経営参加の例を調べておくこと。
6 回	近親者から、配置転換の経験を取材しておくこと。
7 回	就職後の新人教育についてヒヤリングしておくこと。
8 回	講義ノートの再整理、参考文献の主内容をノートに書き取っておき、試験に備えること。また、理解に至らなかった点について質問できるようメモをしておくこと。

講義目的	当事者意識を喚起することによって、意欲のある学生の自分では気づいていない潜在能力や可能性を最大限に伸ばすことが達成目標である。企業や経済のしくみ、社会人・組織人に求められる責任範囲や能力についての理解、および、より良い人間関係の構築や自己の能力を発揮するために不可欠な知識や能力の習得を促す。また、「経営とは何か」「組織マネジメントの意味」を具体的に理解させることにより、日本のリーディング企業の経営戦略を理解させ「良い会社とは何か」を考えさせる。（教養教育センター単位認定方針Cに強く関与する）
達成目標	企業・職業生活の人間形成作用や、キャリア形成・発達のために従業員教育・学習が重要であることを理解できるようにすること。
キーワード	キャリア形成、労働市場、企業内教育、人間関係
成績評価（合格基準60	最終評価試験100%により成績を評価し、総計60%以上で合格とする。
関連科目	キャリア形成講座
教科書	キャリア教育論－若者のキャリアと職業観の形成／寺田盛紀／学文社／ISBN-13：978-4762024757
参考書	
連絡先	
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	キャリア形成講座B (FV22W120)
英文科目名	Career Design B
担当教員名	渡邊剛央(わたなべたけひさ), 小林忠資(こばやしただし), 戸田修司(とだしゅうじ)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	少子化対策についてのグループ・ディスカッションを行う。 (全教員)
2回	学校内のいじめについてのグループ・ディスカッションを行う。 (全教員)
3回	貧困問題についてのグループ・ディスカッションを行う。 (全教員)
4回	安楽死・尊厳死についてのグループ・ディスカッションを行う。 (全教員)
5回	過労死についてのグループ・ディスカッションを行う。 (全教員)
6回	セクシャル・ハラスメントについてのグループ・ディスカッションを行う。 (全教員)
7回	動物病院における医療ミスについてのグループ・ディスカッションを行う。 (全教員)
8回	ペットの殺処分についてのグループ・ディスカッションを行う。 (全教員)

回数	準備学習
1回	少子化の原因と対策について考えてくること。
2回	学校内のいじめの原因と対策について考えてくること。
3回	日本における貧困の原因と対策について考えてくること。

4回	安楽死・尊厳死についてのグループ・ディスカッションを行う。
5回	過労死の原因と対策について考えてくること。
6回	セクシャル・ハラスメントの原因と対策について考えてくること。
7回	動物病院における医療ミスの原因と対策について考えてくること。
8回	ペットの殺処分の現状について調べ、ペットの殺処分に対する自分の考えをまとめてくること。

講義目的	社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）の理解および習得とレベルアップを講座の目的とする。講義はアクティブラーニング手法による実践的演習を軸として展開し、個人→ペア→チームといった段階的レベルアップワークの徹底により、即戦力人材となるための能力習得を図る。講義は実社会の現場で日々起こるテーマを題材にし、能力の顕在化と実践的応用力の習得も目的とする。加えて、ビジネス心理学、人口問題等の社会動向、国際感覚、CSRマインドなどの現代テーマも盛り込み、課題解決力を身につけるための知識・技術の習得と自らのキャリアをデザインする力の醸成も行う。
達成目標	○社会問題に対する解決策を生み出せるようになること。 ○他人と協力して目標を達成することができるようになること。
キーワード	キャリア形成, グループ・ディスカッション
成績評価（合格基準60	各回のグループによる発表の評価（比率50%）と個人が提出するレポートの評価（比率50%）を100点満点に換算し、60点以上で合格とする。
関連科目	キャリア形成講座A
教科書	教科書は使用しない。
参考書	ロジカル・ディスカッションーチーム思考の整理術／堀公俊・加藤彰／日本経済新聞出版社／97

	8-4532490805
連絡先	(研究室等確定後に記載)
注意・備考	
試験実施	実施しない

科目名	現代人の科学A (FV22W130)
英文科目名	Science Literacy D
担当教員名	柳井徳磨＊（やないとくま＊）
対象学年	1 年
開講学期	春2
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	人はなぜ学ばなくてはならないのか。 基本的な学びの姿勢について、東西の「人類の教師」の学びの仕方を学習する。特に「真理」をどう追求するか？学びは生き方をどう変えるか？などについて考える機会を提示する。
2 回	地球・生命について科学：138億年の進化 宇宙の誕生から人類の登場まで、進化の過程および謎について学習する。
3 回	日本の自然と風土 以下の日本の風土に関するテーマについて科学的側面を中心に解説する。 ① 風土とは何か？ ② 日本列島の成り立ち ③ 日本人はどこから来たか？ ④ 縄文人と弥生人 ⑤ 神話と日本人？
4 回	日本・アジアの自然と風土 以下の日本とアジアの風土と歴史に関するテーマについて比較して解説する。 ① アジアの定義と構成要因は？ ② 東南アジアの国々とその風土の特徴について ③ 東アジアの国々とその風土の特徴について ④ 日本と他のアジアの歴史・分化の比較。 ⑤ 日本人およびその文化の特色は何か
5 回	自然環境の病気 以下の地球規模で発生している災害や異常気象について基礎的な概要について科学的側面を含めて解説する。 ① 酸性雨と森林破壊、砂漠化 ② 地球温暖化と気象異常 ③ 食糧不足・人口問題
6 回	環境・食物に由来する病気 環境およびそこから得られた食物に起因した種々の疾病について概要を学習する。 ① 糖尿病 ② がん ③ 老化
7 回	免疫を高め自分を病気から守る I 自分や家族を病気から守るための日常的な習慣改善の重要性を解説する。 ① 免疫の働きと病気 ② 腸と心が免疫を決めている ③ 免疫の鍵をにぎる腸内細菌 ④ 温熱の健康に与える効果
8 回	免疫を高め自分を病気から守る II： 以下に示す発酵食品の効用と腸内環境の改善、さらに健康に及ぼす影響について解説する。 ① 発酵食品の効用 ② 日本および世界の発酵食品の種類と特徴 ③ その他の健康に有効な食物や天然物（ヤーコン、プロポリスなど）

--	--

回数	準備学習
1回	斎藤孝著「人はなぜ学ばなければならないか」を一読し、自分の日頃からの「学び」について考え、さらに日頃の情報源やそのアプローチの仕方も含めて整理しておく。
2回	谷合稔著「地球・生命－138億年の進化」を一読し、生命誕生から人類への進化までの歩みを概略理解しておく。特に生命の起源について、概略説明できることは、生物系の学生に不可欠と思われる。
3回	谷合稔著「地球・生命－138億年の進化」「日本人のルーツ」の項を一読し、日本人の祖先が日本列島に定着した過程を概略理解しておく。 また、縄文時代が日本人の形成に及ぼした影響についても、片山一道著「骨が語る日本人の歴史」などを参考に概略理解しておく。さらに神話の時代における東アジアの環境について概略理解しておく。
4回	造事務所編「アジア45ヵ国の国民性」、谷沢永一著「歴史が遺してくれた日本人の誇り」。呉善花著「日本人はなぜ「小さいのち」に感動するのか」などを参考にして、日本と他のアジア諸国の歴史、文化の差異を自分なりに考えておく。
5回	酸性雨と森林破壊、砂漠化、地球温暖化と気象異常、食糧不足・人口問題などのキーワードを基に、インターネットで現在進行中の地球環境の変動、災害などについて調べておく。
6回	糖尿病、がん、老化などのキーワードを基に、インターネットで疾病概要について調べておく。
7回	藤田紘一郎著「免疫力をアップする科学」に目を通し、免疫と健康の関連を概略解しておく。
8回	藤田紘一郎著「人の命は腸が9割」、小泉武夫著「発酵食品礼賛」を参考に、発酵および発酵食品が動物の健康にいかにか概略を理解しておく。

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学・技術リテラシー（知識のみならず科学的なものの見方も含む）を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は、様々な科学・技術分野のトピックスを題材にし、科学・技術リテラシーの向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学A」では、いくつかのトピックスを扱いながら現代科学の到達した自然観の全体的な枠組みを伝える。なお、この科目は特定の分野の基礎知識の修得を前提としない。 本授業の中で、自分たちを取り巻く環境、風土はどのように形成されたのか、また、身近な環境に何が起きているのか、などを理解することで、専門教科への円滑な導入が可能になり、より深い専門知識の理解と習得が期待できる。また、食の健康に及ぼす影響の重要性を理解することで、長い学生生活における学生自身の健康管理の基本的な要点を学習する。最後に、自分の属する社会、日本の立ち位置を学習することで、日本社会の特色と国際社会における長所を認識し、国際社会で生き抜くための拠り所になる「誇り」を身に着けることができる。
達成目標	まず、学ぶという活動の意義を自覚し、あらためて自分たちの住む環境と風土を知ることで、日本人の特性とアジアにおける役割を認識するきっかけとする。 また、自分たちを育ててくれた環境の変化とそれに対する行動の必要性を理解する。さらに、自分の健康を支える食物と腸の役割を腸内環境の観点から認識する。また、伝統的な発酵食品の役割も併せて理解する。人と動物の健康を守るためには、いかに適切な食物を確保する必要があるかを理解しておく。 身近な科学する心の必要性について、自分で考える機会を確保すること。 外国人に日本の風土と歴史を正しく伝えることで、より親密なコミュニケーション力を身に着けさせる。
キーワード	学ぶ、地球、生命、進化、風土、食物、免疫
成績評価（合格基準60	成績は講義期間中に実施するミニテストあるいはレポートの結果40%、最終評価試験60%により成績評価する。総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	人はなぜ学ばなければならないか／斎藤孝／実業の日本社／ISBN978-4-408-45618-8 C0237：地球・生命－138億年の進化／谷合稔／SBクリエイティブ／ISBN978-4-7973-5101-9 C0240：免疫力をアップする科学／藤田紘一郎／ソフトバンク・クリエイティブ／ISBN978-4-408-7973-6414-9 C0247：日本人が教えたい新しい世界史／宮脇淳子／徳間書店／ISBN978-4-19-864173-3
参考書	骨が語る日本人の歴史／片山一道／筑摩書房／ISBN978-4-480-06831-6 C0245：神社に秘められた日本史の謎／新谷尚紀／洋泉社／ISBN978-4-8003-0536-7 C0221：歴史が遺してくれた日本人の誇り／谷沢永一／青春出版社／ISBN9

	78-4-413-04494-3 C0221：日本人はなぜ「小さいのち」に感動するのか ／呉善花／ワック／ISBN978-4-89831-695-5 C0234：アジア45ヵ国 の国民性／造事務所／PHP研究所／ISBN978-4-569-76340-8 C0139 ：人の命は腸が9割／藤田紘一郎／ワニ・プラス／ISBN978-4-8470-6067-0 C0247：発酵食品礼賛／小泉武夫／文芸春秋／ISBN978-4-16-660076- 2 C0277：「森友・加計事件」朝日新聞による戦後最大級の報道犯罪 ／小川榮太郎／飛鳥新聞社／ISBN978-4-86410-574-3
連絡先	(研究室等確定後に記載)
注意・備考	
試験実施	実施する